

平成 24 年度
「これからの地域コミュニティと市民自治の
検討のための基礎調査」 報告書

平成 25 年 3 月

武 蔵 野 市

目次

| | |
|---------------------------------------|-----------|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | 1 |
| 2 調査実施概要 | 1 |
| 第2章 市民・市民活動団体に対するアンケート調査 | 2 |
| 1 アンケート調査の実施概要 | 2 |
| 2 市民アンケート調査結果 | 4 |
| 2-1. 回答者属性..... | 6 |
| 2-2. 地域とのかかわり..... | 10 |
| 2-3. 地域・コミュニティ活動への参加状況 | 20 |
| 2-4. コミュニティセンター・コミュニティ協議会のあり方..... | 33 |
| 2-5. 市民自治のあり方 | 40 |
| 3 団体アンケート調査結果 | 46 |
| 3-1. 団体の概要 | 47 |
| 3-2. 団体の活動状況 | 52 |
| 3-3. 地域とのかかわり..... | 58 |
| 3-4. コミュニティセンターの利用状況・利用意向 | 60 |
| 3-5. 市民自治のあり方 | 65 |
| 第3章 市民ワークショップの開催 | 68 |
| 1 市民ワークショップの実施概要 | 68 |
| 2 市民ワークショップの実施結果概要 | 69 |
| 3 市民ワークショップの実施結果 | 70 |
| 3-1. 2012年12月8日実施分 | 70 |
| 3-2. 2012年12月16日実施分 | 82 |
| 第4章 ヒアリング(グループインタビュー)調査 | 90 |
| 1 ヒアリング(グループインタビュー)調査の実施概要 | 90 |
| 2 実施結果概要 | 91 |
| 3 市民グループインタビュー | 92 |
| 3-1. 実施概要..... | 92 |
| 3-2. 実施結果..... | 92 |

| | | |
|------------|----------------------------------|------------|
| 4 | 団体グループインタビュー | 96 |
| 4-1. | 実施概要..... | 96 |
| 4-2. | 実施結果..... | 96 |
| 5 | コミュニティ協議会グループインタビュー | 99 |
| 5-1. | 実施概要..... | 99 |
| 5-2. | 実施結果..... | 99 |
| 6 | 意見交換会 | 103 |
| 6-1. | 実施概要..... | 103 |
| 6-2. | 実施結果..... | 104 |
| 第5章 | 参考資料 | 109 |
| 1 | アンケート調査票 | 109 |
| 1-1. | アンケート調査票(市民用)..... | 109 |
| 1-2. | アンケート調査票(団体用)..... | 117 |

第1章 調査の概要

1 調査の目的

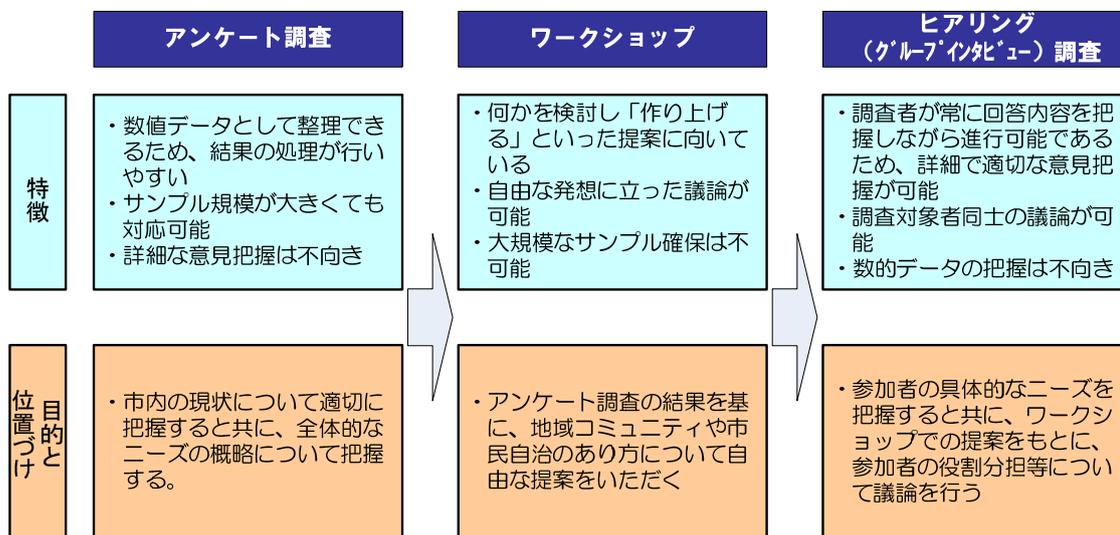
武蔵野市では、「コミュニティ構想」から受け継がれた歴史も長く、地縁型、テーマ型を問わず多様なコミュニティが活動している。しかし、一方で都心部への勤労世帯の多い武蔵野市において、地域コミュニティに参加していない市民も大多数を占めるのではないと思われる。

本調査は、こうした市民に対しても、地域コミュニティについて考える機会をつくるとともに、これまで直接意見を聞くことが少なかった市民の意見を吸い上げ、地域コミュニティを構成する市民や関係団体による幅広い議論の内容に基づき、今後の地域コミュニティや市民自治のあり方について検討するための基礎情報を収集・把握することを目的として実施した。

2 調査実施概要

本調査では、アンケート調査、市民ワークショップ、ヒアリング（グループインタビュー）調査により、市民及び NPO、市民活動団体等から幅広い意見収集を行った。調査方法の特徴と位置づけについては以下に示すとおり。

図表 1 本調査における意見聴取の実施方法と位置づけ



第2章 市民・市民活動団体に対するアンケート調査

1 アンケート調査の実施概要

地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状等を把握し、今後の地域コミュニティのあり方及び、市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的として、武蔵野市民及び市内を中心に活動する市民団体等に対し、「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のためのアンケート調査」を実施した。アンケート調査の実施概要は以下に示すとおり。

図表 2 市民アンケート調査の実施概要

【調査対象】

- ・住民基本台帳から無作為抽出により、武蔵野市に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人を抽出。

【調査内容】

○回答者属性

- ・性別、年齢、職業、世帯構成、家族構成
- ・居住地域、居住年数
- ・近所づきあいの程度

○地域とのかかわり

- ・「地域」のイメージ
- ・「地域」への愛着の有無とその理由
- ・「地域」をより良くするためにあると良いつながり

○市内での地域・コミュニティ活動への参加状況

- ・地域・コミュニティ活動への参加状況、参加意向
- ・活動種別・所属団体
- ・活動に参加したきっかけ、活動を続ける理由
- ・活動に参加するための条件

○コミュニティセンター・コミュニティ協議会のあり方

- ・コミュニティセンターの認知度、認知経路
- ・コミュニティセンターが果たすべき機能
- ・コミュニティ協議会の運営のあり方

○市民自治のあり方

- ・市民自治への参加機会、参加形態
- ・市民が主体的に課題解決を行うために必要なこと
- ・市民自治における行政と市民との役割分担のあり方

【調査方法】

- ・郵送配布・留置・郵送回収

【調査時期】

- ・平成 24 年 10 月初旬～11 月初旬

【回収状況】

- ・997 票/3,000 票（回収率：33.2%）
- ・回答者属性（性別、年齢、居住地区）に大きな偏りは無い

図表 3 団体アンケート調査の実施概要

【調査対象】

- ・市内で活動する市民活動団体 665 団体

【調査内容】

○団体概要

- ・団体名称、活動開始時期、会員数、会員年齢構成、年間予算、収入割合
- ・活動開始のきっかけ

○団体の活動状況

- ・団体の活動目的
- ・会員構成
- ・活動内容、活動場所
- ・活動開始時の課題、活動継続上の課題

○地域とのかかわり

- ・会員数の変化
- ・会員数増加に向けた取組
- ・他団体との協力・連携状況

○コミュニティセンターのあり方

- ・コミュニティセンターの認知度
- ・コミュニティセンターの利用頻度
- ・コミュニティセンターを利用しない理由、利用を止めた理由
- ・コミュニティセンターに求められる役割

○市民自治のあり方

- ・団体活動の成果の地域への貢献
- ・市民自治を実現するために必要な取組
- ・市民自治における行政との役割分担のあり方

【調査方法】

- ・郵送配布・留置・郵送回収

【調査時期】

- ・平成 24 年 10 月初旬～11 月初旬

【回収状況】

- ・361 票/665 票（回収率：56.3%）

2 市民アンケート調査結果

市民アンケートの結果概要は以下に示すとおり。

【近所づきあい】

- ・「会えばあいさつをする」が52.7%と過半を占めた。「困ったときに相談・頼みごとができる」等、比較的密なつきあいをする割合も一定程度ある。

【地域と聞いてイメージする範囲】

- ・「武蔵野市」20.0%、「吉祥寺エリア」14.6%、「町」14.0%の順となったが、ばらつきが見られる。年齢別では、30～40代のみ全体の傾向と異なり、「町」が第1位となった。

【地域に対する愛着】

- ・75.5%が「愛着を感じる」と回答している。また、その理由として、「地域に長年住んでいるから」65.3%が最も多く、次いで「近所に行きつけの店や居場所があるから」46.3%が突出して高い。
- ・また、地域に愛着を感じられるようになる条件としても、「愛着を感じる」と同様の2項目が上位を占めた。

【地域とのかかわり】

- ・地域をより良くするためにあると良いつながりとして、東日本大震災の影響を大きく反映し、「災害時など、いざというときに助け合える」が82.3%と高く、次いで「日常的に気軽にあいさつや会話ができる」68.4%の2項目が突出して高い。
- ・地域の問題を話し合うことや解決するための活動を希望する割合は低い。
- ・今後の意向は、「現状を維持したい」が62.1%と過半を占めている。

【地域・コミュニティ活動への参加状況】

- ・「参加している」割合は1割に留まるが、「今後参加したいと考えている」との合計では過半を占めた。
- ・「今後参加したいと考えている」と回答した人が参加したいと考えている活動の種類の第1位は「防災に関する活動」27.9%である。
- ・活動に参加した人の参加動機は、「活動に関心があった」40.4%、「参加を依頼された」39.7%が突出して高い。また、活動を続ける理由は、「人とのつながり・かかわりがあるから」55.0%が最も多い。

【コミュニティセンター・コミュニティ協議会のあり方】

- ・51.3%が最寄りのコミセンも含めて、知っていると回答している。他方、31.4%が「名前は知っているが、具体的な内容はわからない」としている。
- ・コミセンの認知経路は「近くを通りかかって」51.1%が最も多い。
- ・コミセンに求められる役割・機能については、「市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場」54.7%が最も多い。
- ・コミュニティ協議会の運営のあり方については、若い世代では「地域団体の参画」「行政の関与」への賛成意見が多く、50代以上は「自主性に任せ、行政は支援」への賛成意見が多い。

【市民自治のあり方】

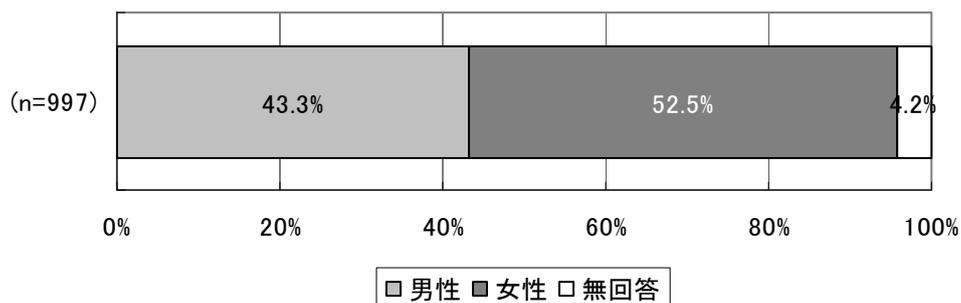
- ・これまで参加した形態・今後参加したいと思う形態ともに、「市が行うアンケート調査」が最も多い。
- ・市民自らが主体的に課題解決を行うためには、「市民が地域に愛着を持つこと」62.0%が最も必要とされた。
- ・行政との役割分担のあり方について、市民や団体と行政の「連携・協働」「適切な役割分担」を求める意見が多い。

2-1. 回答者属性

(1) 性別

性別では、男女の割合はほぼ同程度であるが、「女性」が 52.5%と男性の割合をわずかに上回った。

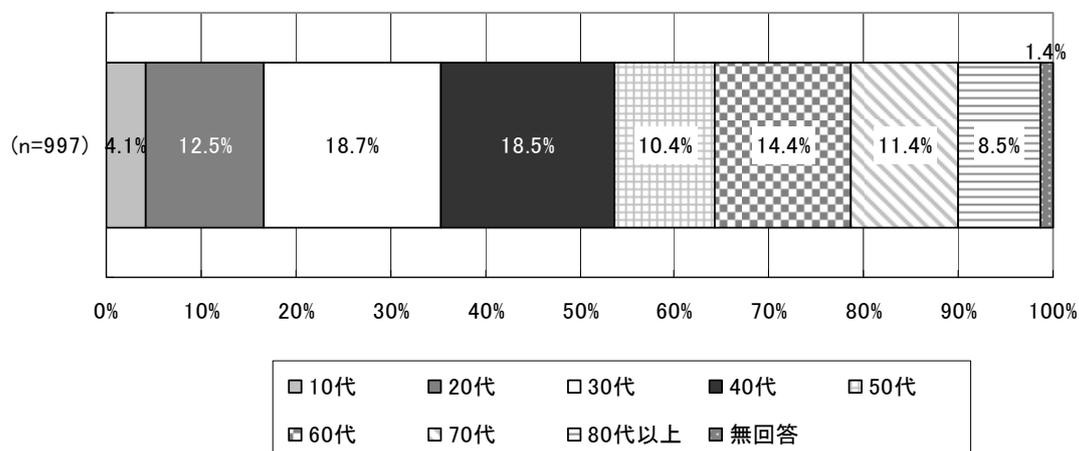
図表 4 回答者の性別（単一回答、n=997）



(2) 年齢

年齢別では、「10代」の割合がやや低いものの、各年齢層ともほぼ同じ割合となっている。

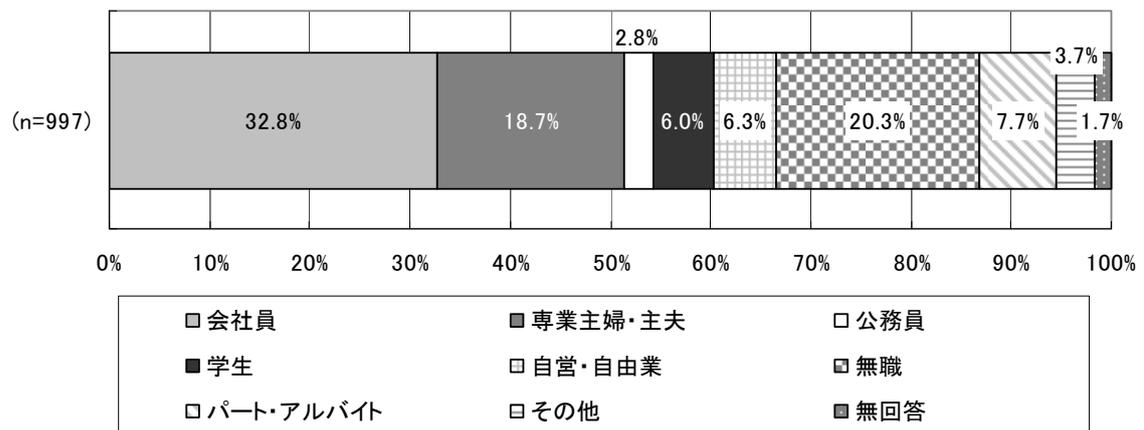
図表 5 回答者の年齢（単一回答、n=997）



(3) 職業

職業別では、「会社員」の割合が32.8%と最も多く、次いで「無職」(20.3%)、「専業主婦・主夫」(18.7%)の順となっている。

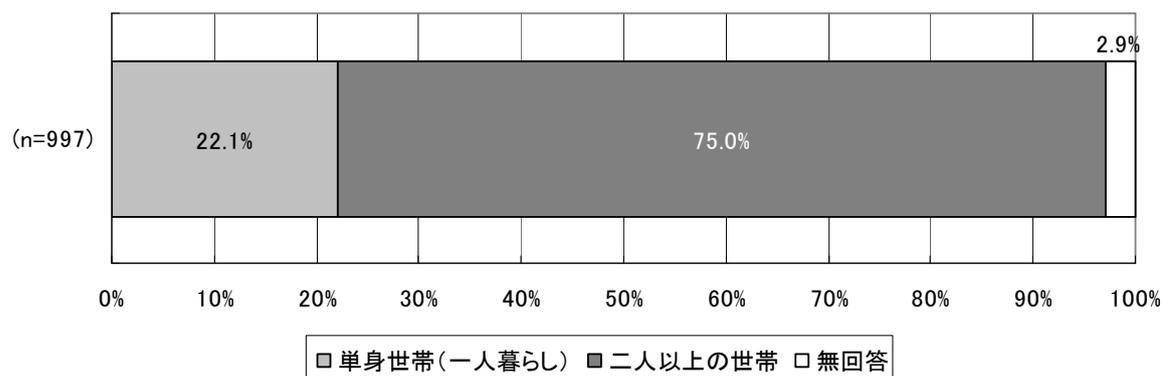
図表 6 回答者の職業 (単一回答、n=997)



(4) 世帯構成

世帯構成別では、「二人以上の世帯」が75.0%と過半を占めている。

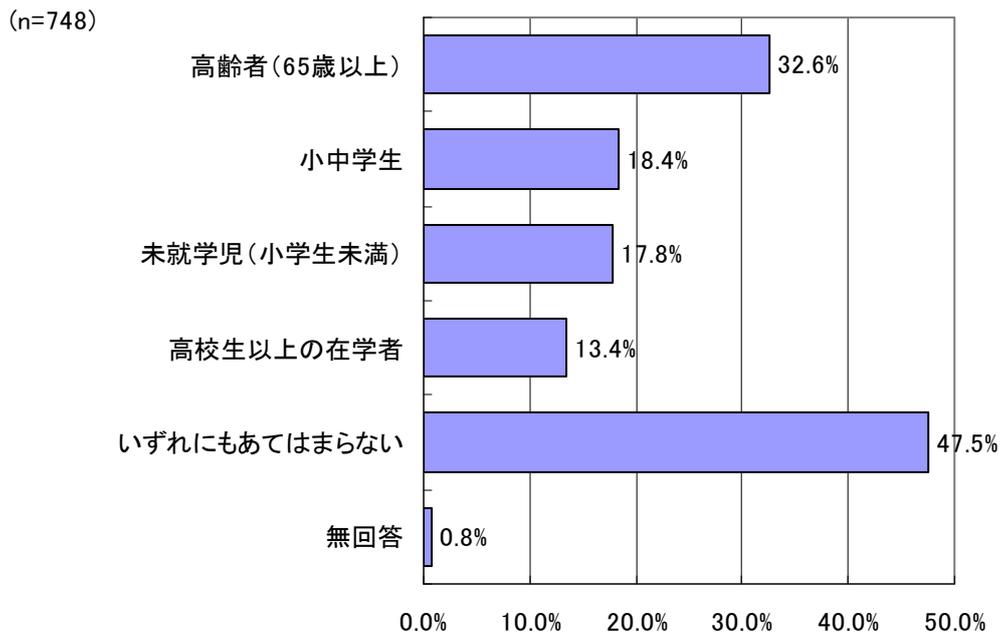
図表 7 回答者の世帯構成 (単一回答、n=997)



(5) 家族構成

(4) で「二人以上の世帯」と回答した人に対し、家族構成について把握したところ、「いずれにもあてはまらない」が47.5%と最も多く、次いで「高齢者」(32.6%)、「小中学生」(18.4%)の順となっている。

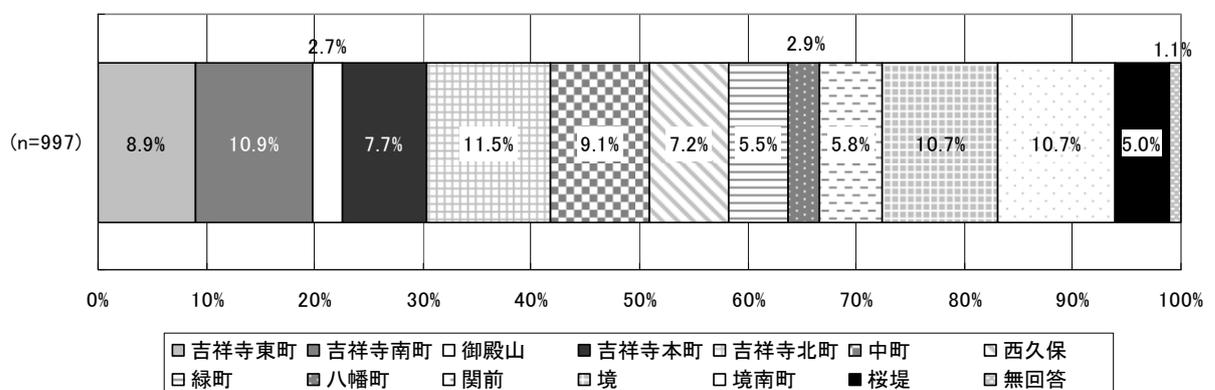
図表 8 回答者の家族構成 (複数回答、n=748)



(6) 居住地区

居住地区別では、各地区ともほぼ同程度の割合となっているが、「御殿山」「八幡町」の割合が他地区と比較してやや低くなっている。

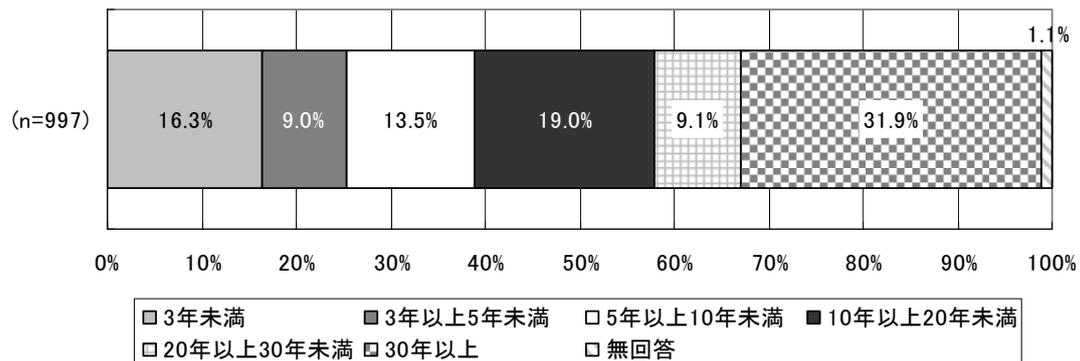
図表 9 回答者の居住地区 (単一回答、n=997)



(7) 居住年数

武蔵野市における居住年数別では、「30年以上」が31.9%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」（19.0%）、「3年未満」（16.3%）となっており、比較的長く居住している住民と、居住年数の短い住民が混在している。

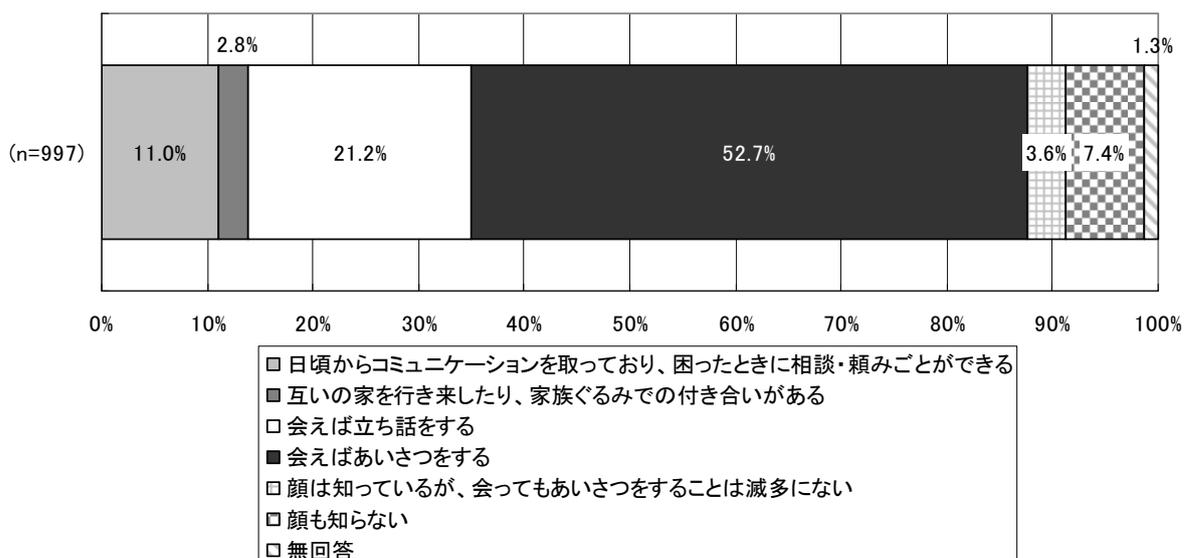
図表 10 回答者の武蔵野市での居住年数（単一回答、n=997）



(8) 近所づきあいの程度

近所づきあいの程度別では、「会えばあいさつをする」が52.7%と過半を占めた。他方、「日頃からコミュニケーションを取っており、困ったときに相談・頼みごとができる」等、比較的密なつきあいをする割合も一定程度ある。

図表 11 近所づきあいの程度（単一回答、n=997）



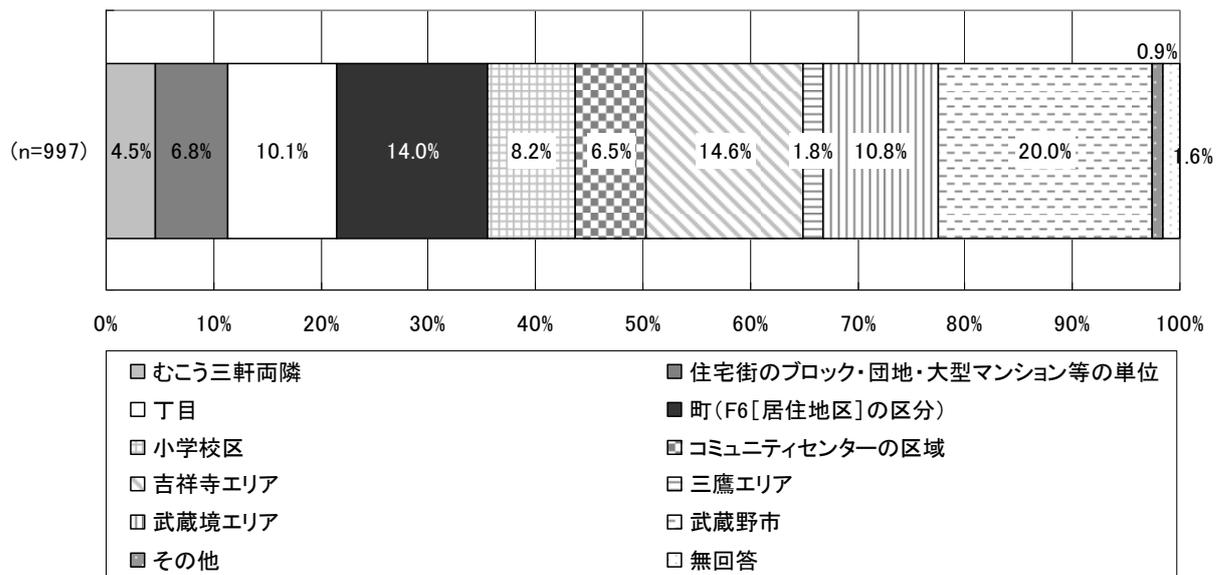
2-2. 地域とのかかわり

(1) 「地域」と聞いてイメージする範囲

① 全体

「地域」と聞いてイメージする範囲について、「武蔵野市」が 20.0%と最も多いが、続く項目では「吉祥寺エリア」（14.6%）、「町（居住地区区分）」（14.0%）と、イメージする範囲にばらつきがみられた。

図表 12 「地域」と聞いてイメージする範囲（単一回答、n=997）



② 性別

性別では、第2位の項目で女性が「町」（14.0%）と、全体との違いがみられた。

図表 13 「地域」と聞いてイメージする範囲（性別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------|---------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 合計(n=997) | 武蔵野市 ----- 20.0% | 吉祥寺エリア ----- 14.6% | 町(F6[居住地区]の区分) ----- 14.0% | 武蔵境エリア ----- 10.8% | 丁目 ----- 10.1% |
| 男性(n=432) | 武蔵野市 ----- 22.0% | 吉祥寺エリア ----- 16.9% | 町(F6[居住地区]の区分) ----- 14.6% | 丁目 ----- 10.6% | 武蔵境エリア ----- 10.4% |
| 女性(n=523) | 武蔵野市 ----- 18.9% | 町(F6[居住地区]の区分) ----- 14.0% | 吉祥寺エリア ----- 13.0% | 武蔵境エリア ----- 11.3% | 小学校区 ----- 10.5% |
| 無回答(n=42) | むこう三軒両隣 ----- 14.3% | 吉祥寺エリア ----- 11.9% | 武蔵野市 ----- 9.5% | 町(F6[居住地区]の区分) ----- 9.5% | 武蔵境エリア ----- 9.5% |

注) クロス表は項目間に顕著な差がみられるもののみ掲載し、上位5位まで掲載した。以下同様。

③ 年齢別

年齢別では、30～40代で第1位が「町」（16.8%）、第4位が「小学校区」（13.2%）と、子育て世代の傾向を反映し、「地域」の範囲は比較的小さな範囲となっている。

また、50～60代で第2位が「町」（13.7%）、第3位が「丁目」（12.9%）となっているほか、70～80代以上で第3位が「むこう三軒両隣」（13.6%）、第4位が「町」（12.1%）となっている。

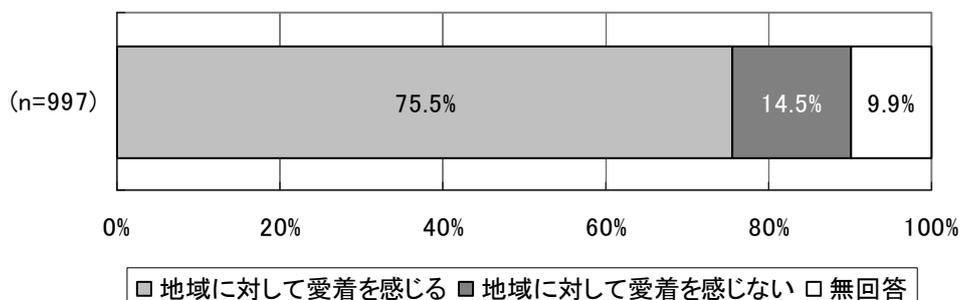
図表 14 「地域」と聞いてイメージする範囲（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------------|----------------|-------------------------|----------------|----------------|--------|
| 合計(n=997) | 武蔵野市 | 吉祥寺エリア | 町(F6[居住地区]の区分) | 武蔵境エリア | 丁目 |
| | 20.0% | 14.6% | 14.0% | 10.8% | 10.1% |
| 10～20代(n=166) | 武蔵野市 | 吉祥寺エリア | 武蔵境エリア | 町(F6[居住地区]の区分) | 丁目 |
| | 26.5% | 20.5% | 12.7% | 12.0% | 7.2% |
| 30～40代(n=370) | 町(F6[居住地区]の区分) | 吉祥寺エリア | 武蔵野市 | 小学校区 | 武蔵境エリア |
| | 16.8% | 14.9% | 14.6% | 13.2% | 11.1% |
| 50～60代(n=248) | 武蔵野市 | 町(F6[居住地区]の区分) | 丁目 | 武蔵境エリア | 吉祥寺エリア |
| | 24.2% | 13.7% | 12.9% | 12.5% | 11.7% |
| 70～80代以上(n=199) | 武蔵野市 | 吉祥寺エリア | むこう三軒両隣 | 町(F6[居住地区]の区分) | 丁目 |
| | 19.6% | 14.1% | 13.6% | 12.1% | 11.1% |
| 無回答(n=14) | 武蔵野市 | 住宅街のブロック・団地・大型マンション等の単位 | 丁目 | 小学校区 | 武蔵境エリア |
| | 14.3% | | | | 7.1% |

(2) 「地域」に対する愛着の有無

「地域」に対する愛着の有無については、「愛着を感じる」が75.5%と約8割にのぼる。

図表 15 「地域」に対する愛着の有無（単一回答、n=997）

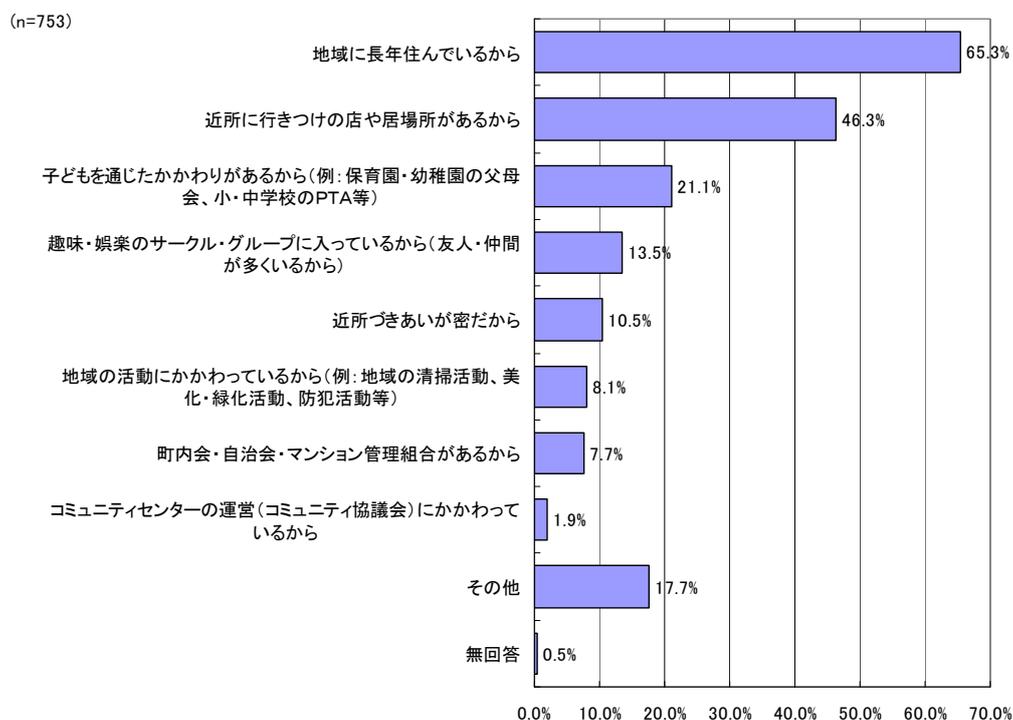


(3) 「地域」に対して愛着を感じる主な理由

① 全体

(2) で「愛着を感じる」と回答した人に対し、その理由を把握したところ、「地域に長年住んでいるから」（65.3%）が他を圧倒して高く、次いで「近所に行きつけの店や居場所があるから」（46.3%）と併せて突出して高くなっている。

図表 16 「地域」に対して愛着を感じる主な理由（複数回答（3つまで）、n=753）



② 年齢別

年齢別では、30～40代で第1位が「近所に行きつけの店や居場所があるから」（45.5%）となっているほか、70～80代以上で第3位が「趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから（友人・仲間が多くいるから）」（22.6%）となっている。

図表 17 「地域」に対して愛着を感じる主な理由（年齢別クロス）

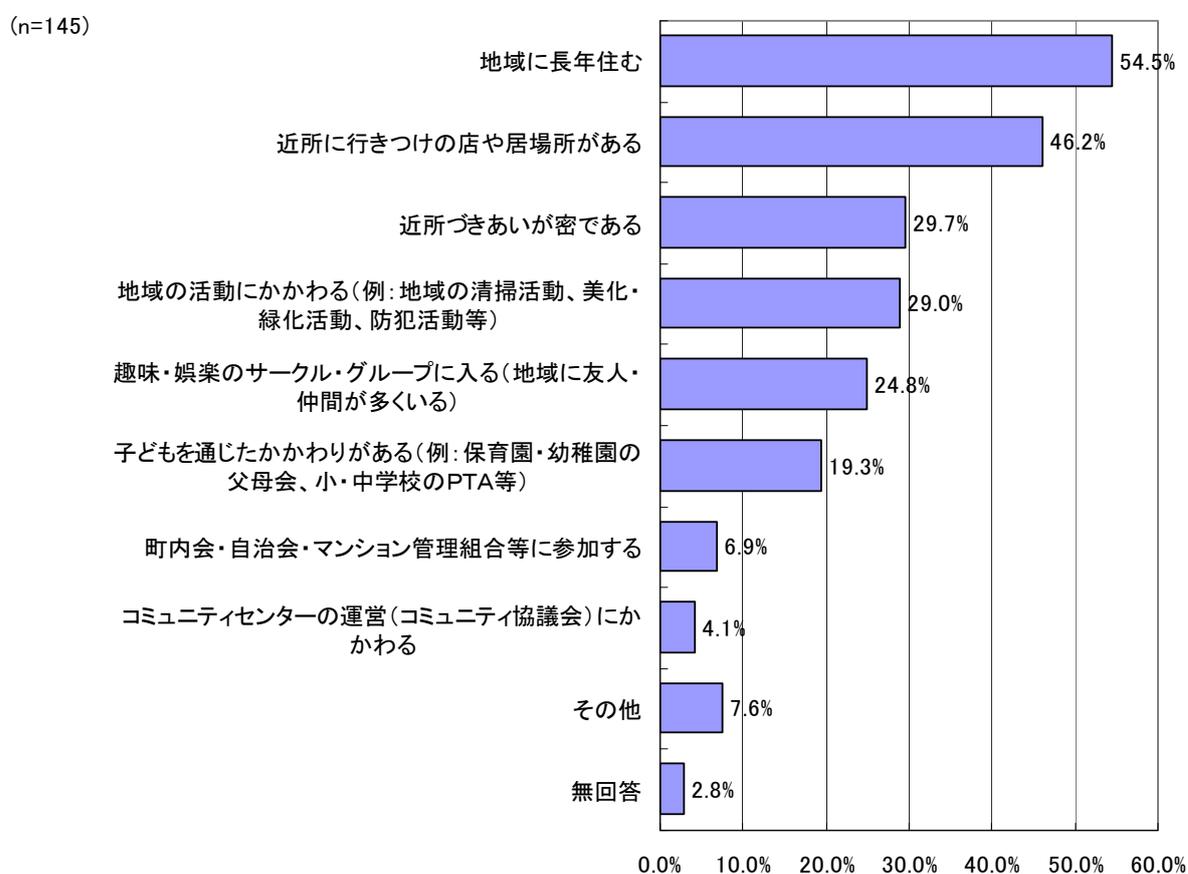
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|---|--|---|
| 合計(n=753) | 地域に長年住んでいるから 65.3% | 近所に行きつけの店や居場所があるから 46.3% | 子どもを通じたかかわりがあるから(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 21.1% | その他 17.7% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから(友人・仲間が多くいるから) 13.5% |
| 10～20代(n=113) | 地域に長年住んでいるから 61.1% | 近所に行きつけの店や居場所があるから 56.6% | その他 16.8% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから(友人・仲間が多くいるから) 15.0% | 子どもを通じたかかわりがあるから(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 7.1% |
| 30～40代(n=257) | 近所に行きつけの店や居場所があるから 45.5% | 地域に長年住んでいるから 45.1% | 子どもを通じたかかわりがあるから(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 41.6% | その他 21.4% | 近所づきあいが密だから 10.9% |
| 50～60代(n=209) | 地域に長年住んでいるから 77.5% | 近所に行きつけの店や居場所があるから 51.7% | その他 20.1% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから(友人・仲間が多くいるから) 14.8% | 子どもを通じたかかわりがあるから(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 12.4% |
| 70～80代以上(n=168) | 地域に長年住んでいるから 83.9% | 近所に行きつけの店や居場所があるから 33.3% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから(友人・仲間が多くいるから) 22.6% | 近所づきあいが密だから 13.7% | 地域の活動にかかわっているから(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) 12.5% |
| 無回答(n=6) | 地域に長年住んでいるから 66.7% | 近所に行きつけの店や居場所があるから 33.3% | 地域の活動にかかわっているから(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) 33.3% | 近所づきあいが密だから 16.7% | 町内会・自治会・マンション管理組合があるから 16.7% |

(4) 「地域」に対して愛着を感じられる条件

① 全体

(2) で「愛着を感じない」と回答した人に対し、愛着を感じられる条件について把握したところ、「地域に長年住む」が 54.5%と最も多く、次いで「近所に行きつけの店や居場所がある」(46.2%)と、第2位までは0と同様の結果となった。第3位については「近所づきあいが密である」(29.7%)となっており、既に愛着を持っている市民の認識との間にギャップが伺える。

図表 18 「地域」に対して愛着を感じられる条件（複数回答（3つまで）、n=145）



② 年齢別

年齢別では、50～60代で第1位が「近所に行きつけの店や居場所がある」（44.0%）、第2位が「趣味・娯楽のサークル・グループに入る（地域に友人・仲間が多くいる）」（40.0%）、第3位が「地域に長年住む」「地域の活動にかかわる」（32.0%）、第5位が「近所づきあいが密である」（28.0%）となっており、全体の傾向と異なる。また、70～80代以上で第1位が「近所づきあいが密である」（41.7%）、第2位が「地域に長年住む」（33.3%）、第3位が「地域の活動にかかわる」「趣味・娯楽のサークル・グループに入る（地域に友人・仲間が多くいる）」（25.0%）、第5位が「町内会・自治会・マンション管理組合等に参加する」（16.7%）となっており、全体の傾向と異なっている。

10～20代、30～40代についても第3位以降の項目が全体の傾向と異なっており、10～20代では第4位が「趣味・娯楽のサークル・グループに入る（地域に友人・仲間が多くいる）」（20.0%）、第5位が「子どもを通じたかかわりがある」（17.1%）、30～40代では第3位が「地域の活動にかかわる」（35.6%）、第4位が「子どもを通じたかかわりがある」（27.4%）、第5位が「近所づきあいが密である」（26.0%）となっている。

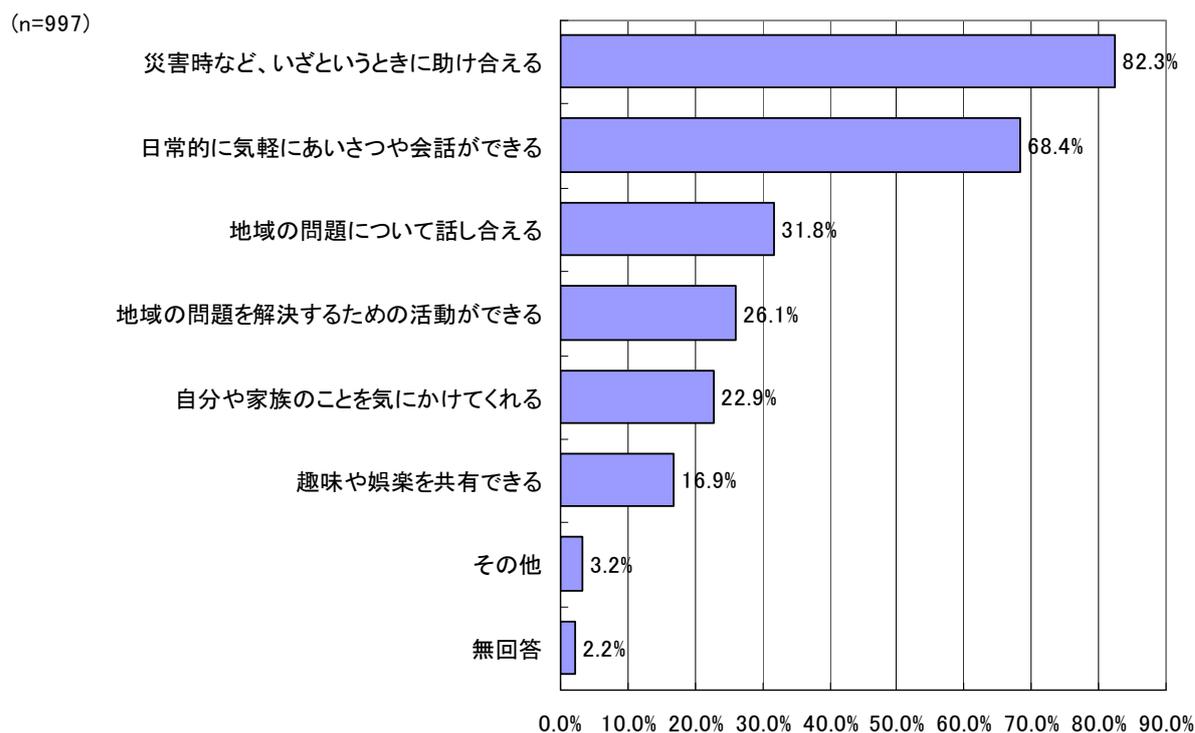
図表 19 「地域」に対して愛着を感じられる条件（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|----------------|---------------------------|--|--|---|---|
| 合計(n=145) | 地域に長年住む 54.5% | 近所に行きつけの店や居場所がある 46.2% | 近所づきあいが密である 29.7% | 地域の活動にかかわる(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) 29.0% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入る(地域に友人・仲間が多くいる) 24.8% |
| 10～20代(n=35) | 地域に長年住む 71.4% | 近所に行きつけの店や居場所がある 54.3% | 近所づきあいが密である 34.3% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入る(地域に友人・仲間が多くいる) 20.0% | 子どもを通じたかかわりがある(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 17.1% |
| 30～40代(n=73) | 地域に長年住む 57.5% | 近所に行きつけの店や居場所がある 47.9% | 地域の活動にかかわる(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) 35.6% | 子どもを通じたかかわりがある(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) 27.4% | 近所づきあいが密である 26.0% |
| 50～60代(n=25) | 近所に行きつけの店や居場所がある 44.0% | 趣味・娯楽のサークル・グループに入る(地域に友人・仲間が多くいる) 40.0% | 地域に長年住む | 地域の活動にかかわる(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) 32.0% | 近所づきあいが密である 28.0% |
| 70～80代以上(n=12) | 近所づきあいが密である 41.7% | 地域に長年住む 33.3% | 地域の活動にかかわる(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) | 趣味・娯楽のサークル・グループに入る(地域に友人・仲間が多くいる) 25.0% | 町内会・自治会・マンション管理組合等に参加する 16.7% |

(5) 「地域」をより良くするためにあると良いつながり

「地域」をより良くするためにあると良いつながりについては、「災害時など、いざというときに助け合える」(82.3%)、「日常的に気軽にあいさつや会話ができる」(68.4%)の2項目の割合が突出して高くなっている。

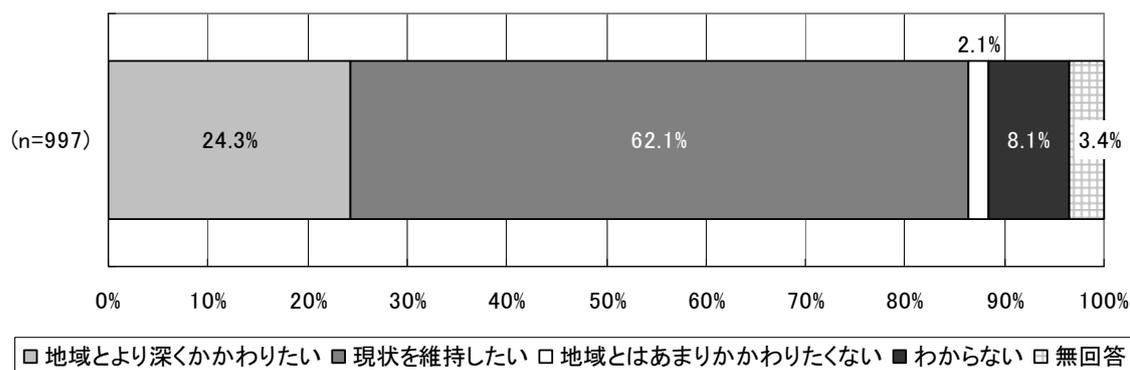
図表 20 「地域」をより良くするためにあると良いつながり (複数回答、n=997)



(6) 「地域」とのかかわりに関する今後の意向

「地域」とのかかわりに関する今後の意向について、「現状を維持したい」の割合が62.1%と過半を占めている。

図表 21 「地域」とのかかわりに関する今後の意向（単一回答、n=997）

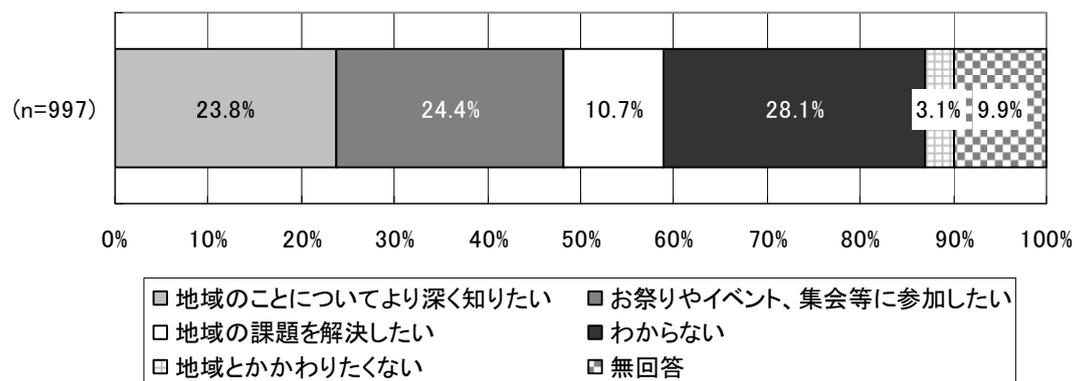


(7) 今後の「地域」とのかかわり方

① 全体

今後の「地域」とのかかわり方については、「お祭りやイベント、集会等に参加したい」（24.4%）、「地域のことについてより深く知りたい」（23.8%）が比較的多くなっている一方、「わからない」と回答した人も同程度みられた。

図表 22 今後の「地域」とのかかわり方（単一回答、n=997）



② 年齢別

年齢別では、30～40代で第1位が「お祭りやイベント、集会等に参加したい」（34.1%）、70～80代以上で第1位が「地域のことについてより深く知りたい」（26.1%）と年代階層により差がみられる。

図表 23 今後の「地域」との関わり方（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|----------------|--|--|--|--|----------------------------------|
| 合計(n=997) | わからない ----- 28.1% | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 24.4% | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 23.8% | 地域の課題を解決 したい ----- 10.7% | 地域とかかわりたく ない ----- 3.1% |
| 10～20代(n=166) | わからない ----- 36.7% | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 30.7% | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 19.9% | 地域の課題を解決 したい ----- 7.8% | 地域とかかわりたく ない ----- 1.8% |
| 30～40代(n=370) | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 34.1% | わからない ----- 28.4% | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 22.4% | 地域の課題を解決 したい ----- 7.6% | 地域とかかわりたく ない ----- 3.5% |
| 50～60代(n=248) | わからない ----- 28.6% | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 25.0% | 地域の課題を解決 したい ----- 18.1% | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 16.1% | 地域とかかわりたく ない ----- 2.4% |
| 70～80代以上(n=14) | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 26.1% | わからない ----- 19.6% | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 11.6% | 地域の課題を解決 したい ----- 10.6% | 地域とかかわりたく ない ----- 4.5% |
| 無回答(n=14) | 地域のことについ てより深く知りたい ----- 50.0% | わからない ----- 28.6% | お祭りやイベント、 集会等に参加した い ----- 21.4% | 地域の課題を解決 したい ----- 0.0% | 地域とかかわりたく ない ----- 0.0% |

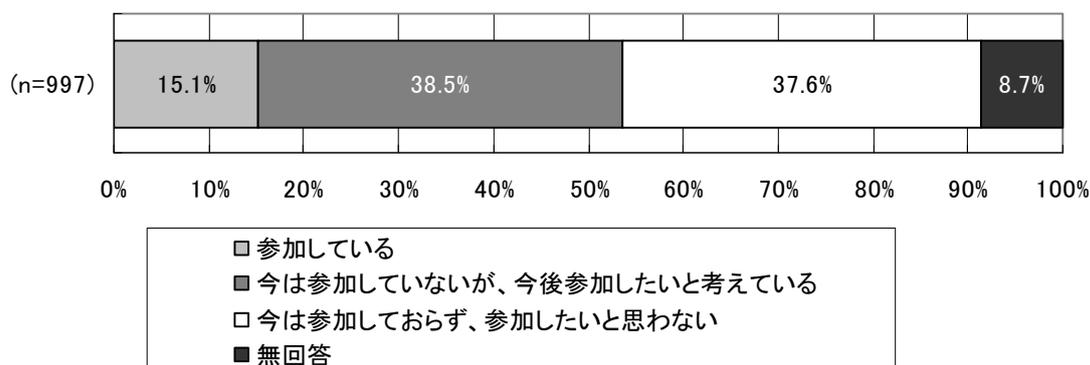
2-3. 地域・コミュニティ活動への参加状況

(1) 地域・コミュニティ活動への参加状況

① 全体

地域・コミュニティ活動への参加状況については、「参加している」の割合は1割程度に留まるものの、「参加している」「今は参加していないが、今後参加したいと考えている」の合計では過半を占めている。

図表 24 地域・コミュニティ活動への参加状況（単一回答、n=997）



② 性別

性別では、女性の第1位が「今は参加しておらず、参加したいと思わない」（36.7%）となっており、全体の傾向と差がみられる。

図表 25 地域・コミュニティ活動への参加状況（性別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 |
|-----------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 合計(n=997) | 今は参加していないが、今後参加したいと考えている 38.5% | 今は参加しておらず、参加したいと思わない 37.6% | 参加している 15.1% |
| 男性(n=432) | 今は参加していないが、今後参加したいと考えている 41.9% | 今は参加しておらず、参加したいと思わない 38.7% | 参加している 12.3% |
| 女性(n=523) | 今は参加しておらず、参加したいと思わない 36.7% | 今は参加していないが、今後参加したいと考えている 36.3% | 参加している 17.6% |
| 無回答(n=42) | 今は参加しておらず、参加したいと思わない 38.1% | 今は参加していないが、今後参加したいと考えている 31.0% | 参加している 14.3% |

③ 年齢別

年齢別では、10～20代、70～80代で第1位が逆転し「今は参加しておらず、参加したいと思わない」（10～20代：45.8%、70～80代：37.7%）が、「今は参加していないが、今後参加したいと考えている」を上回っている。

図表 26 参加している地域・コミュニティ活動の団体（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 |
|---------------------|---|---|-----------------------------------|
| 合計(n=997) | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 38.5% | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 37.6% | 参加している 15.1% |
| 10～20代(n=166) | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 45.8% | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 39.2% | 参加している 4.8% |
| 30～40代(n=370) | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 42.7% | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 37.8% | 参加している 13.2% |
| 50～60代(n=248) | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 42.3% | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 32.7% | 参加している 18.5% |
| 70～80代以上 (n=199) | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 37.7% | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 24.1% | 参加している 22.6% |
| 無回答(n=14) | 今は参加していないが、 今後参加したいと考えて いる 57.1% | 参加している | 今は参加しておらず、参 加したいと思わない 21.4% |

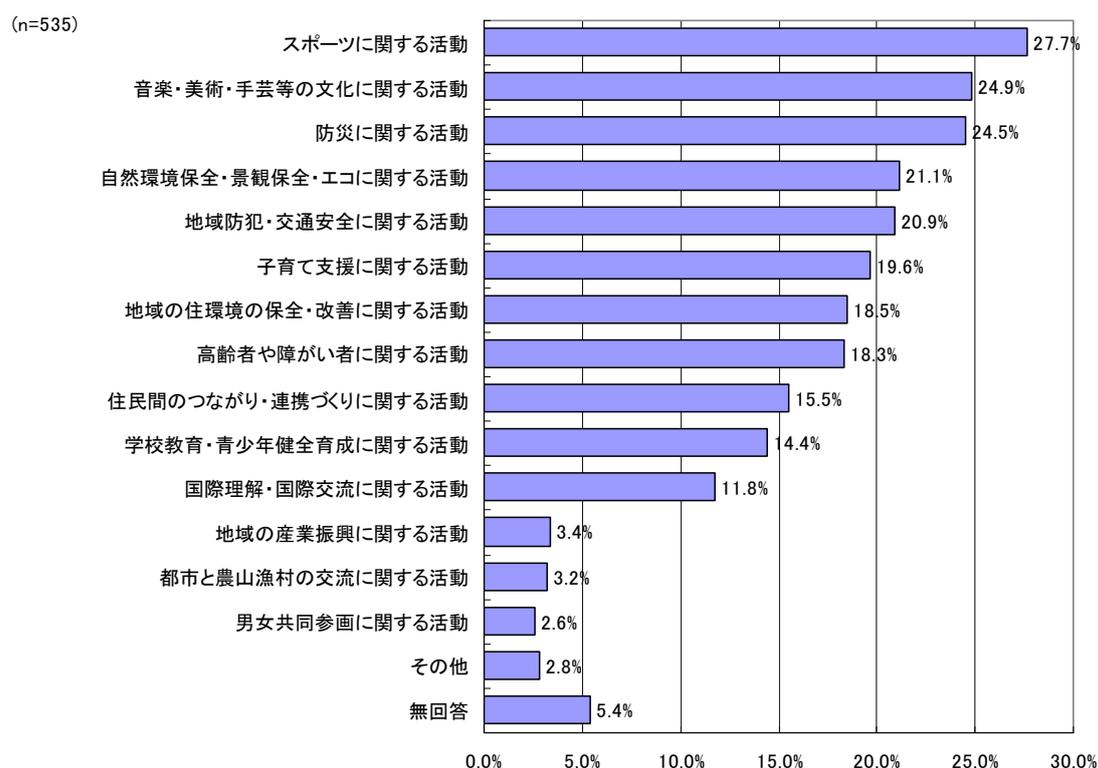
(2) 参加している/参加したい地域・コミュニティ活動の種類・団体

① 全体

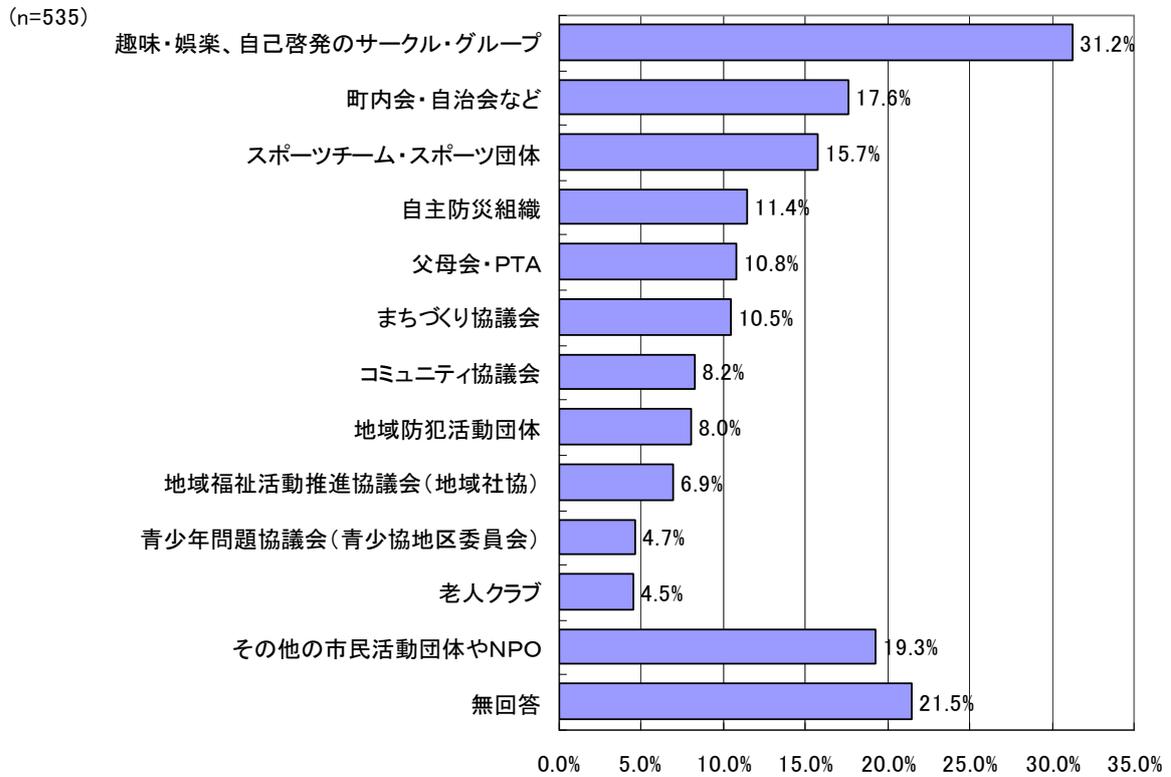
(1) で「地域・コミュニティ活動に参加している」または「今後参加したいと考えている」と回答した人に対し、参加している（したい）地域・コミュニティ活動の種類について把握したところ、「スポーツに関する活動」が 27.7%と比較的高く、次いで「音楽・美術・手芸等の文化に関する活動」（24.9%）、「防災に関する活動」（24.5%）、「自然環境保全・景観保全・エコに関する活動」（21.1%）、「地域防犯・交通安全に関する活動」（20.9%）の順となっている。

活動している（したい）地域・コミュニティ活動の団体について把握したところ、「趣味・娯楽・自己啓発のサークル・グループ」が 31.2%と最も多く、次いで「町内会・自治会など」（17.6%）、「スポーツチーム・スポーツ団体」（15.7%）、「自主防災組織」（11.4%）、「父母会・PTA」（10.8%）の順となっている。

図表 27 参加している（したい）地域・コミュニティ活動の種類（複数回答（回答数3つまで）、n=535）



図表 28 参加している（したい）地域・コミュニティ活動の団体（複数回答（回答数3つまで）、n=535）



② 参加状況別

参加状況別では、参加している（したい）地域・コミュニティ活動の種類について、実際に活動に参加していると回答した人で、第3位以降に全体との差がみられるほか、今後参加を考えていると回答した人で、第1位が「防災に関する活動」（27.9%）と社会影響を受けた回答となっているほか、第2位で「スポーツに関する活動」（26.0%）、第3位で「音楽・美術・手芸等の文化に関する活動」（24.7%）となっている。

また、参加している（したい）地域・コミュニティ活動の団体について、実際に活動に参加していると回答した人で、第2位が「町内会・自治会など」「その他の市民活動団体やNPO」（21.2%）、第4位が「父母会・PTA」（19.2%）等となっている。

図表 29 参加している地域・コミュニティ活動の種類（参加状況別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|---------------------------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 合計(n=535) | スポーツに関する活動 27.7% | 音楽・美術・手芸等の文化に関する活動 24.9% | 防災に関する活動 24.5% | 自然環境保全・景観保全・エコに関する活動 21.1% | 地域防犯・交通安全に関する活動 20.9% |
| 参加している(n=151) | スポーツに関する活動 31.8% | 音楽・美術・手芸等の文化に関する活動 25.2% | 高齢者や障がい者に関する活動 23.8% | 学校教育・青少年健全育成に関する活動 22.5% | 住民間のつながり・連携づくりに関する活動 20.5% |
| 今は参加していないが、今後参加したいと考えている(n=384) | 防災に関する活動 27.9% | スポーツに関する活動 26.0% | 音楽・美術・手芸等の文化に関する活動 24.7% | 自然環境保全・景観保全・エコに関する活動 24.2% | 地域防犯・交通安全に関する活動 22.7% |

図表 30 参加している地域・コミュニティ活動の団体（参加状況別クロス）

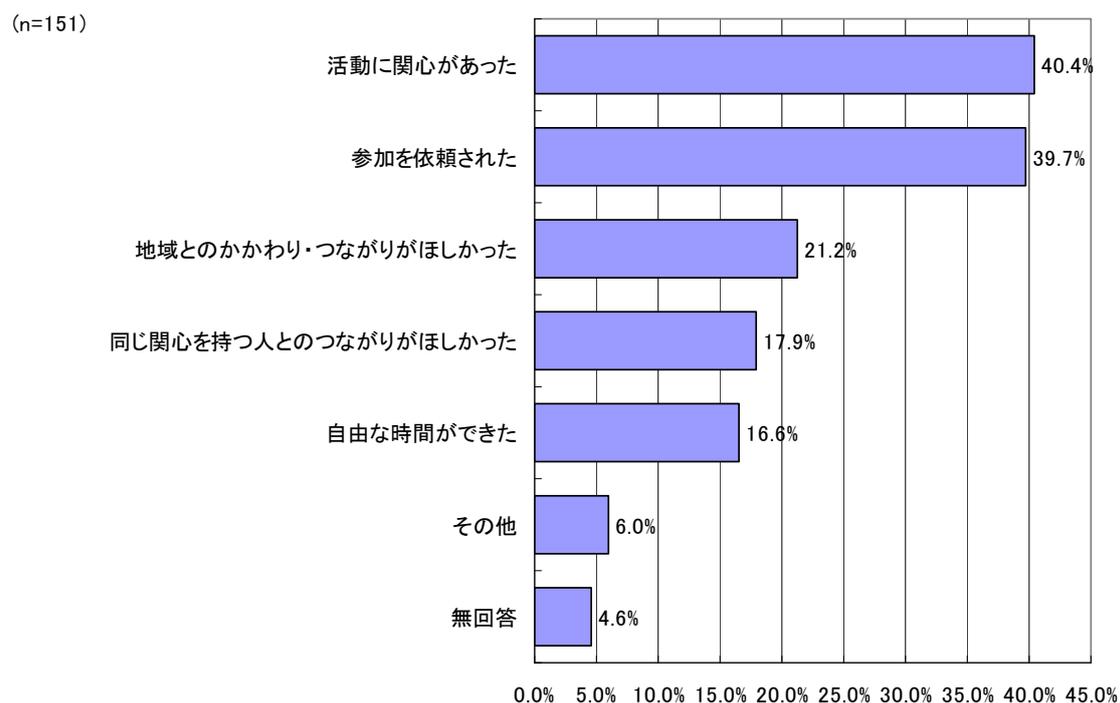
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 合計(n=535) | 趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ 31.2% | その他の市民活動団体やNPO 19.3% | 町内会・自治会など 17.6% | スポーツチーム・スポーツ団体 15.7% | 自主防災組織 11.4% |
| 参加している(n=151) | 趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ 31.1% | 町内会・自治会など 21.2% | その他の市民活動団体やNPO 19.2% | 父母会・PTA 17.9% | スポーツチーム・スポーツ団体 14.1% |
| 今は参加していないが、今後参加したいと考えている(n=384) | 趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ 31.3% | その他の市民活動団体やNPO 18.5% | 町内会・自治会など 16.1% | スポーツチーム・スポーツ団体 14.8% | 自主防災組織 14.1% |

(3) 地域・コミュニティ活動に参加したきっかけ

① 全体

(1) で「地域・コミュニティ活動に参加している」と回答した人に対し、地域・コミュニティ活動に参加したきっかけについて把握したところ、「活動に関心があった」(40.4%)と、「参加を依頼された」(39.7%)の割合が突出して高くなっている。

図表 31 地域・コミュニティ活動に参加したきっかけ (単一回答、n=151)



② 性別

性別では、男性で第1位が「参加を依頼された」（45.3%）、第2位が「活動に関心があった」（39.6%）、第3位が「自由な時間ができた」（24.5%）、第4位が「地域とのかかわり・つながりがほしかった」（17.0%）、第5位が「同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった」（13.2%）となっており、性別の違いが顕著にみられる。

図表 32 地域・コミュニティ活動に参加したきっかけ（性別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------|--------------------|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 合計(n=151) | 活動に関心があった 40.4% | 参加を依頼された 39.7% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 21.2% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 17.9% | 自由な時間ができた 16.6% |
| 男性(n=53) | 参加を依頼された 45.3% | 活動に関心があった 39.6% | 自由な時間ができた 24.5% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 17.0% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 13.2% |
| 女性(n=92) | 活動に関心があった 40.2% | 参加を依頼された 39.1% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 21.7% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 19.6% | 自由な時間ができた 10.9% |
| 無回答(n=6) | 活動に関心があった 50.0% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 0.0% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 33.3% | 自由な時間ができた 0.0% | 参加を依頼された 0.0% |

③ 年齢別

年齢別では、10～20代、50～60代で第1位が「参加を依頼された」（10～20代：75.0%、70～80代：37.7%）となっている。

また、50～60代で第2位が「活動に関心があった」（34.8%）、第3位が「自由な時間が出来た」（19.6%）、70～80代で第2位が「同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった」（31.1%）、第3位が「参加を依頼された」（26.7%）となるなど、年代毎に第2位以降の項目で差がみられる。

図表 33 地域・コミュニティ活動に参加したきっかけ（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|----------------|--------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 合計(n=151) | 活動に関心があった 40.4% | 参加を依頼された 39.7% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 21.2% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 17.9% | 自由な時間ができた 16.6% |
| 10～20代(n=8) | 参加を依頼された 75.0% | 活動に関心があった 25.0% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 12.5% | 自由な時間ができた 0.0% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 0.0% |
| 30～40代(n=49) | 活動に関心があった 32.7% | 参加を依頼された 24.5% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 12.2% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 10.2% | その他 |
| 50～60代(n=46) | 参加を依頼された 54.3% | 活動に関心があった 34.8% | 自由な時間ができた 19.6% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 15.2% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 8.7% |
| 70～80代以上(n=45) | 活動に関心があった 55.6% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった 31.1% | 参加を依頼された 26.7% | 地域とのかかわり・つながりがほしかった 24.4% | 自由な時間ができた |
| 無回答(n=3) | 活動に関心があった 66.7% | 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった | 地域とのかかわり・つながりがほしかった | 自由な時間ができた | 参加を依頼された 33.3% |

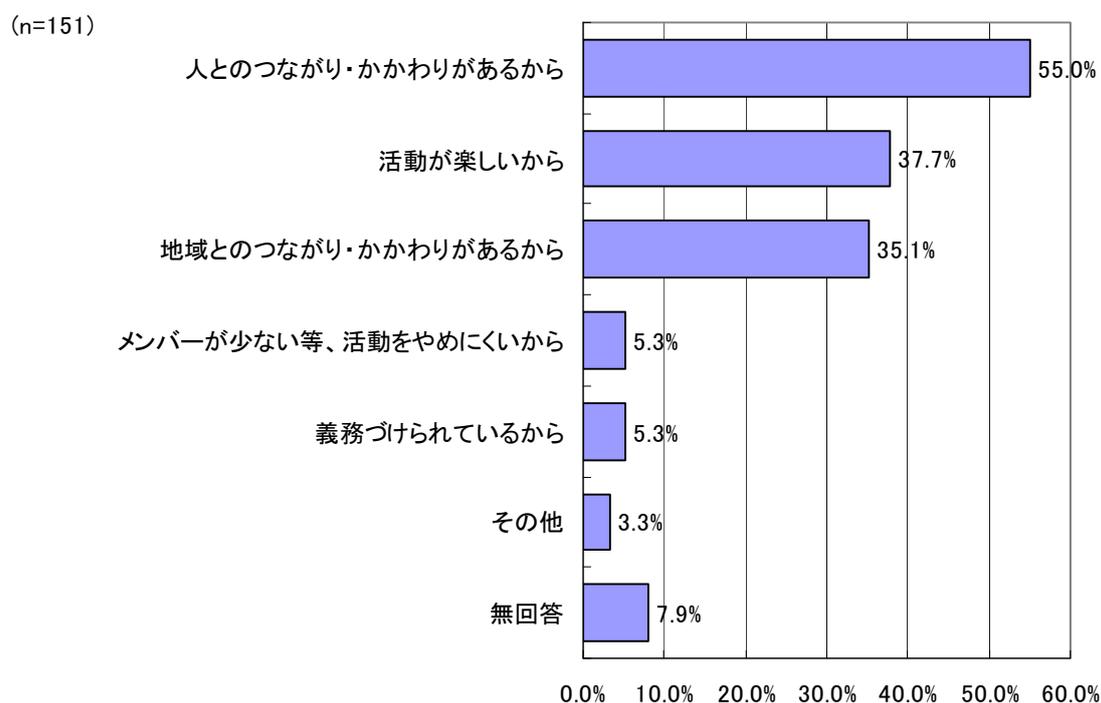
注) 10～20代をはじめとし、いずれもn値が小さく統計的に意味を持たない数値であることに留意が必要である。

(4) 地域・コミュニティ活動を続ける理由

① 全体

(1) で「地域・コミュニティ活動に参加している」と回答した人に対し、活動を続ける理由について把握したところ、「人とのつながり・かかわりがあるから」が 55.0%と最も高く、次いで「活動が楽しいから」(37.7%)、「地域とのつながり・かかわりがあるから」(35.1%)の順となっており、前向きな理由で活動に継続的に関与していることがわかる。

図表 34 地域・コミュニティ活動を続ける理由（単一回答、n=151）



② 性別

性別では、女性で第2位が「地域とのつながり・かかわりがあるから」（38.0%）となっているが、いずれも人とのつながり、地域とのつながりが主な理由となっている。

図表 35 地域・コミュニティ活動を続ける理由（性別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 合計(n=151) | 人とのつながり・かかわりがあるから 55.0% | 活動が楽しいから 37.7% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 35.1% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 5.3% | 義務づけられているから |
| 男性(n=53) | 人とのつながり・かかわりがあるから 52.8% | 活動が楽しいから 39.6% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 32.1% | その他 3.8% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 1.9% |
| 女性(n=92) | 人とのつながり・かかわりがあるから 54.3% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 38.0% | 活動が楽しいから 37.0% | 義務づけられているから 8.7% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 7.6% |
| 無回答(n=6) | 人とのつながり・かかわりがあるから 83.3% | 活動が楽しいから 33.3% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 16.7% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから | 義務づけられているから 0.0% |

③ 年齢別

年齢別では、10～20代で第1位が「活動が楽しいから」「人とのつながり・かかわりがあるから」（62.5%）、70～80代以上で第1位が「活動が楽しいから」（60.0%）となっている

図表 36 地域・コミュニティ活動を続ける理由（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 合計(n=151) | 人とのつながり・かかわりがあるから 55.0% | 活動が楽しいから 37.7% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 35.1% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから | 義務づけられているから 5.3% |
| 10～20代(n=8) | 活動が楽しいから 62.5% | 人とのつながり・かかわりがあるから 12.5% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 0.0% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから | 義務づけられているから |
| 30～40代(n=49) | 人とのつながり・かかわりがあるから 53.1% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 28.6% | 活動が楽しいから 24.5% | 義務づけられているから | その他 6.1% |
| 50～60代(n=46) | 人とのつながり・かかわりがあるから 52.2% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 45.7% | 活動が楽しいから 28.3% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 10.9% | 義務づけられているから 8.7% |
| 70～80代以上(n=45) | 活動が楽しいから 60.0% | 人とのつながり・かかわりがあるから 55.6% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 35.6% | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 2.2% | 義務づけられているから 0.0% |
| 無回答(n=3) | 人とのつながり・かかわりがあるから 100.0% | 地域とのつながり・かかわりがあるから 33.3% | 義務づけられているから | 活動が楽しいから | メンバーが少ない等、活動をやめにくいから 0.0% |

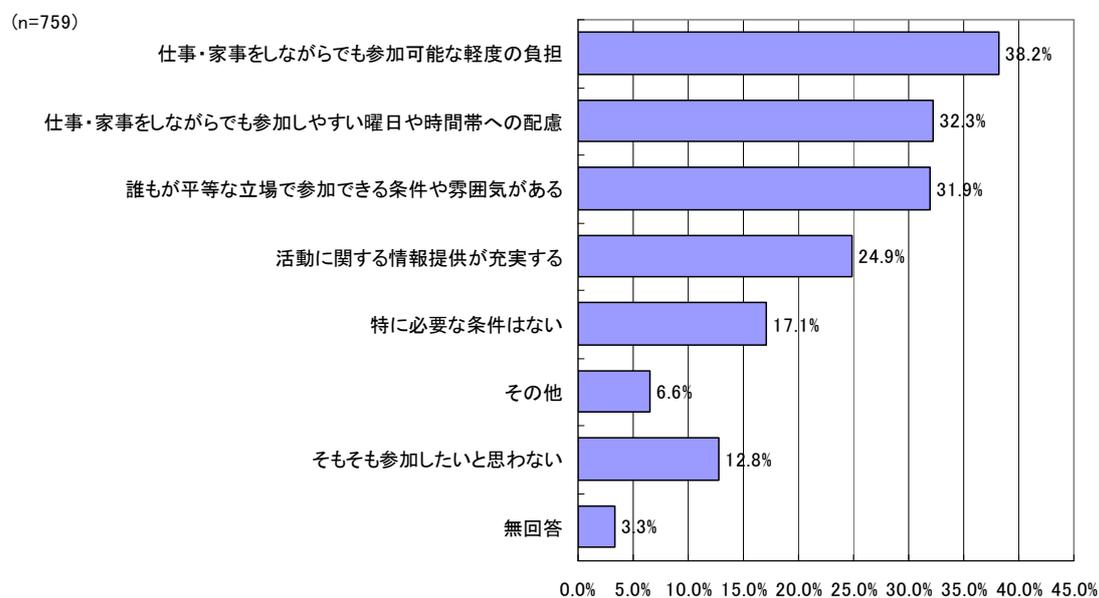
注) 10～20代をはじめとし、いずれもn値が小さく統計的に意味を持たない数値であることに留意が必要である。

(5) 地域・コミュニティ活動に参加可能な条件

① 全体

(1) で「今は地域・コミュニティ活動に参加していないが、今後参加したいと考えている」及び「今は地域・コミュニティ活動に参加しておらず、参加したいと思わない」と回答した人に対し、活動に参加できる条件について把握したところ、「仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担」が 38.2%と最も高く、次いで「仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮」(32.3%)、「誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある」(31.9%)の順となっており、仕事や家事と両立可能な負担や参加日等の配慮の必要性が指摘されている。

図表 37 地域・コミュニティ活動に参加可能な条件（複数回答、n=759）



② 年齢別

年齢別では、50～60代で第1位が「誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある」(41.4%)、第2位が「活動に関する情報提供が充実する」(32.3%)となっているほか、70～80代以上では第1位が「特に必要な条件はない」(31.7%)となるなど、年齢別に差がみられる。

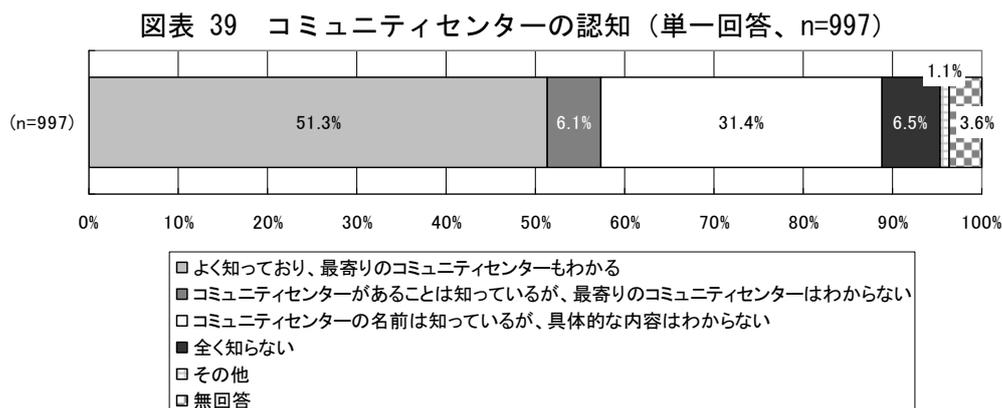
図表 38 地域・コミュニティ活動に参加可能な条件（年齢別クロス）

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------------|---|--|---|--|--|
| 合計(n=759) | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 38.2% | 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 ----- 32.3% | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 31.9% | 活動に関する情報提供が充実する ----- 24.9% | 特に必要な条件はない ----- 17.1% |
| 10～20代(n=141) | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 40.4% | 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 ----- 39.7% | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 27.0% | 特に必要な条件はない ----- 19.1% | 活動に関する情報提供が充実する ----- 18.4% |
| 30～40代(n=298) | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 51.7% | 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 ----- 43.3% | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 30.5% | 活動に関する情報提供が充実する ----- 25.2% | 特に必要な条件はない ----- 11.1% |
| 50～60代(n=186) | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 41.4% | 活動に関する情報提供が充実する ----- 32.3% | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 28.5% | 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 ----- 24.2% | 特に必要な条件はない ----- 16.1% |
| 70～80代以上(n=123) | 特に必要な条件はない ----- 31.7% | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 26.0% | 活動に関する情報提供が充実する ----- 17.9% | そもそも参加したいと思わない ----- 17.9% | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 16.3% |
| 無回答(n=11) | 活動に関する情報提供が充実する ----- 54.5% | 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 ----- 54.5% | 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある ----- 36.4% | 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 ----- 36.4% | 特に必要な条件はない ----- 9.1% |

2-4. コミュニティセンター・コミュニティ協議会のあり方

(1) コミュニティセンターの認知

コミュニティセンターの認知について、「よく知っており、最寄りのコミュニティセンターもわかる」が過半を占めている。他方、「コミュニティセンターの名前は知っているが、具体的な内容はわからない」「全く知らない」とする人の割合も4割弱程度いる。

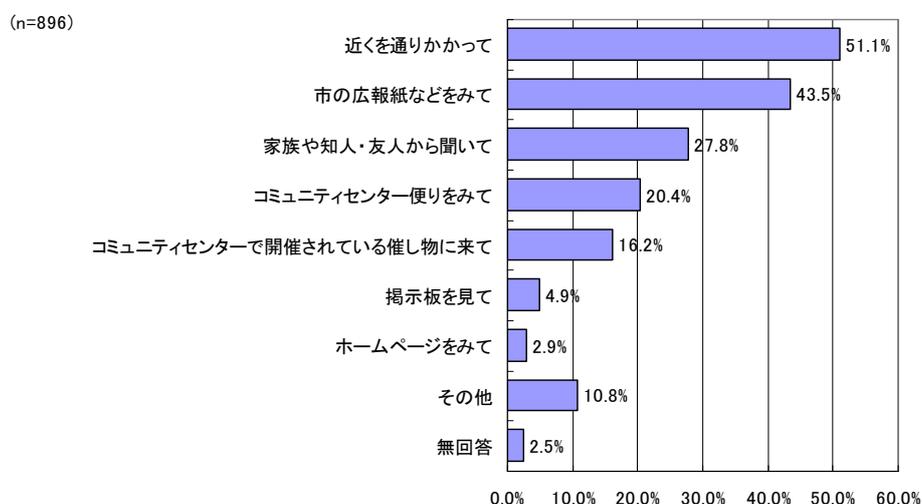


(2) コミュニティセンターの認知経路

① 全体

(1) で「全く知らない」と回答した以外の人について、コミュニティセンターの認知経路について把握したところ、「近くを通りかかって」が最も多く過半を占め、次いで「市の広報誌などをみて」（43.5%）、「家族や知人・友人から聞いて」（27.8%）の順となっている。

図表 40 コミュニティセンターの認知経路（複数回答（回答数3つまで）、n=896）



② 年齢別

年齢別では、70～80代以上で第1位が「市の広報誌などを見て」（49.4%）となっているほか、10～20代で第2位が「家族や知人・友人から聞いて」（32.8%）となっている。

図表 41 コミュニティセンターの認知経路（年齢別クロス）

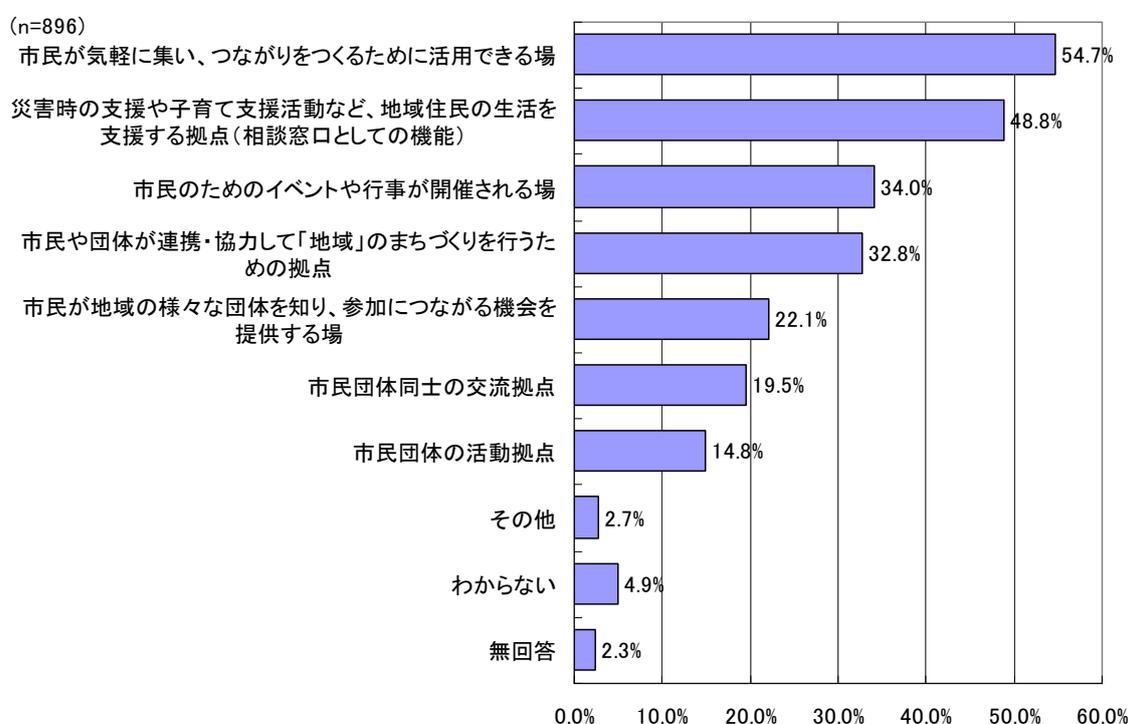
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------------|---------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 合計(n=896) | 近くを通りかかって 51.1% | 市の広報紙などを見て 43.5% | 家族や知人・友人から聞いて 27.8% | コミュニティセンター便りを見て 20.4% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 16.2% |
| 10～20代(n=128) | 近くを通りかかって 52.3% | 家族や知人・友人から聞いて 39.8% | 市の広報紙などを見て 25.8% | その他 11.7% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 8.6% |
| 30～40代(n=337) | 近くを通りかかって 57.3% | 市の広報紙などを見て 41.2% | 家族や知人・友人から聞いて 29.1% | コミュニティセンター便りを見て 18.4% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 12.8% |
| 50～60代(n=239) | 近くを通りかかって 52.3% | 市の広報紙などを見て 50.6% | コミュニティセンター便りを見て 26.8% | 家族や知人・友人から聞いて 25.5% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 19.7% |
| 70～80代以上(n=178) | 市の広報紙などを見て 49.4% | 近くを通りかかって 36.5% | コミュニティセンター便りを見て 28.7% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 23.0% | 家族や知人・友人から聞いて 19.7% |
| 無回答(n=14) | 市の広報紙などを見て 64.3% | 近くを通りかかって 57.1% | 家族や知人・友人から聞いて 28.6% | コミュニティセンターで開催されている催し物に来て 21.4% | コミュニティセンター便りを見て 14.3% |

(3) 今後、コミュニティセンターに求められる役割・機能

① 全体

(1) で「全く知らない」と回答した以外の人について、今後コミュニティセンターに求められる役割・機能について把握したところ、「市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場」が54.7%と最も多く、次いで「災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能）」（48.8%）、市民のためのイベントや行事が開催される場（34.0%）、「市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点」（32.8%）の順となっている。

図表 42 今後、コミュニティセンターに求められる役割・機能（複数回答（回答数3つまで）、n=896）



② 年齢別

年齢別では、30～40代で第1位が「災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能）」（55.2%）となるなど、子育て世代の特徴が反映された結果となっている。

図表 43 今後、コミュニティセンターに求められる役割・機能（年齢別クロス）

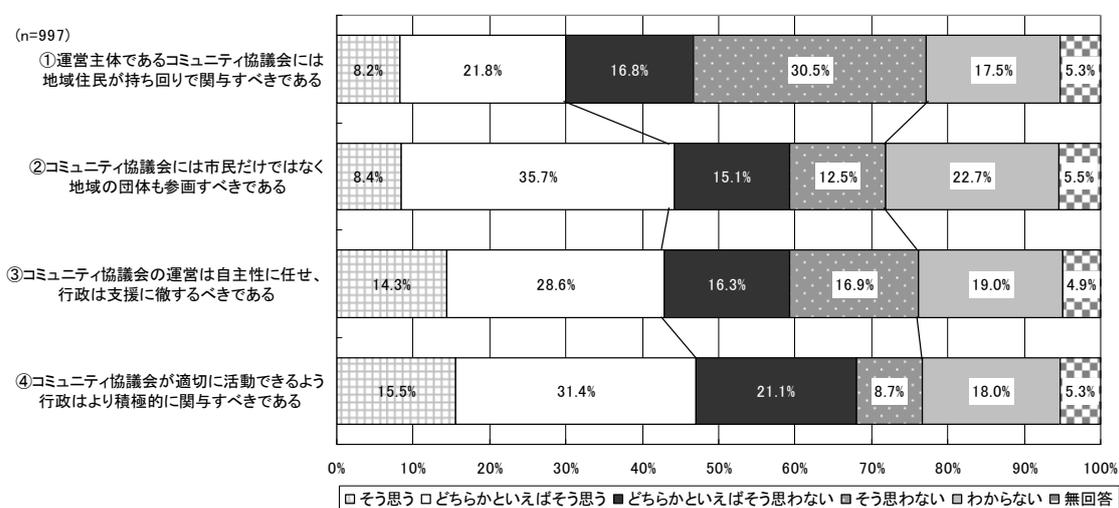
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|-----------------|--|--|--|--|---|
| 合計(n=896) | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 54.7% | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 48.8% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 34.0% | 市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点 32.8% | 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場 22.1% |
| 10～20代(n=128) | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 46.1% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 39.8% | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 35.2% | 市民団体同士の交流拠点 25.8% | |
| 30～40代(n=337) | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 55.2% | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 50.1% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 38.0% | 市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点 30.3% | 市民団体同士の交流拠点 24.3% |
| 50～60代(n=239) | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 60.7% | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 51.0% | 市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点 37.2% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 29.7% | 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場 25.5% |
| 70～80代以上(n=178) | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 62.4% | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 42.1% | 市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点 35.4% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 29.2% | 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場 19.1% |
| 無回答(n=14) | 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点（相談窓口としての機能） 64.3% | 市民や団体が連携・協力して「地域」のまちづくりを行うための拠点 57.1% | 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 42.9% | 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場 35.7% | 市民のためのイベントや行事が開催される場 21.4% |

(4) 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方

① 全体

今後のコミュニティセンターの管理・運営のあり方について、4つの方向性を示し各々の賛否を把握したところ、「①運営主体であるコミュニティ協議会には地域住民が持ち回りで関与すべきである」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は30.0%に留まり、他の項目と比較して最も低い割合となっている。②～④の各項目では、その割合に顕著な差はみられない。

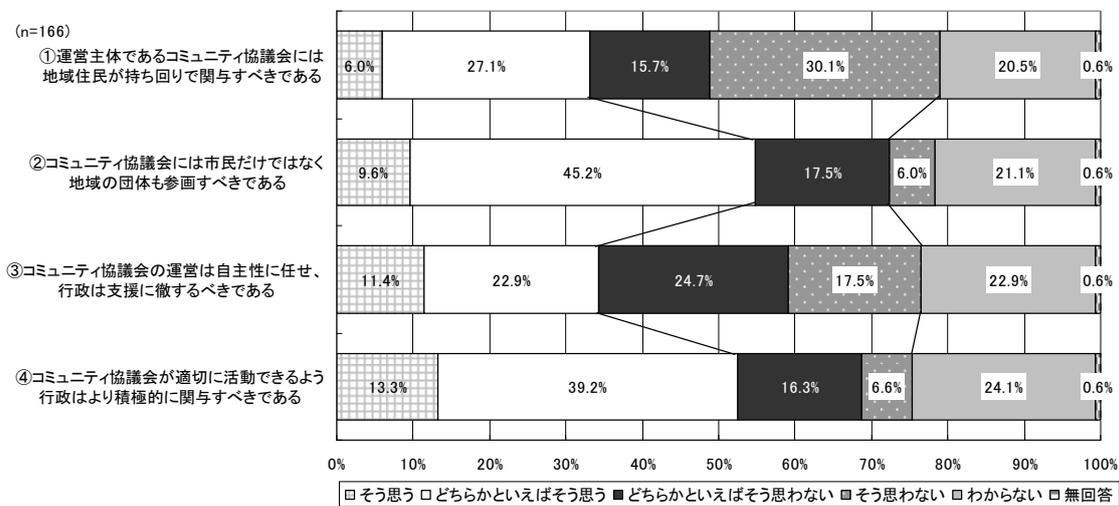
図表 44 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方（単一回答、n=997）



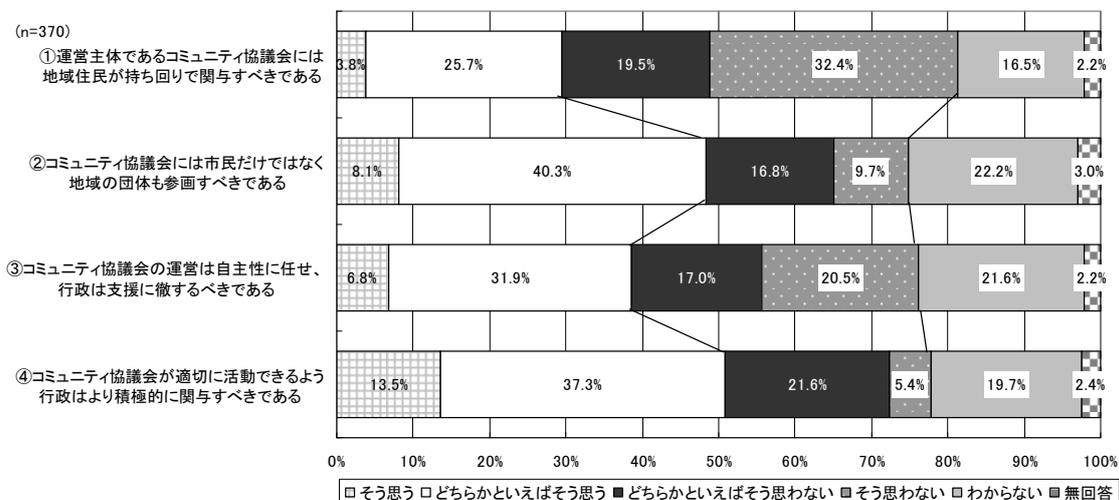
② 年齢別

年齢別についてみると、10～20代、30～40代の比較的若い世代では、「②コミュニティ協議会には市民だけではなく地域の団体も参画すべきである」「④コミュニティ協議会が適切に活動できるよう行政はより積極的に関与すべきである」への賛成意見が多く割合を占める一方、50～60代、70～80代以上では、「③コミュニティ協議会の運営は自主性に任せ、行政は支援に徹すべきである」への賛成意見が多く、世代別の差が顕著となっている。

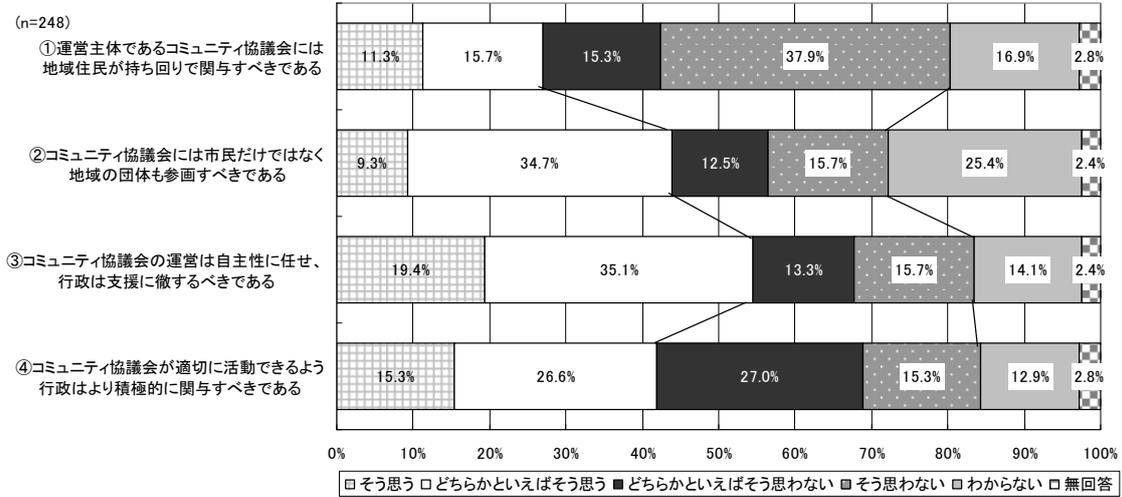
図表 45 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方（年齢別クロス、10～20代）



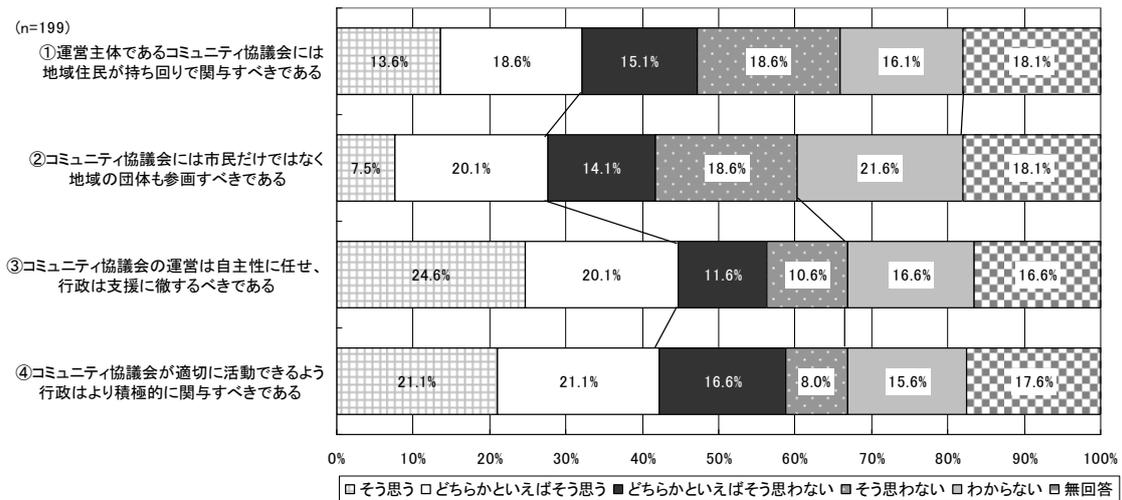
図表 46 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方（年齢別クロス、30～40代）



図表 47 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方（年齢別クロス、50～60代）



図表 48 今後のコミュニティセンター・コミュニティ協議会の運営のあり方（年齢別クロス、70～80代以上）



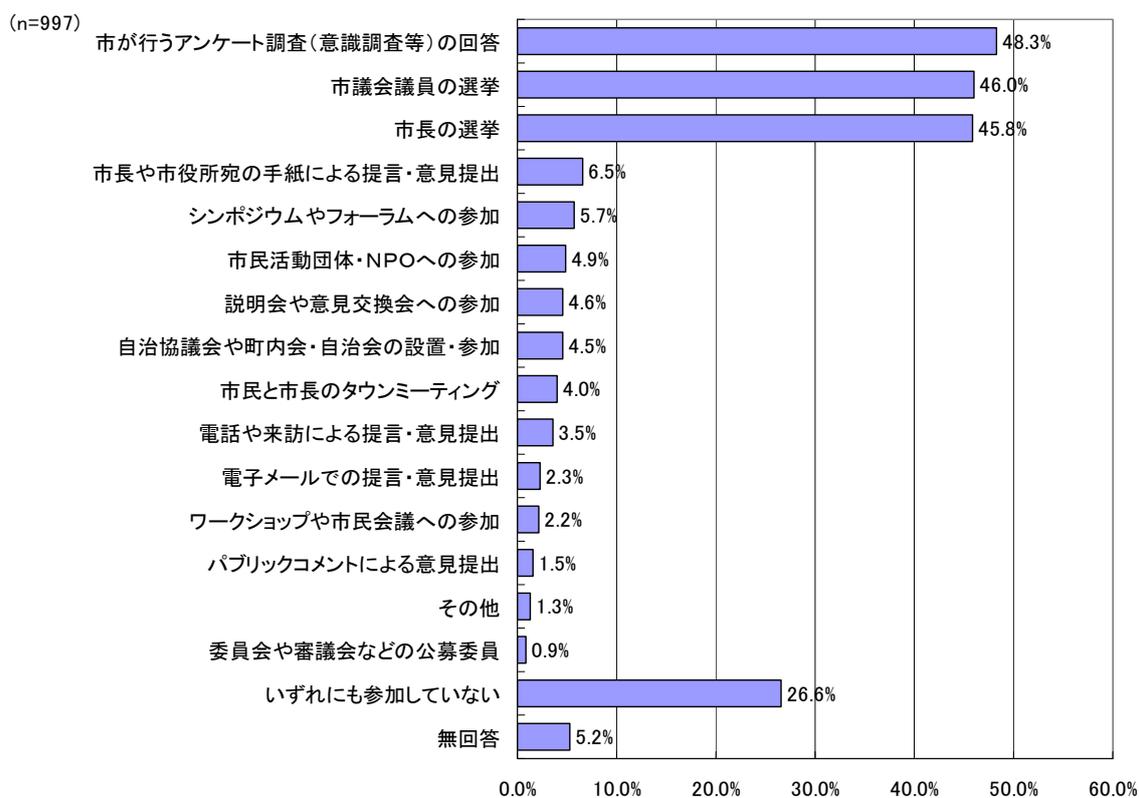
2-5. 市民自治のあり方

(1) 市民自治への参加機会

参加したことがある市民自治の形態について、「市が行うアンケート調査（意識調査等）の回答」が48.3%と最も多く、次いで「市議会議員の選挙」（46.0%）、「市長の選挙」（45.8%）となっており、この3形態が突出して多くなっている。

一方、3割弱が「いずれの形態にも参加機会が無い」と回答している。

図表 49 市民自治への参加機会（複数回答、n=997）



(2) 今後、参加したいと思う市民自治の形態

今後参加したいと思う市民自治の形態について、望ましい形態の順に第3位までを把握し、得られた結果を以下に示す方法でスコア化し評価したところ、(1)の結果と同様、「市が行うアンケート調査（意識調査等）の回答」が10.33と最も高く、第2位が「いずれにも参加していない」（10.09）、第3位が「市長の選挙」（9.60）、第4位が「市議会議員の選挙」（8.50）となっている。

*数値化の方法について

- ・各市民自治の形態について、無回答を除外して回答率を再計算したうえで、第1位を30点、第2位を20点、第3位を10点として、各回答率を乗じた値の合計値を各項目の「スコア」とした。

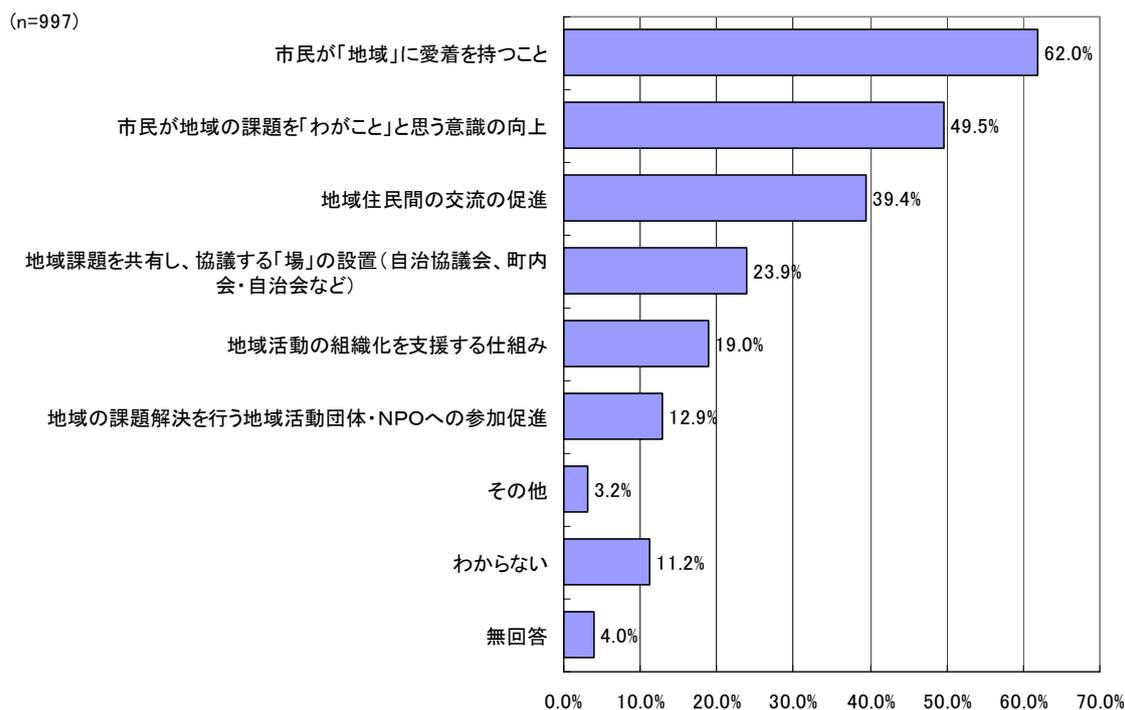
図表 50 今後参加したいと思う市民自治の形態（単一回答、n=997）

| 順位 | 市民自治の参加形態 | スコア |
|-----|-----------------------|-------|
| 1位 | 市が行うアンケート調査（意識調査等）の回答 | 10.33 |
| 2位 | いずれにも参加していない | 10.09 |
| 3位 | 市長の選挙 | 9.60 |
| 4位 | 市議会議員の選挙 | 8.50 |
| 5位 | 電子メールでの提言・意見提出 | 3.35 |
| 6位 | シンポジウムやフォーラムへの参加 | 3.01 |
| 7位 | 市民活動団体・NPOへの参加 | 2.64 |
| 8位 | 説明会や意見交換会への参加 | 2.34 |
| 9位 | ワークショップや市民会議への参加 | 2.03 |
| 10位 | 市長や市役所宛の手紙による提言・意見提出 | 1.97 |
| 11位 | 市民と市長のタウンミーティング | 1.95 |
| 12位 | パブリックコメントによる意見提出 | 1.39 |
| 13位 | 自治協議会や町内会・自治会の設置・参加 | 1.12 |
| 14位 | 電話や来訪による提言・意見提出 | 0.90 |
| 15位 | 委員会や審議会などの公募委員 | 0.64 |
| 16位 | その他 | 0.14 |

(3) 市民自ら主体的に課題解決をするために必要なこと

市民自ら主体的に課題解決をするために必要なことについては、「市民が「地域」に愛着を持つこと」が 62.0%と他を圧倒して多く、次いで「市民が地域の課題を「わがこと」と思う意識の向上」(49.5%)、「地域住民間の交流の促進」(39.4%)の順となっている。

図表 51 市民自ら主体的に課題解決をするために必要なこと（複数回答、n=997）



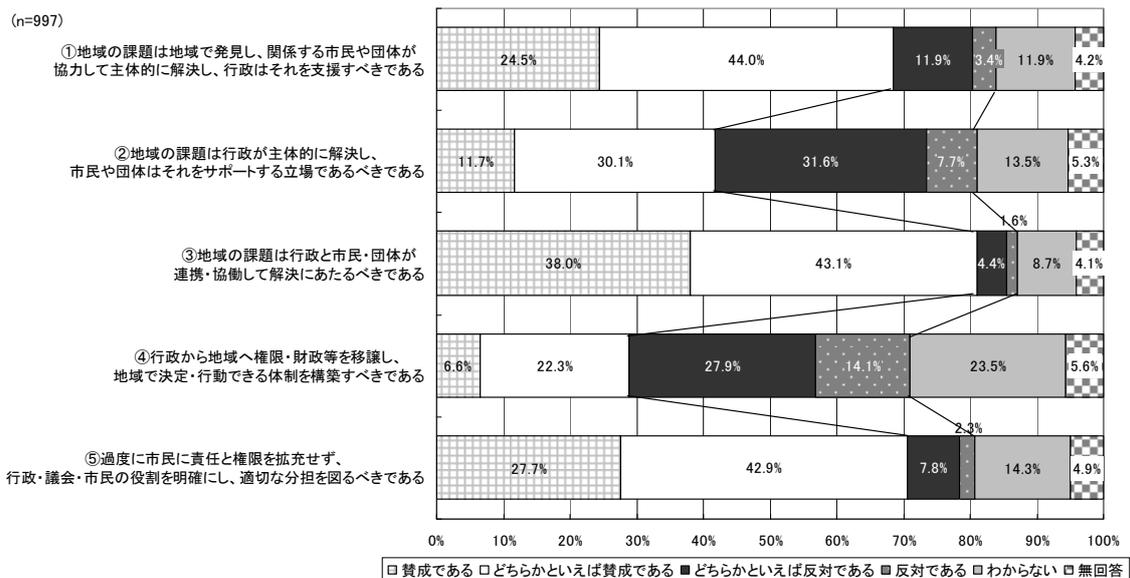
(4) 市民自治における行政との役割分担のあり方

① 全体

市民自治における行政との役割分担のあり方について、5つの方向性を示し各々の賛否を把握したところ、「③地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべき」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が81.1%と最も多い。次いで、「⑤過度に市民に責任と権限を拡充せず、行政・議会・市民の役割を明確にし、適切な分担を図るべきである」(70.6%)、「①地域の課題は地域で発見し、関係する市民や団体が協力して主体的に解決し、行政はそれを支援すべきである」(68.5%)の順となっている。

他方、行政主導型の「②地域の課題は行政が主体的に解決し、市民や団体はそれをサポートする立場であるべきである」、地域の権限をより強化する「④行政から地域へ権限・財政等に移譲し、地域で決定・行動できる体制を構築すべきである」といった極端な方向性については反対意見が多い。

図表 52 市民自治における行政との役割分担のあり方（単一回答、n=997）

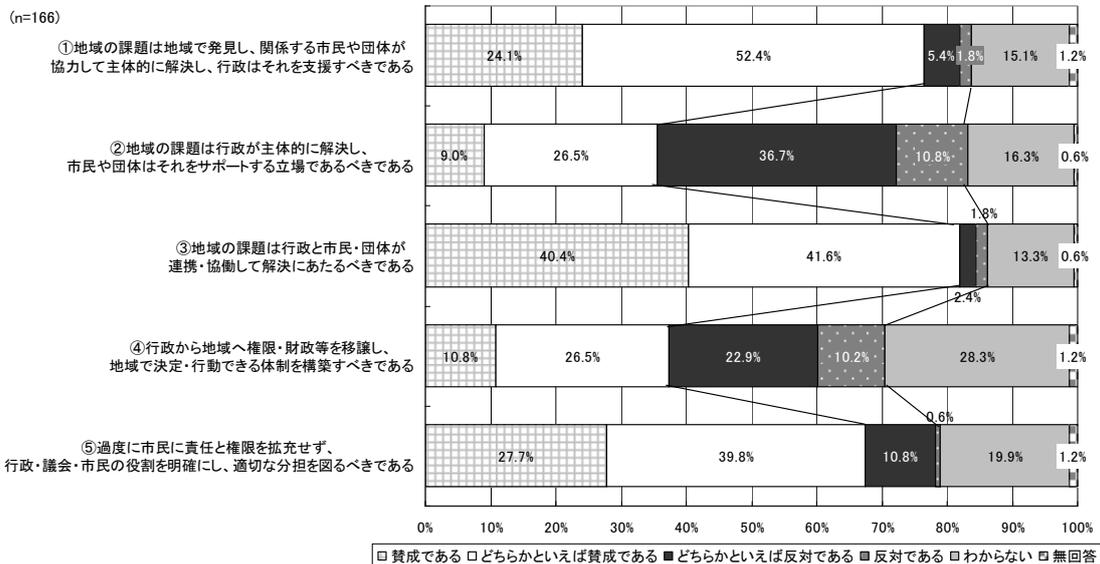


② 年齢別

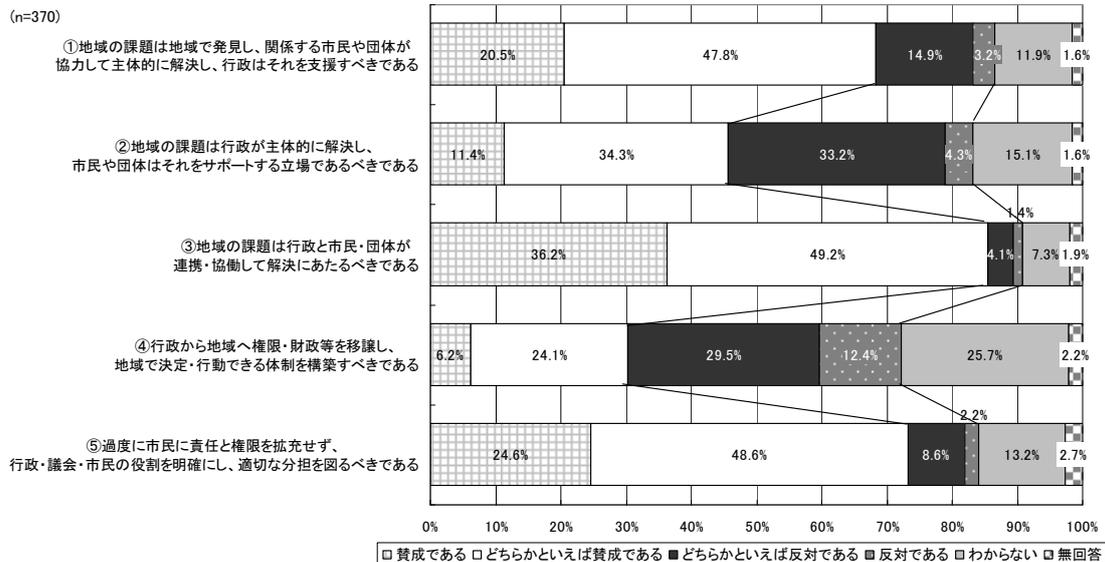
年齢別では、いずれの年齢でも「③地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべきである」が最も多くなっている。

また、第2位以下で年齢別の差がみられ、30～40代、50～60代、70～80代以上では、「⑤過度に市民に責任と権限を拡充せず、行政・議会・市民の役割を明確にし、適切な分担を図るべきである」が多くなっているのに対し、10～20代では「①地域の課題は地域で発見し、関係する市民や団体が協力して主体的に解決し、行政はそれを支援すべきである」が多くなっている。

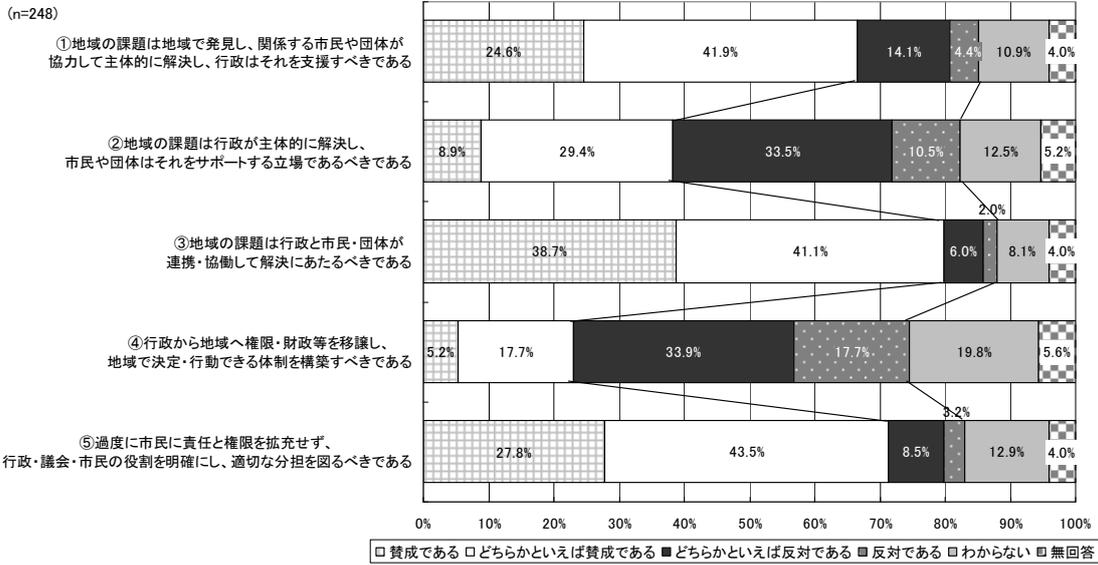
図表 53 市民自治における行政との役割分担のあり方（年齢別クロス、10～20代）



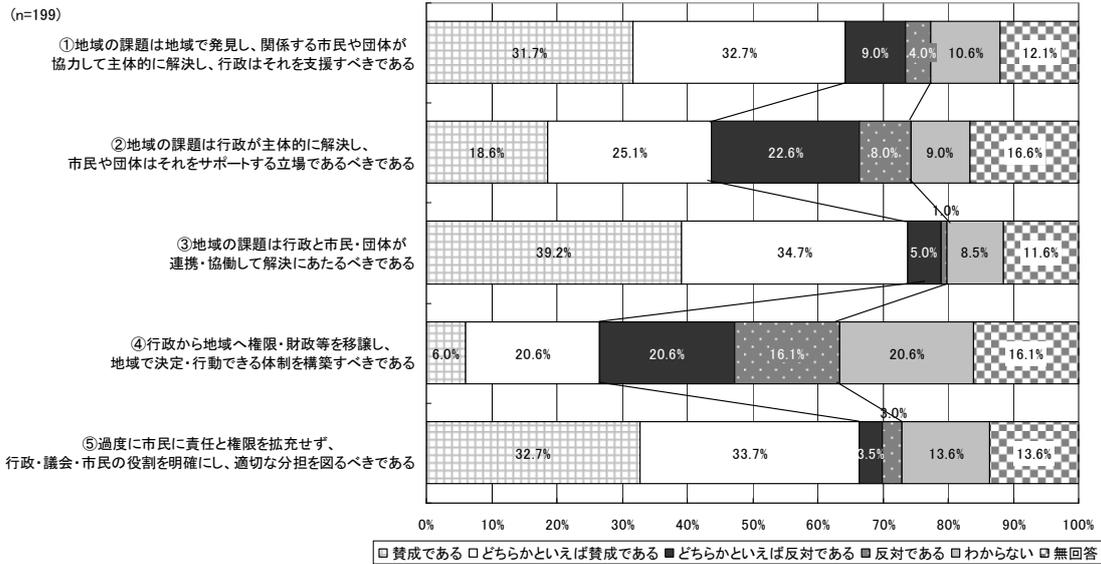
図表 54 市民自治における行政との役割分担のあり方（年齢別クロス、30～40代）



図表 55 市民自治における行政との役割分担のあり方（年齢別クロス、50～60代）



図表 56 市民自治における行政との役割分担のあり方（年齢別クロス、70～80代以上）



3 団体アンケート調査結果

団体アンケートの結果概要は以下に示すとおり。

【団体活動の状況】

- ・活動内容別では、「スポーツに関する活動」21.4%が最も多い。
- ・活動場所については、「各地域のコミュニティセンター」56.5%が最も多い。
- ・また、活動を継続するにあたっては、「新規参加メンバーの確保」56.8%が最も大きな課題となっている。

【地域とのかかわり】

- ・メンバーが減少したとする団体が35.1%を占め、人材確保が課題となっている。
- ・このため、メンバー増加に向けた取組として、「市民を対象とした団体紹介の機会の設置」31.8%が最も多い。

【コミュニティセンターの利用状況・利用意向】

- ・69.3%がコミセンを利用していると回答している。
- ・利用頻度について、「年に数回ぐらい」42.0%が最も多い。
- ・利用内容について、「団体内での会議の場所として」64.8%が最も多い。
- ・今後の利用意向について、「特に利用したいと思わない」が過半を占めている。

【コミュニティセンターのあり方】

- ・望ましいコミセンの役割について、市民アンケートの結果同様、「市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場」63.2%が最も多い。

【市民自治のあり方】

- ・各団体も主体的に課題解決に参加する市民自治実現のために必要な取組として、「行政と団体の連携・協働の仕組みの構築」47.6%、「市民が地域の課題を「わがこと」という意識の向上」47.1%の2項目が比較的高い。
- ・行政との役割分担に関する考えについて、「地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべき」が賛同意見の合計で最も多い。

3-1. 団体の概要

(1) 会員数

各団体の会員数についてみると、個人会員及び団体会員の平均値はそれぞれ 87.3 と 43.6 である。一方、中央値はそれぞれ 34.0（個人会員）と 2.0（団体会員）である。

団体会員数の最頻値がゼロであることから、武蔵野市内で活動している団体の多くが団体会員を有しないと言える。

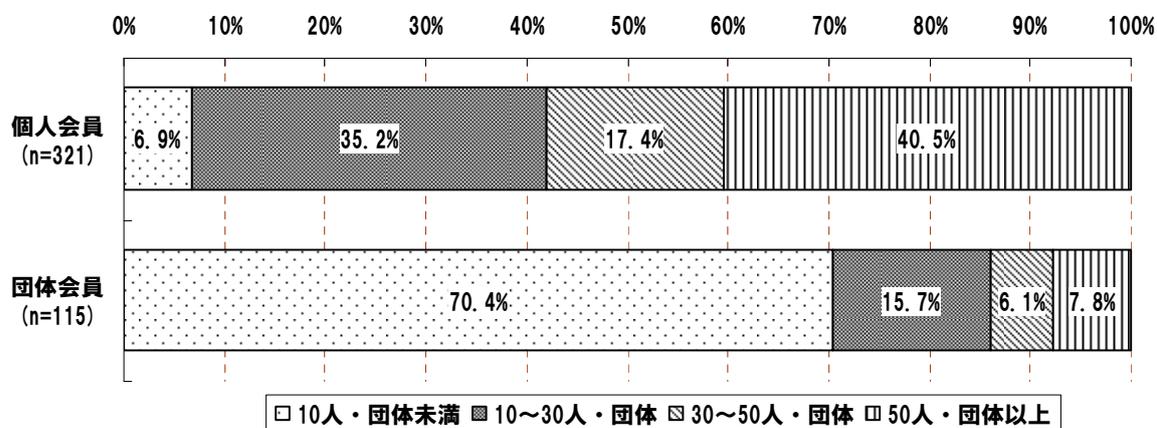
回答者のうち、50 人以上の個人会員を有する団体が最も多く、全体の 40.5%を占めている。一方、大半の団体は団体会員数が 10 団体未満である。

図表 57 団体の会員数（個人会員・団体会員）

| | 個人会員数 (n=321) | 団体会員数 (n=115) |
|-----|------------------|------------------|
| 平均値 | 87.3 | 43.6 |
| 中央値 | 34.0 | 2.0 |
| 最頻値 | 15.0 | 0 |

注) 各回等から無回答を除いた値をもとに、集計している。

図表 58 会員数別の団体の分布状況

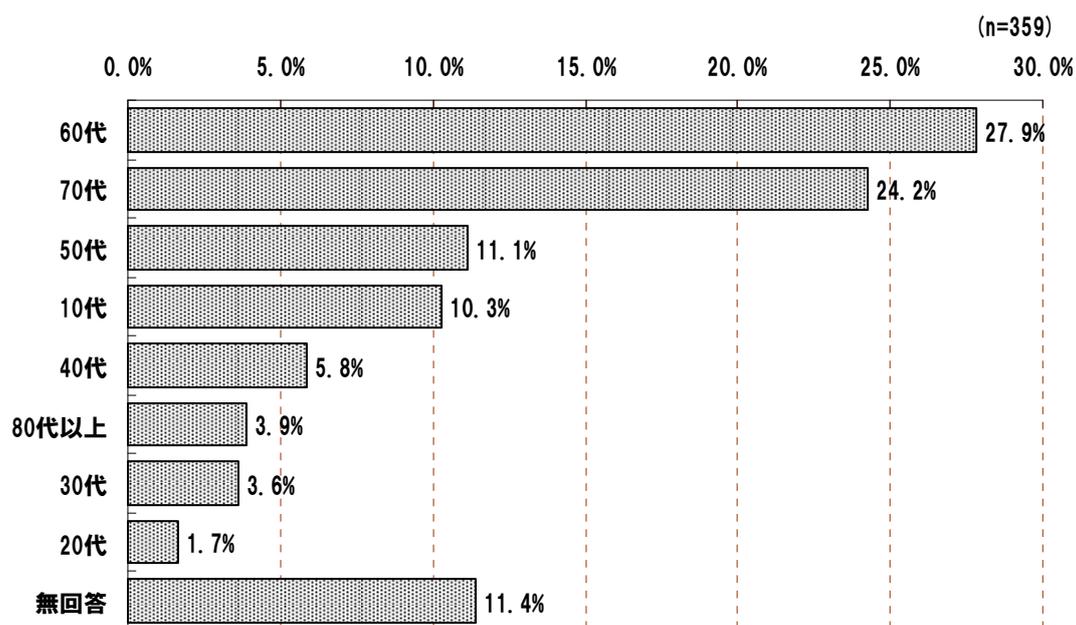


注) 各回等から無回答を除いた値をもとに、集計している。

(2) 会員の年齢構成

会員の年齢構成について、56.0%の団体は最も多い会員の年齢層が60代以上である。一方、20代～50代の勤労世代の会員を中心とする団体は全体の2割程度にとどまっている。これは、勤労世代が地域の団体活動に継続的に参加する時間的余裕がないためと推察される。

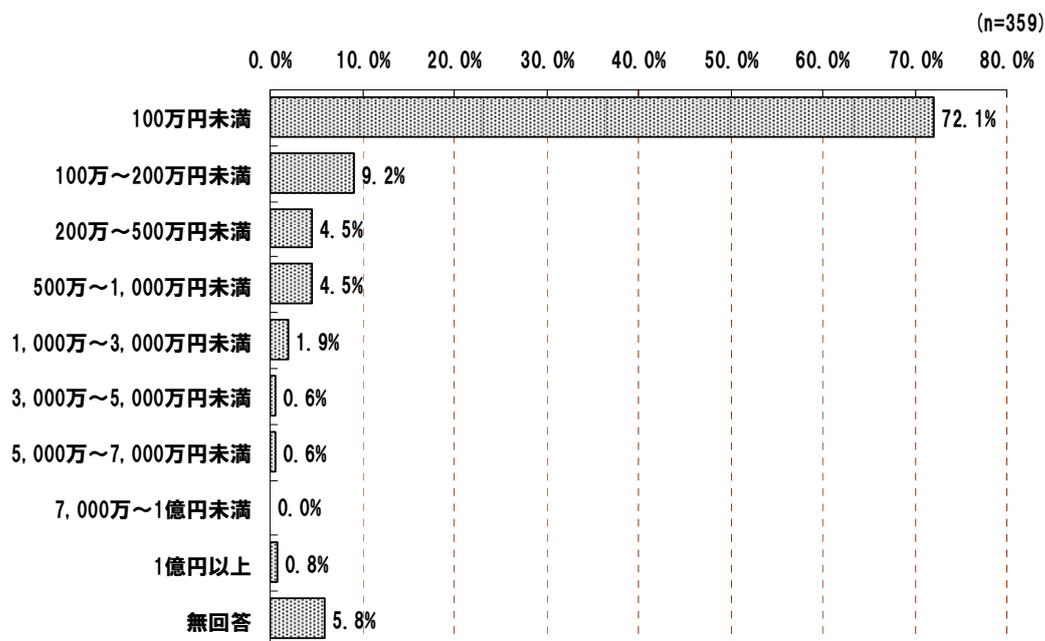
図表 59 会員の年齢構成（最も多い層）（単一回答、n=359）



(3) 年間予算（2011年度）

2011年度の各団体の年間予算についてみると、100万円未満の団体が72.1%を占めている。

図表 60 2011年度の年間予算（単一回答、n=359）

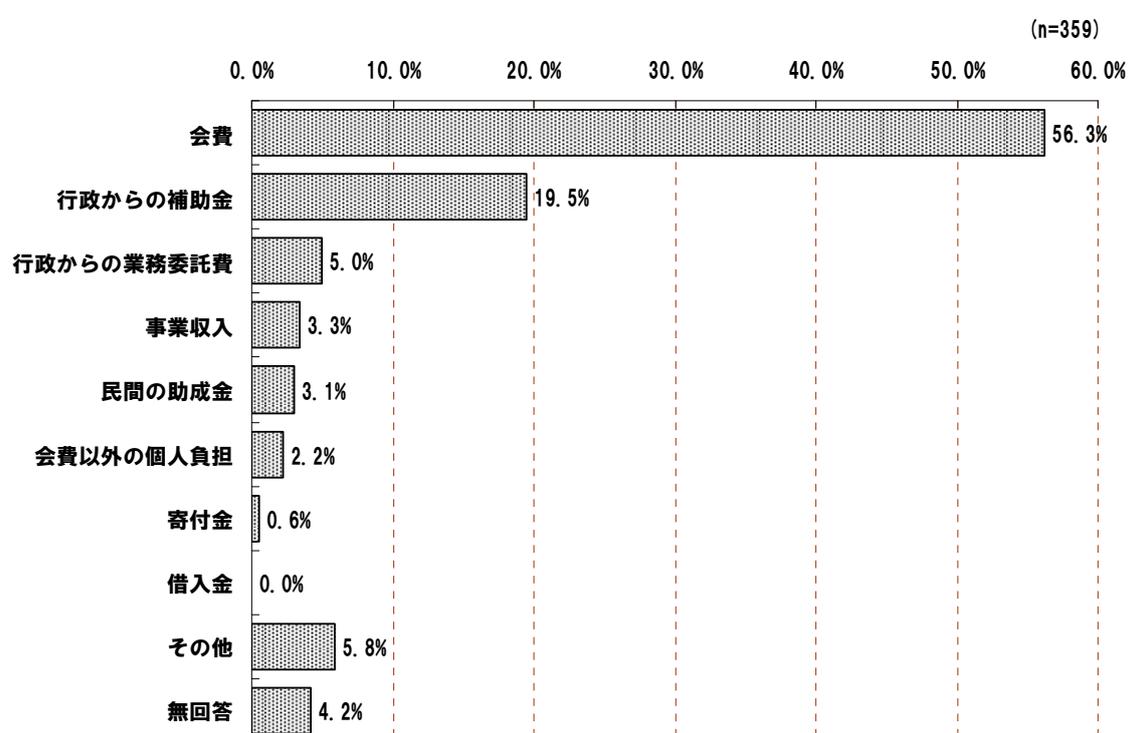


(4) 団体の主財源（2011年度）

調査対象団体の大半は会費収入を主財源としている。また、行政からの補助金や業務委託費を主財源とする団体は全体の24.5%を占めている。

事業収入を主要財源とする団体が全体の3.3%にとどまっており、自主財源として確保可能な収入は会費収入で、その他行政や民間等の補助が財源の中心となっていることが伺える。

図表 61 2011年度の収入の中で全体に占める割合が最も大きかったもの
(単一回答、n=359)

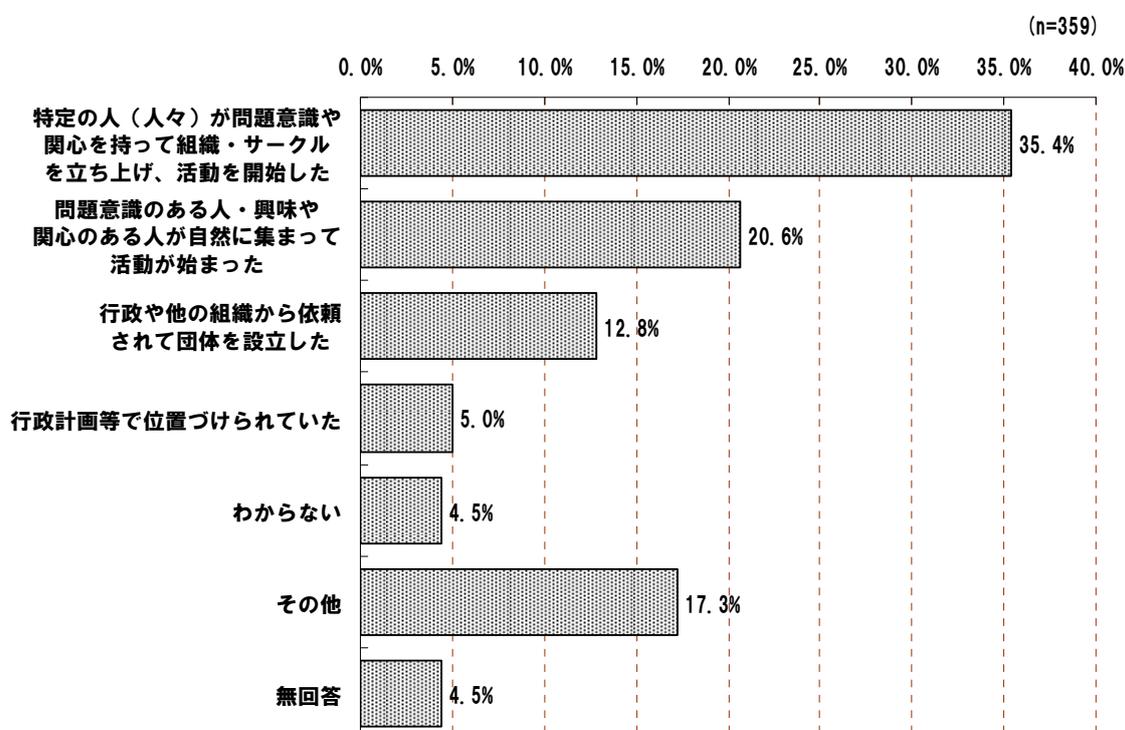


(5) 活動を開始したきっかけ

団体が活動を開始したきっかけについてみると、「特定の人（人々）が問題意識や関心を持って組織・サークルを立ち上げ、活動を開始した」を挙げた団体が35.4%と最も多い。これに「問題意識のある人・興味や関心のある人が自然に集まって活動が始まった」（20.6%）を加えると、全体の56.0%を占めている。

このように、活動を開始したきっかけとしては、特定の人々が組織を立ち上げそこに賛同する形態や、自然発生的に人が集まるような自発的な形態が多いものの、一方で、「行政や他の組織から依頼されて団体を設立した」「行政計画等で位置づけられていた」といった行政によるものも2割弱を占めている。

図表 62 活動を開始したきっかけ（単一回答、n=359）



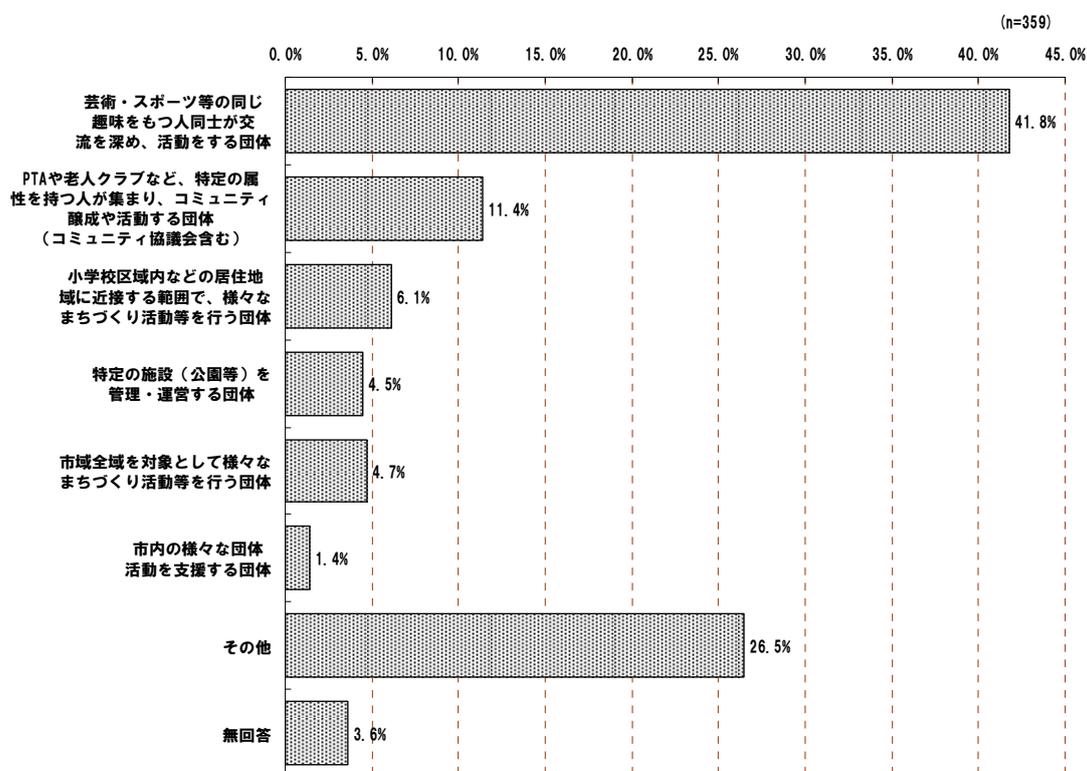
3-2. 団体の活動状況

(1) 団体の性格

団体の性格についてみると、「芸術・スポーツ等の同じ趣味をもつ人同士が交流を深め、活動をする団体」が41.8%と最も多い。次いで、「PTAや老人クラブなど、特定の属性を持つ人が集まり、コミュニティ醸成や活動する団体（コミュニティ協議会含む）」が11.4%を占めている。一方、他の団体を支援する機能を果たす団体は1.4%にとどまっている。

「その他」について、防災・防犯活動を行う団体や医療・福祉関連の活動団体などが挙げられている。

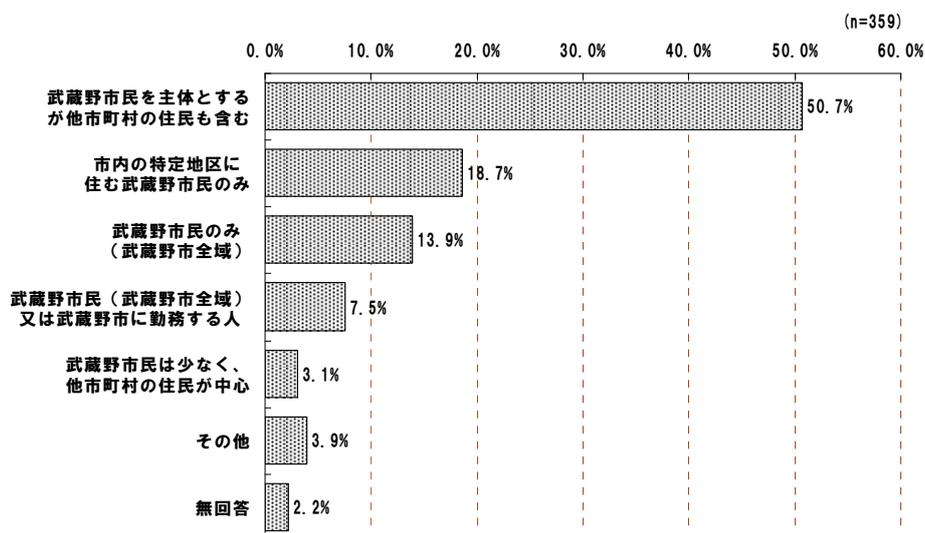
図表 63 団体の性格（単一回答、n=359）



(2) 会員のメンバー構成

大多数の団体は武蔵野市に居住・勤務する人を主体とした会員構成であり、武蔵野市民だけを構成員とする団体は13.9%である。

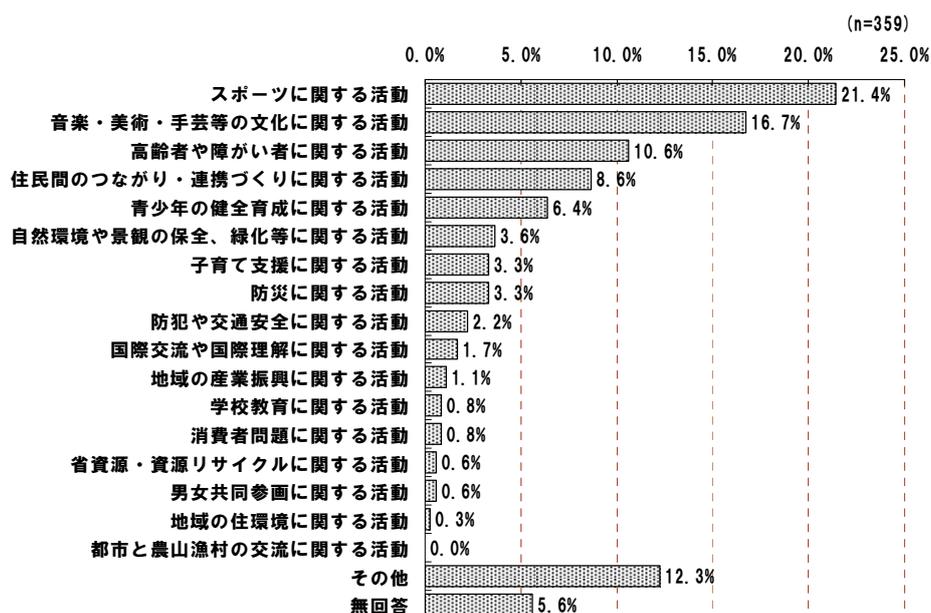
図表 64 会員のメンバー構成（単一回答、n=359）



(3) 団体の主な活動内容

団体の主な活動内容について、「スポーツに関する活動」(21.4%)が最も多く挙げられている。次いで、「音楽・美術・手芸等の文化に関する活動」を主な活動内容とする団体は全体の16.7%を占めている。

図表 65 団体の主な活動内容（単一回答、n=359）

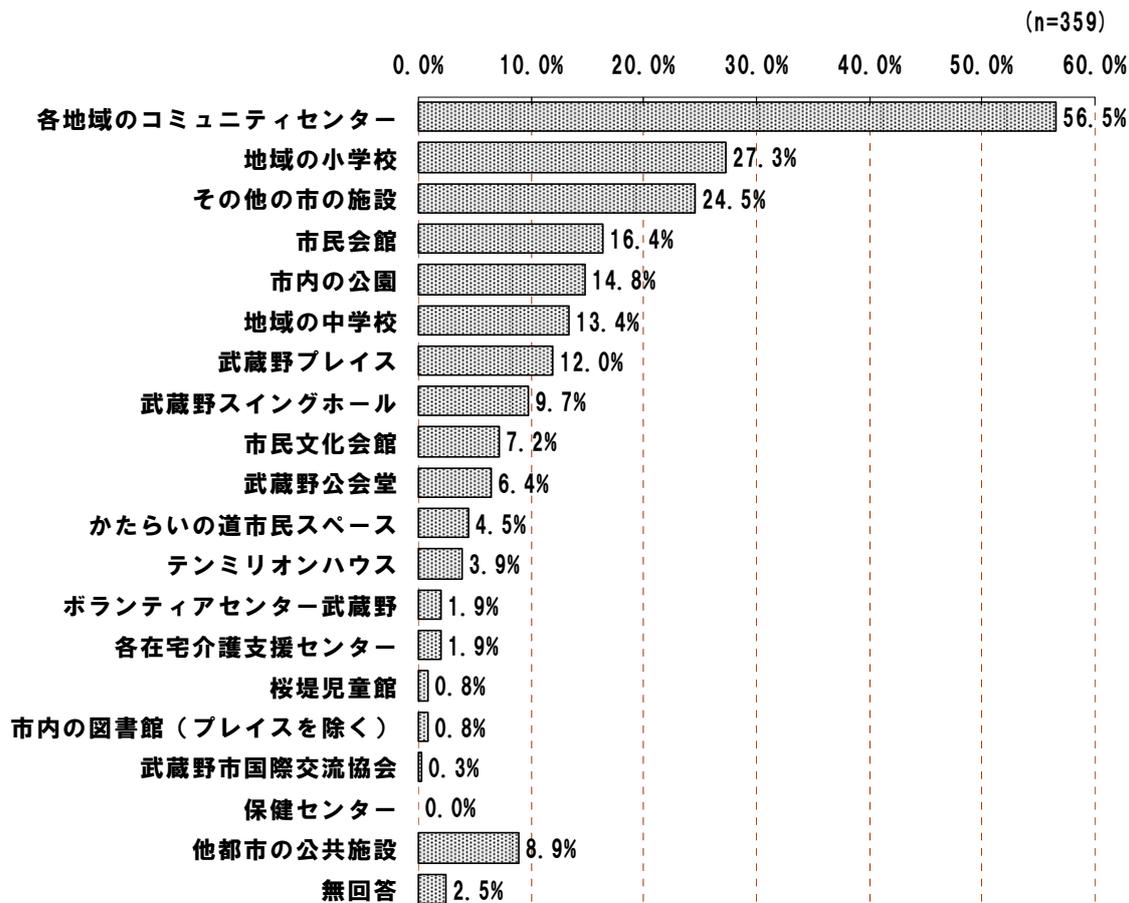


(4) 活動場所や利用施設

各団体が利用する場所や施設について、「各地域のコミュニティセンター」が 56.5%と最も多い。

また、会員の構成別にみると、武蔵野市民が構成員として多数を占めている団体の場合は、その割合にかかわらず各地域のコミュニティセンターを利用している。

図表 66 活動場所や利用施設（複数回答、n=359）



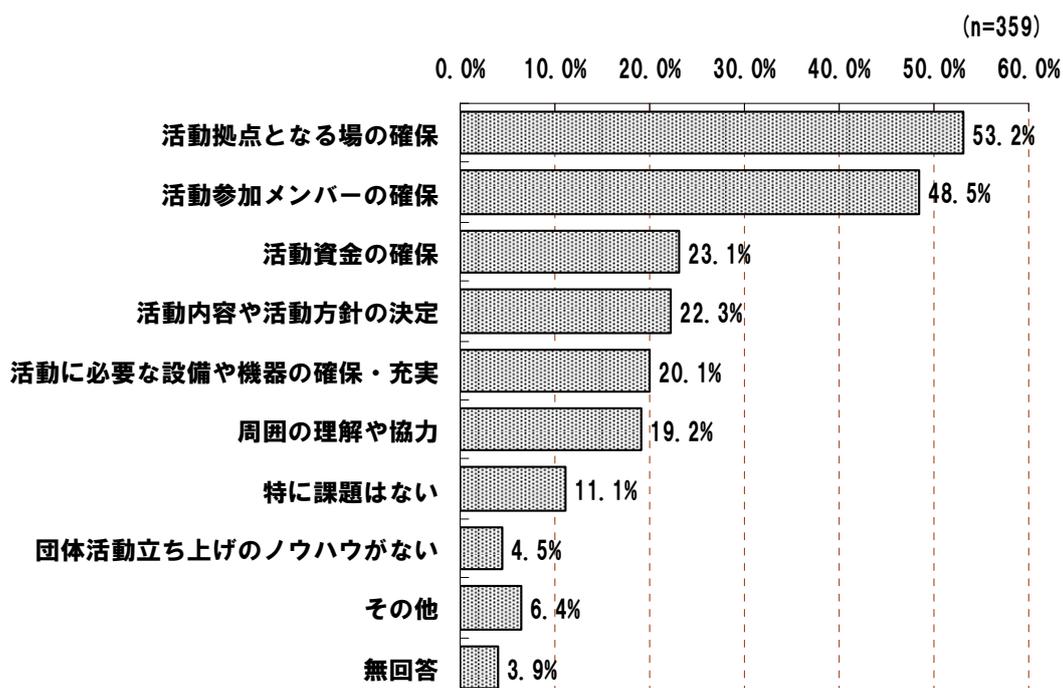
図表 67 活動場所や利用施設（会員の構成別）

| | 第 1 位 | 第 2 位 | 第 3 位 |
|---|--------------------|--------------------|--------------------|
| 市内の特定地区に住む 武蔵野市民のみ(n=67) | 各地域の コミュニティセンター | 地域の小学校 | 市内の公園 |
| | 61.2% | 35.8% | 25.4% |
| 武蔵野市民のみ (武蔵野市全域) (n=50) | 各地域の コミュニティセンター | 市民会館 | その他の市の施設 |
| | 82.0% | 18.0% | 18.0% |
| 武蔵野市民(武蔵野市全 域)又は武蔵野市に勤務 する人(n=27) | 各地域の コミュニティセンター | その他の市の施設 | 地域の小学校 |
| | 55.6% | 33.3% | 22.2% |
| 武蔵野市民を主体とす るが他市町村の住民も 含む(n=182) | 各地域の コミュニティセンター | 地域の小学校 | その他の市の施設 |
| | 49.5% | 28.0% | 26.4% |
| 武蔵野市民は少なく、他 市町村の住民が中心 (n=11) | 他都市の公共施設 | その他の市の施設 | 各地域の コミュニティセンター |
| | 54.5% | 45.5% | 36.4% |
| その他 (n=14) | 地域の小学校 | 各地域の コミュニティセンター | 地域の中学校 |
| | 57.1% | 42.9% | 28.6% |
| 無回答 (n=8) | 各地域の コミュニティセンター | 地域の中学校 | 地域の小学校 |
| | 75.0% | 25.0% | 25.0% |
| 合計 (n=67) | 各地域の コミュニティセンター | 地域の小学校 | その他の市の施設 |
| | 56.5% | 27.38% | 24.5% |

(5) 活動を立ち上げる際の課題

活動を立ち上げる際の課題について、「活動拠点となる場の確保」が最も多く 53.2%を占めている。次いで、「活動参加メンバーの確保」が高く、48.5%であり、この2つが他と比べても突出して高い。

図表 68 活動を立ち上げる際の課題(複数回答、n=359)

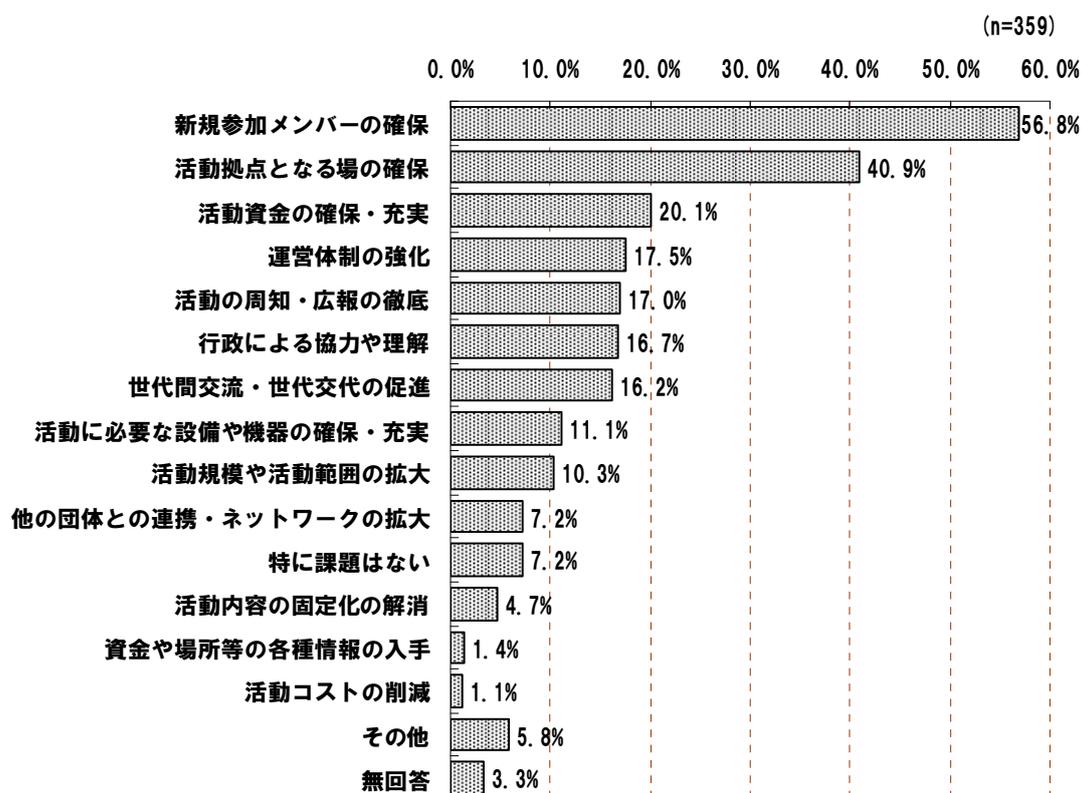


(6) 活動を継続するうえでの課題

活動を継続するうえでの課題について、「新規参加メンバーの確保」がもっとも多く56.8%を占めている。次いで、「活動拠点となる場の確保」と「活動資金の確保・充実」がそれぞれ全体の40.9%と20.1%を占めている。

活動の立ち上げや継続のいずれにおいても、活動の場所、人員及び資金の確保が団体にとって最も重要な課題であることがうかがえる。

図表 69 活動を継続するうえでの課題（複数回答、n=359）



3-3. 地域とのかかわり

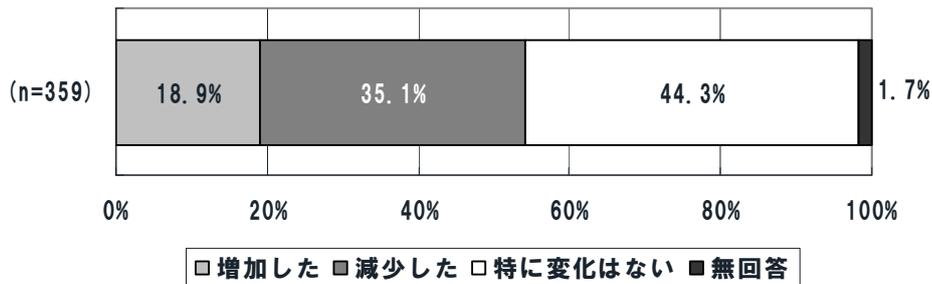
(1) 参加メンバー数の変化

過去3年間で参加メンバー数の変化について、「特に変化はない」と答えた団体が全体の44.3%を占め、最も多くなっている。

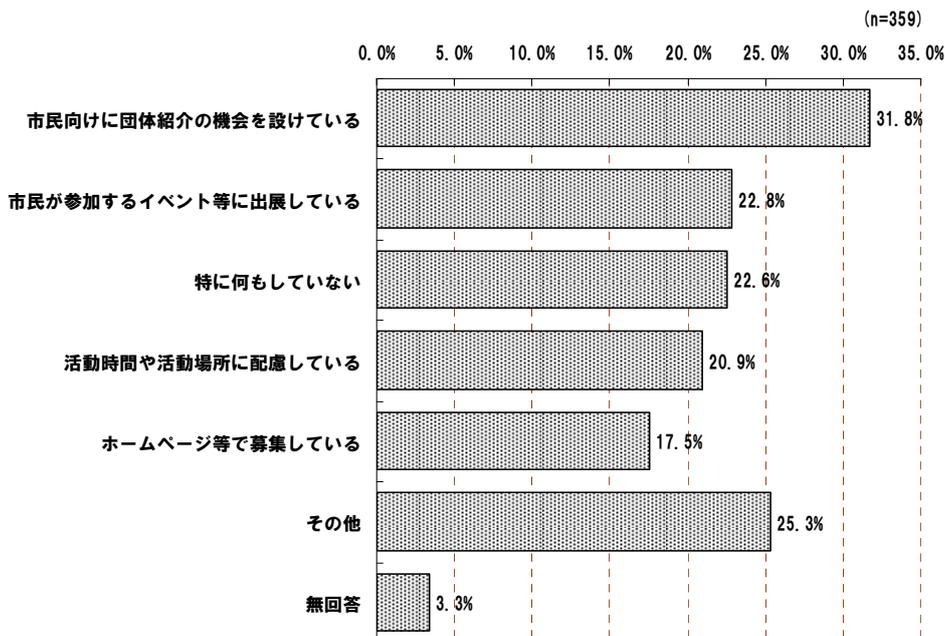
その他についてみると、「減少した」と答えた団体が占める割合は35.1%であり、「増加した」のそれを大きく上回る結果となっている。図表66でみたように、団体の継続性の確保で人材確保が大きな問題点としてあげられており、その背景として人材が減少している状況があることがうかがえる。

参加メンバーを増やすための取り組みについて、「市民向けに団体紹介の機会を設けている」団体が最も多く、全体の31.8%を占めている。「その他」の取り組みについて、多くの団体は口コミや会員による勧誘を挙げている。

図表 70 過去3年間で参加メンバー数の変化（単一回答、n=359）



図表 71 参加メンバーの増加に向けた取り組み（複数回答、n=359）

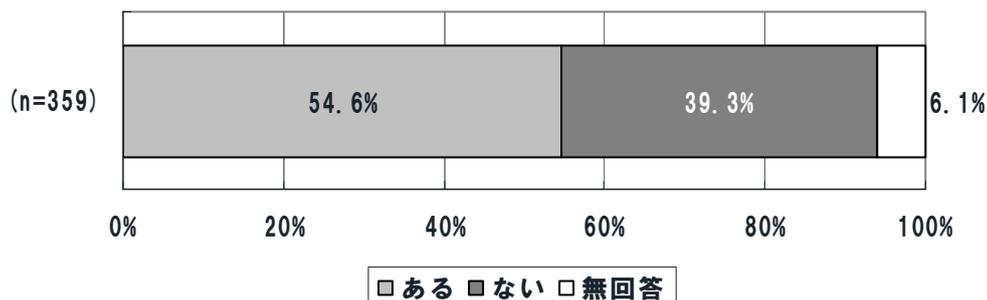


(2) 他の団体・組織（行政を除く）との協力・連携

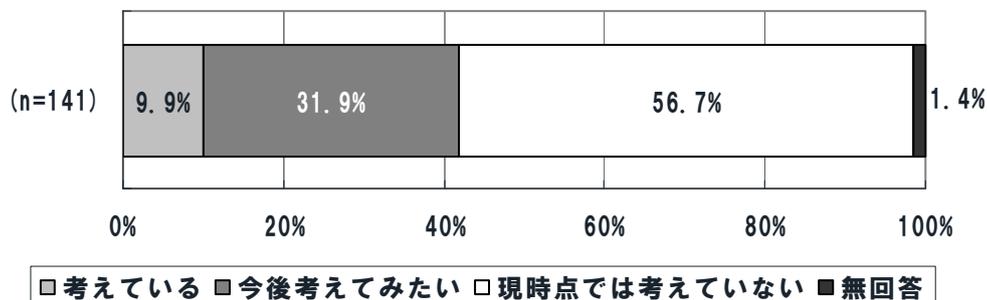
調査対象のうち 54.6%の団体が、武蔵野市内で活動している他の団体・組織（行政を除く）と協力・連携したことがあると回答している。

また、市内で活動している団体（行政を除く）との連携・協力実績がない団体に対し、他団体・組織との協力・連携意向について把握したところ、「現時点では考えていない」と回答している団体が過半を占めている。

図表 72 他の団体・組織（行政を除く）との協力・連携の有無（単一回答、n=359）



図表 73 他の団体・組織（行政を除く）との協力・連携の意向について（単一回答、n=141）
（現在市内で活動している団体（行政を除く）との連携／協力実績がない団体を対象）

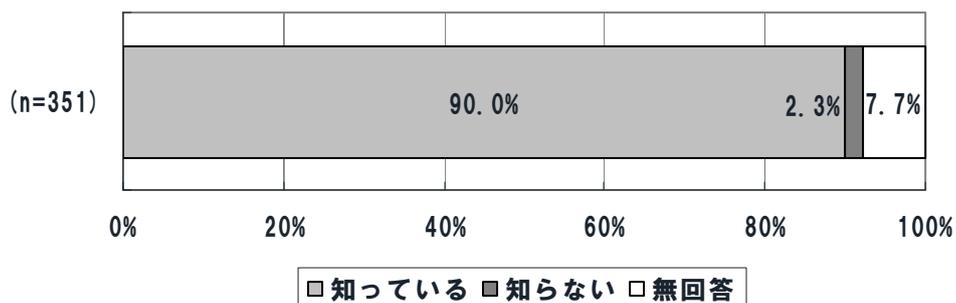


3-4. コミュニティセンターの利用状況・利用意向

(1) コミュニティセンターの認知状況

コミュニティ協議会を除く各団体についてコミュニティセンターの認知状況を把握したところ、9割が認知している。

図表 74 コミュニティセンターの認知状況（単一回答、n=351）

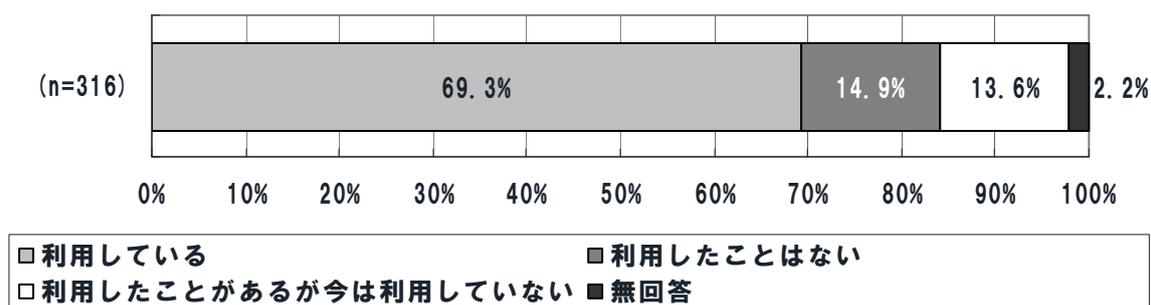


(2) コミュニティセンターの利用状況

① 利用状況

「コミュニティセンターを知っている」と回答した団体に対し、コミュニティセンターの利用状況について把握したところ、約7割が「コミュニティセンターを利用している」と回答している。

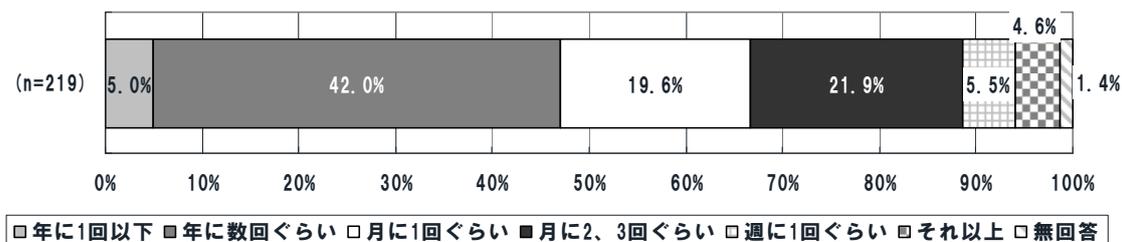
図表 75 コミュニティセンターの利用状況（単一回答、n=316）
（コミュニティセンターを認知している団体）



② 利用頻度

「コミュニティセンターを利用している」と回答した団体のうち、コミュニティセンターの利用頻度についてみると、「年に数回ぐらい」が42.0%と最も多い。

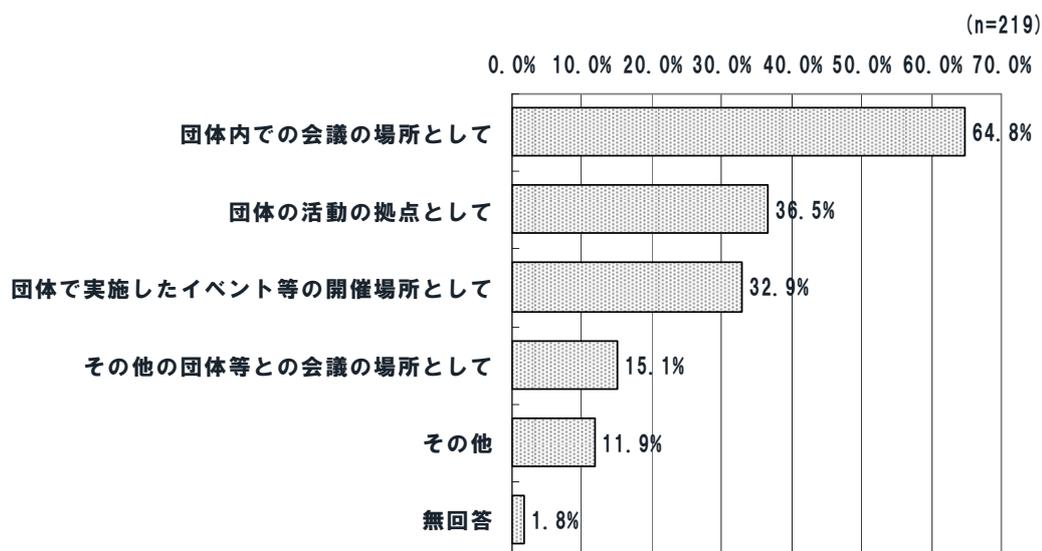
図表 76 コミュニティセンターの利用頻度（単一回答、n=219）
（コミュニティセンターの利用経験のある団体）



③ 利用内容

「コミュニティセンターを利用している」と回答した団体について、さらに利用内容をたずねると、団体内での会議の場所として利用している団体が最も多く、全体の64.8%を占めている。

図表 77 コミュニティセンターを利用した際の内容（複数回答、n=219）
（コミュニティセンターの利用経験のある団体）

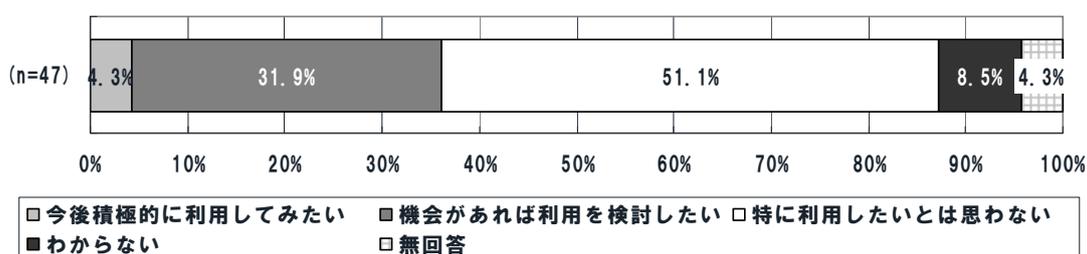


④ 今後の利用意向

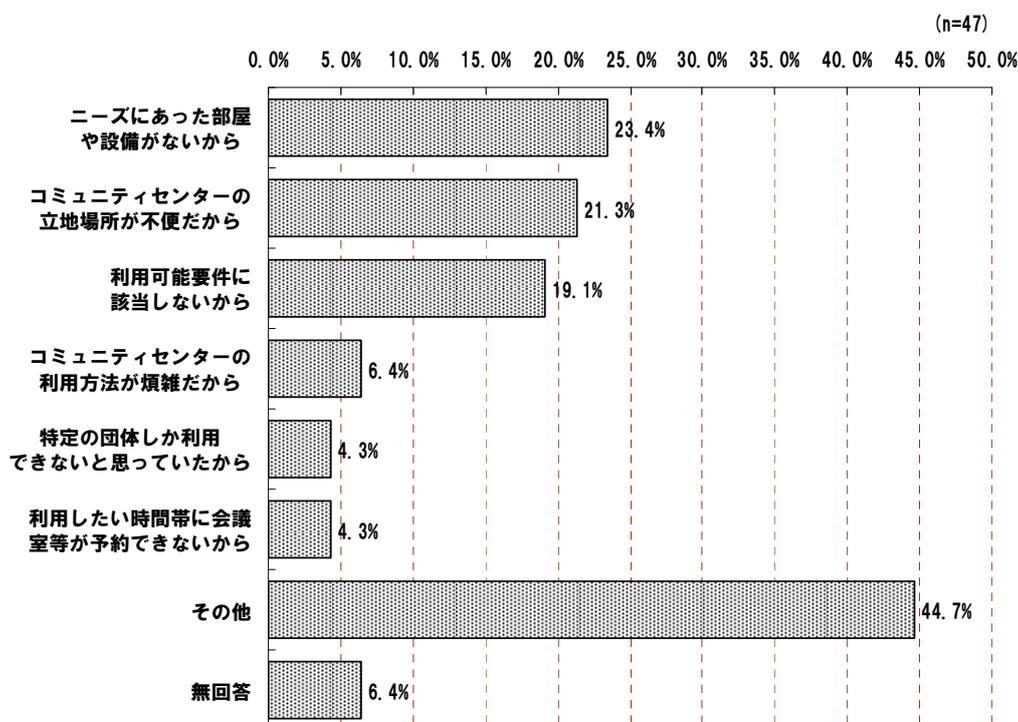
コミュニティセンターを知っているが、「利用したことはない」と回答した団体を対象に、今後の利用意向について把握したところ、「特に利用したいとは思わない」が全体の5割を占めている。

また、利用したことがない理由については、「ニーズにあった部屋や設備がないから」と「コミュニティセンターの立地場所が不便だから」がそれぞれ 23.4%と 21.3%を占めている。「その他」について、多くの団体は利用する必要性がないことや他の施設を利用していることを挙げている。

図表 78 コミュニティセンターの今後の利用意向（単一回答、n=47）
（コミュニティセンターを認知し利用したことがない団体）



図表 79 コミュニティセンターを利用したことがない理由（複数回答、n=47）

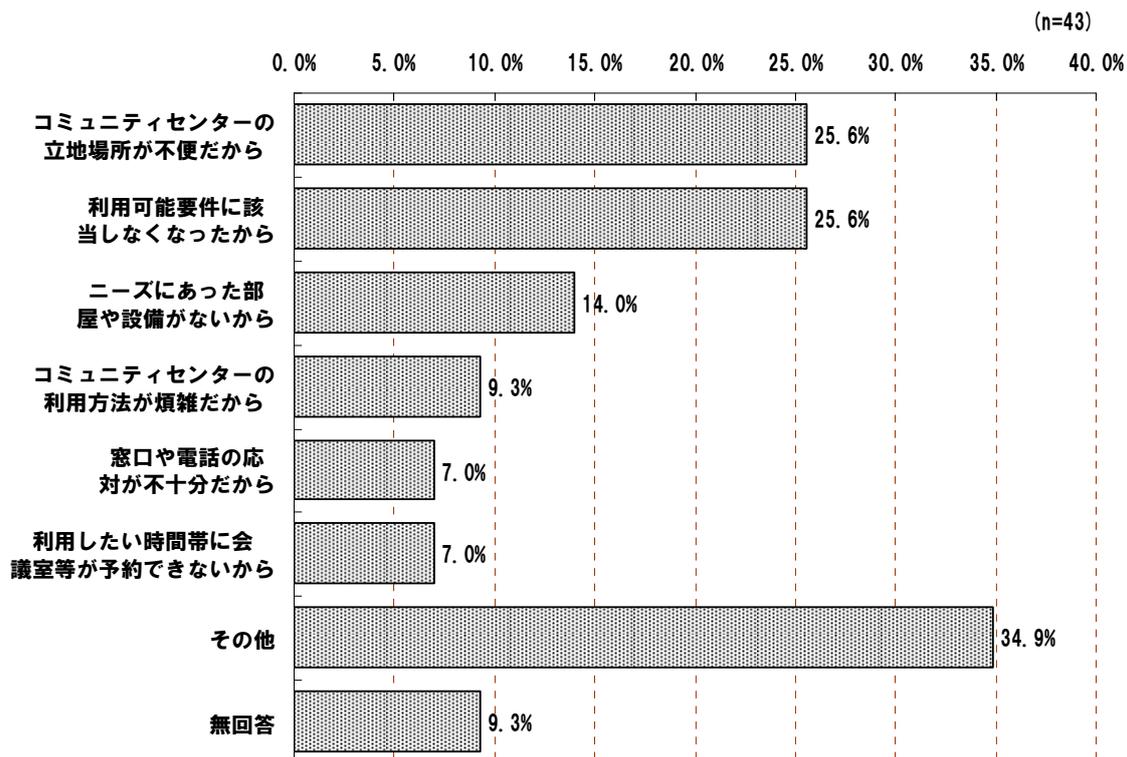


⑤ 利用をやめた理由

コミュニティセンターを「利用したことがあるが今は利用していない」と回答した団体について、その理由を把握したところ、「コミュニティセンターの立地場所が不便だから」と「利用可能要件に該当しなくなったから」がともに25.6%を占めている。

「その他」については、臨時に利用したことを理由として挙げた団体が非常に多い。

図表 80 コミュニティセンターの利用をやめた理由

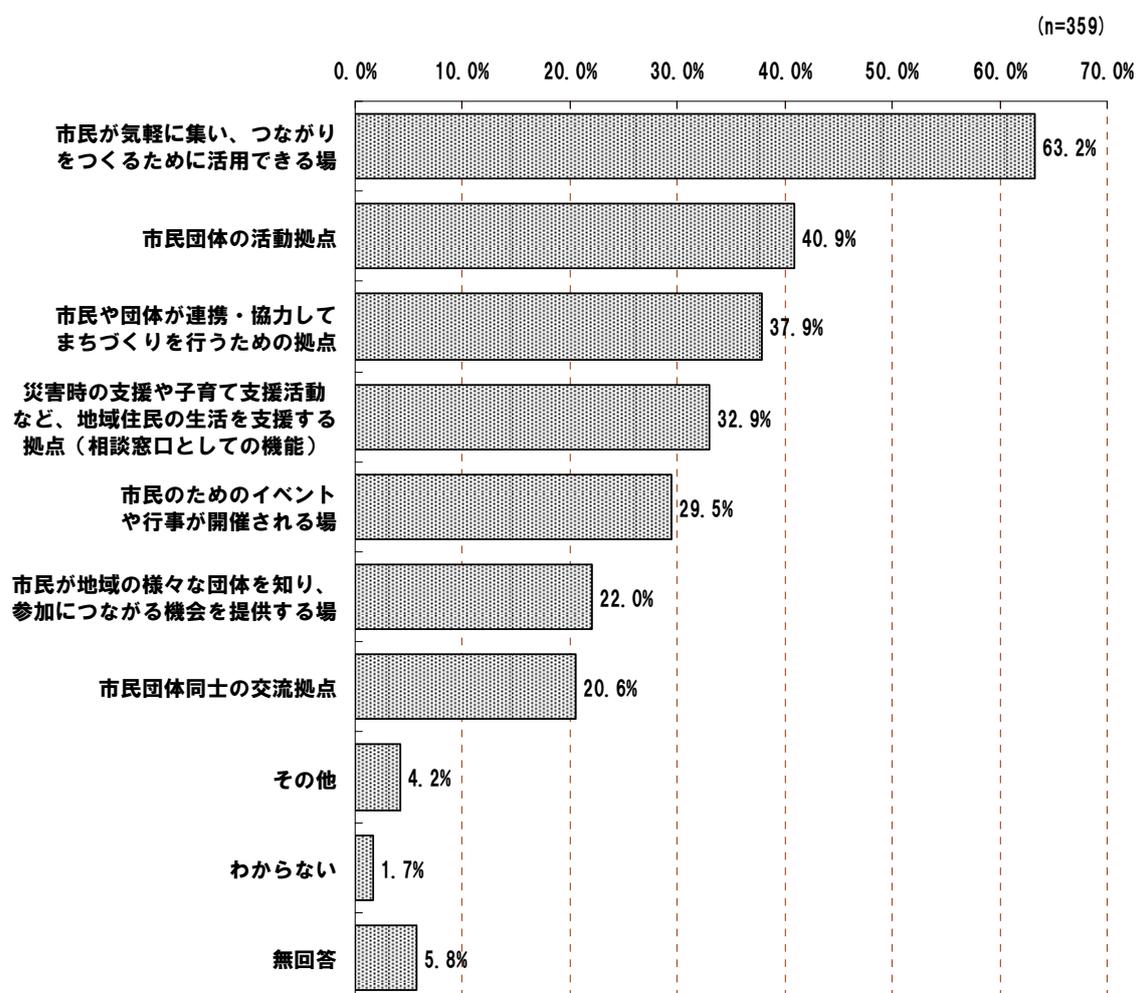


(3) 望ましいと思われるコミュニティセンターの役割・機能

すべての団体に対して、望ましいと思われるコミュニティセンターの役割・機能についてたずねると、「市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場」が63.2%と最も多い。一方で「市民のためのイベントや行事が開催される場」や「市民が地域の様々な団体を知り参加につながる機会を提供する場」については、3割を下回っていることから、相対的に「集い地域の絆を深める」空間としての機能は求めているが、コミュニティセンターがより主体的に何らかの役割や機能を果たすことについては、ニーズが低い。

次いで、市民団体活動に関する利用方法についてみると、「市民団体の活動拠点」が40.9%を占める結果となっており、団体同士の交流拠点としてのニーズは低く、こちらもあくまでも活動の空間としての機能が期待されている。

図表 81 望ましいと思われるコミュニティセンターの役割・機能（複数回答、N=359）



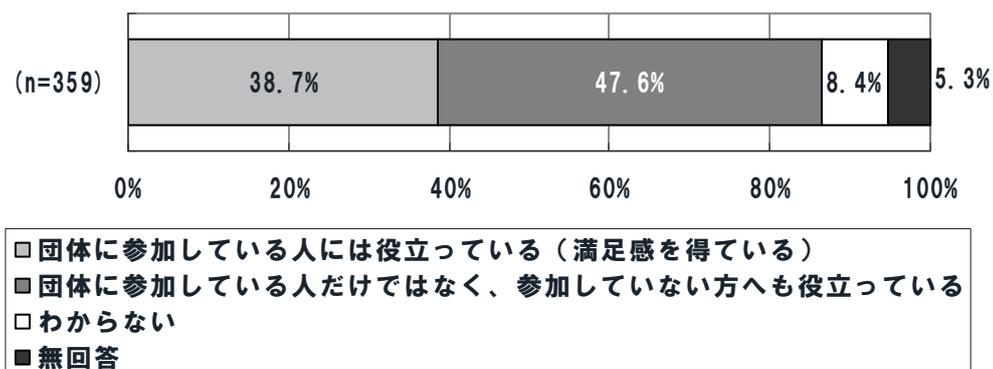
3-5. 市民自治のあり方

(1) 団体の貢献状況

約5割の団体は団体に参加している人だけではなく、参加していない方へも役立っていると感じており、団体に参加している人には役立っている、とする団体(38.7%)を上回っている。その理由について、多くの団体は会員以外の人にサービスを提供していることや交流を行っていることを挙げている。

なお、団体に参加している人には役立っている、という団体については、その理由として参加者の増加挙げる団体が多数あった。一方で、参加者の減少等で外部への発信力が弱まったといった課題を抱える団体もみられる。

図表 82 団体の貢献状況 (単一回答 n=359)



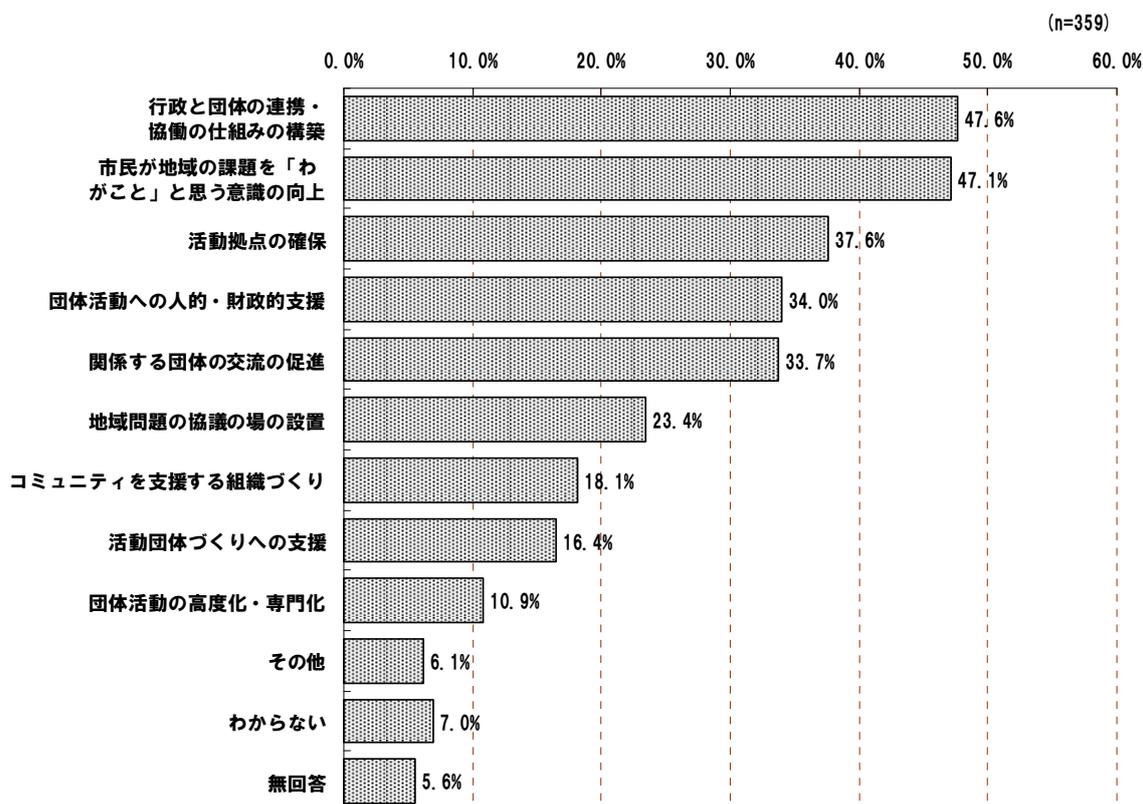
(2) 市民自治を実現するために、今後必要な取り組み

各団体も主体的に課題解決に参加していく市民自治を実現するために、今後必要な取組について聞いたところ、47.6%の団体は「行政と団体の連携・協働の仕組みの構築」が必要と考えている。また、「市民が地域の課題を「わがこと」と思う意識の向上」についても拮抗して高い割合を示している。

また、「活動拠点の確保」「団体活動への人的・財政的支援」についてもそれぞれ3割超と団体活動への各種支援が必要としている一方で、「団体活動の高度化・専門化」が必要と考える団体が1割程度にとどまっている。

「その他」について、勤労世代の活動参加を促す取り組みや行政がリーダーシップを発揮すること等の意見もみられる。

図表 83 市民自治を実現するために、今後必要な取り組み（複数回答、n=359）



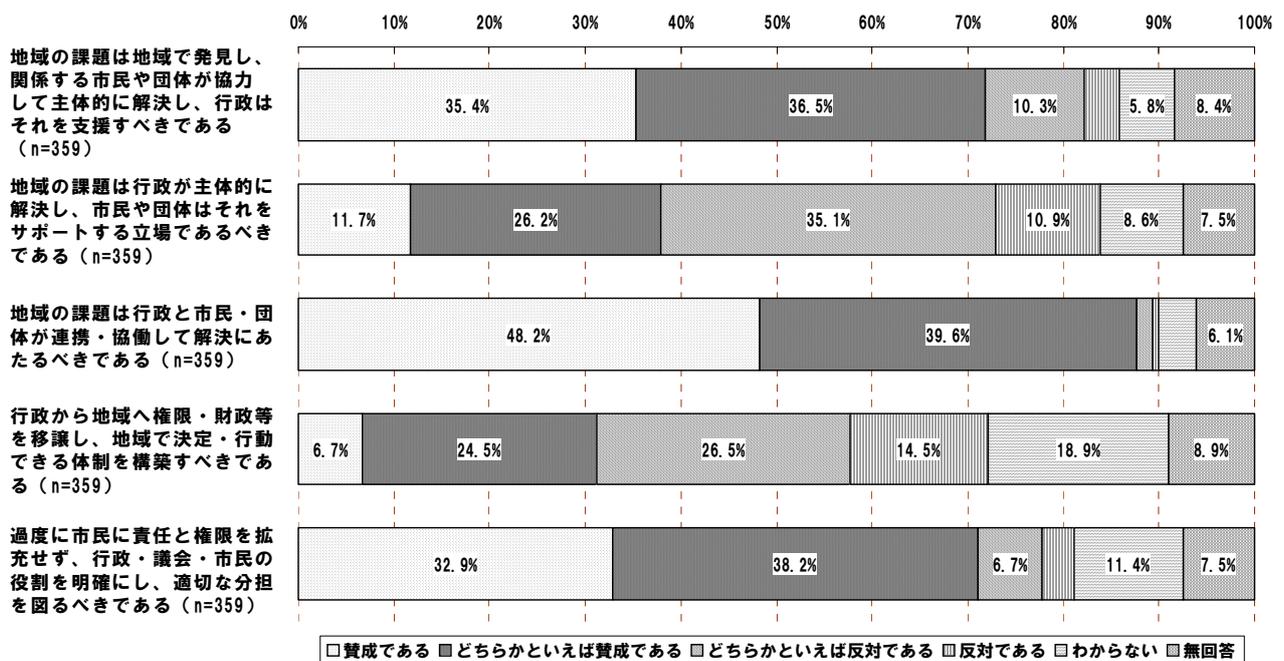
(3) 市民自治における行政との役割分担

市民自治において、行政との役割分担に関する考えを聞いたところ、「地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべきである」について「賛成である」「どちらかといえば賛成である」の合計が87.8%と最も高い。

一方で、「地域の課題は地域で発見し、関係する市民や団体が協力して主体的に解決し、行政はそれを支援すべきである」という意見に賛成についても、71.9%が賛成としているが、既にみたように、コミュニティセンターについて「市民や団体が連携・協力してまちづくりを行うための拠点」として活用するという意見は少ない。また、市民自治を進めるために「地域問題の協議の場の設置」についてもニーズは必ずしも高くない。

地域への権限の移譲については、多くの団体は市民への責任と権限の過度な拡充に慎重であり、明確かつ適切な役割分担を望んでいる。

図表 84 市民自治における行政との役割分担に関する考え



第3章 市民ワークショップの開催

1 市民ワークショップの実施概要

本調査において実施したアンケート調査結果を踏まえ、広く市民からの意見を聴取し、コミュニティに期待される役割等についての考え方を把握することを目的として、別途無作為に抽出した市民を対象に、市民ワークショップを実施した。市民ワークショップの実施概要は以下に示すとおり。

図表 85 市民ワークショップの実施概要

| |
|---|
| <p>【実施対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査とは別に無作為抽出した、武蔵野市に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人から調査協力を得られた 95 名 <p>【実施日時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下、2回にわけて実施した。 <ul style="list-style-type: none"> －平成 24 年 12 月 8 日（土）午後 1 時～午後 5 時 61 名参加 －平成 24 年 12 月 16 日（日）午後 1 時～午後 5 時 34 名参加 <p>【検討内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6名ごとのグループに分かれて、以下のテーマについて各々討議した。 <ul style="list-style-type: none"> －①地域コミュニティに期待すること －②「①」を実現するために市民としてすべきこと －③「②」を進めるために不足すること ・ グループごとの討議内容を発表し、良いと感じる提案に個人が投票する投票形式。1 人につき 3 票投票でき、1 つの提案に 3 票を投じることも可能とした。 |
|---|

図表 86 ワークショップ当日のタイムテーブル

| 時間 | 議題 |
|-----------------|--|
| 午後 1 時～ | 開会・挨拶 |
| 午後 1 時 15 分～ | 情報提供 －アンケート調査結果の概要説明（市民調査結果を中心に） |
| 午後 1 時 40 分～ | 討議 1 「地域コミュニティに何を期待する？」 |
| 午後 2 時 40 分～ | 休憩 |
| 午後 2 時 50 分～ | 討議 2 「地域コミュニティが期待通りになるために私たち市民は何をすべき？」 |
| 午後 3 時 40 分～ | 休憩 |
| 午後 3 時 50 分～ | 発表及び質疑応答 －各グループ 1～2 分で発表と質疑 |
| 午後 4 時 30 分～ | 投票と結果の共有 －各自、課題と取り組みそれぞれについて、投票 |
| 午後 4 時 50 分～5 時 | 閉会 |

2 市民ワークショップの実施結果概要

市民ワークショップの結果概要は以下に示すとおり。

【地域コミュニティに期待すること】

- ・主な意見として、世代・性別の垣根を越えた参加しやすさの確保、世代間交流、時代に合った気軽につきあえる近隣関係の構築等が挙げられた。
- ・また、具体的な取組として、ホームページ上での地域の行事に関する情報の発信、市民活動団体の対抗戦といった提案がなされた。

図表 87 得票数の多かった提案

| ①地域コミュニティに期待すること | ②「①」を実現するために市民としてすべきこと | ③「②」を進めるために不足すること |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・世代・性別を問わない、参加しやすい環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすさに配慮した環境づくり ・一時参加者（学生等）でも参加しやすい環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・発信しやすい場についての支援 ・環境づくりの支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・世代・職業を超えて地域の人々との交流を深めたい | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティでの行事へ参加する ・市民間でのボランティア活動への参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と情報交換を行う機会の設定（掲示板等の活用） ・ボランティアポイントの創設・活用 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・時代にあった近隣関係の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をすることから始める | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の意識啓発 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年齢・世代を超えて気軽に付き合えるコミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ・肝要と常識 ・コミュニティづくりのための機会を設ける | <ul style="list-style-type: none"> ・団体の立ち上げ等ハウツーと情報発信のサポート ・コミセン利用の広報強化 ・地区対抗運動会等で、地区の絆を高める ・多様なイベント、参加しやすい行事 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大人の社会科見学（企業見学）、健康講習会 ・ホームページ上で地域の行事情報の確認（カレンダー形式）ができる ・市民活動団体の対抗戦・発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・講師を探す（健康講習会等） ・企業・施設等への協力依頼 ・市に地域行事情報のホームページへの掲載を依頼する | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との交渉ができる人材 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大小の地域グループの連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、子ども会、老人会、商店会、学校、企業とともに、具体的な組織づくりを進める | <ul style="list-style-type: none"> ・市内を自由に行き来できる交通ネットワーク |

3 市民ワークショップの実施結果

市民ワークショップ結果の詳細は以下に示すとおり。投票の結果、得票数の多い提案は網掛けとした。

3-1. 2012年12月8日実施分

| グループ NO | 1 | メンバー氏名 | 川野・成宮・白石・黒田・吉良 | |
|---------------------------------------|---|-----------------|----------------|--------------|
| (1) | (2) 地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3) 地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1) 地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 助け合い | | |
| | 具体的に・・・ | 災害時に協力して助け合う | | |
| | (2)-① 地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | より多くの人々がイベントに参加してコミュニケーションをとる | | | |
| II | (2)-② 「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | コミセンの充実 | | | |
| | (1) 地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 仲を深める | | |
| | 具体的に・・・ | 誰もが参加しやすい工夫 | | |
| (2)-① 地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| コミセンを利用する | | | | |
| III | (2)-② 「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | コミセンの改革 | | | |
| | (1) 地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | 市民自治 | | |
| | 具体的に・・・ | 行政に任せすぎないで自治を行う | | |
| (2)-① 地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| 地域の中心であるコミセンを活用する(改革) | | | | |
| (2)-② 「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| コミュニケーション | | | | |

| | | | | |
|---------|---|---|------------------------|--------------|
| グループ NO | 2 | メンバー氏名 | 寺尾・かんの・ミュキ・かとう・きよもと・荒川 | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×11 | 【投票欄】 赤×8 |
| | キーワード | 途中からでも参加しやすい環境を作る | | |
| | 具体的に・・・ | <ul style="list-style-type: none"> ・定年後地域で働く(貢献)ことができる ・働き盛りの世代(特に男性)が活動に参加できる ・社会人でも参加しやすい環境が必要 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・働く世代が子連れで参加しやすい環境を提案する ・市民が活動している内容をわかりやすく発信する(伝える) ・参加したがっている人を巻き込む | | | |
| | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・発信しやすい場、ツール⇒行政的支援(プレイス的、掲示板・・・) ・学生などの一時的な市民が参加しやすい環境づくり、支援⇒リターン | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×2 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 非常時に市民が協力できる体制を作る | | |
| | 具体的に・・・ | <ul style="list-style-type: none"> ・災害のときに助け合うこと ・防犯に協力して引ったくり、空き巣などを防ぐ ・近所の子供たちに声をかけて危険から守る | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・不在時(就業時など)の協力体制を決めておく ・地域のリーダーを決めておく | | | |
| | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・非常時(災害レベル)の定義を行政とともにつくる ・継続的に活動するための費用 | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 - | 【投票欄】 - |
| | キーワード | - | | |
| | 具体的に・・・ | - | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | - | | | |
| | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | - | | | |

| グループ NO | 3 | メンバー氏名 | 寺澤・平野・てらじま・原田・今井 | |
|-------------------------------------|--|---|---------------------|---------------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×8 |
| | キーワード | 地域みんなで子育て支援 | | |
| | 具体的に・・・ | ・子どもからお年寄りまでの交流の中で子育て。 ・小～高校生の居場所の確保 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・積極的に参加、挨拶(コミュニケーション)の慣行 ・子育て経験者が若い世代を積極的に支援 | | | |
| II | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | 【投票欄】 黄×9 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | 地域コミセンの活性化 | | |
| | 具体的に・・・ | 行事、祭り、気軽に入れる(喫茶)、若者の出会いの場 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 自発的なイベント参加の企画 | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | 【投票欄】 黄×4 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 災害時のコミュニティーの役割 | | |
| | 具体的に・・・ | 地域コミセンの役割 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・コミュニティ単位での防災訓練に参加 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 情報の開示が少ない | | | | |

| | | | | |
|---|--|-------------------------------------|---------------|--------------|
| グループ NO | 4 | メンバー氏名 | 南部・荒木・平井・原・平野 | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | 情報の入手(提供) | | |
| | 具体的に・・・ | ・地域のマンション建設 ・犯罪 ・事故等の発生情報 etc | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関心を持つ。気にかける ・地域住民が互いに交流する機会をつくる | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×2 |
| | キーワード | 人間関係をつくる | | |
| | 具体的に・・・ | 助け合い(困ったときの)、子育て、高齢者対応、気軽な話し相手 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけコミセンなどの活動に参加する ・お互いに助け合う(子ども、高齢者を助ける) | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×2 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 子育て、高齢者への対策 | | |
| | 具体的に・・・ | 施設の充実、ネットワーク | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に行政に相談に行く ・市民で助け合う行動、組織をつくる | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミセンを行政が責任を持ったセンターに改組 ・自主的なコミセン運営 | | | | |

| | | | | |
|---|--|-------------------------|--|---------------|
| グループ NO | 5 | メンバー氏名 | カワダ・伊 ^イ 與 ^ヨ 部 ^ベ ・アライ・アラコ・ゆう | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×4 | 【投票欄】 赤×2 |
| | キーワード | コミュニティセンターの有効活用 | | |
| | 具体的に・・・ | コミセンをもっと効果的に使用したい | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | もっと積極的にコミセンを利用する | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×7 | 【投票欄】 赤×12 |
| | キーワード | 地域の方々との交流 | | |
| | 具体的に・・・ | 世代や職業を超えて地域の方々との交流を深めたい | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの行事への参加 ・市民同志のボランティア活動 | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 防災 | | |
| | 具体的に・・・ | 周辺地域の方と一緒に防災訓練 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模でもいいので継続的な訓練を行う ・避難場所をしっかりと理解する | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・訓練情報の発信 ・災害時の情報発信(ケーブルTV) | | | | |

| グループ NO | 6 | メンバー氏名 | アラキ・村中・村山・カワシミ・ユミ | |
|---|--|----------------------|----------------------|----------------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×10 | 【投票欄】 赤×16 |
| | キーワード | 近隣との関係 | | |
| | 具体的に・・・ | 時代にあった近隣関係の構築 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | まずはあいさつ！！ | | | |
| II | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 個々の意識！ | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 市民参加型の地域交流 | | |
| | 具体的に・・・ | 気軽に参加できるようなイベント開催 | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| 主体的にイベントの企画および協力！ | | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 行動力と積極性！ | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | コミセンの活用・広報 | | |
| | 具体的に・・・ | コミセンの活動内容および使用方法の明確化 | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| 自らの積極的な参加及び声掛けによる広報活動！ | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| コミセン側の対応と広報！ | | | | |

| グループ NO | 7 | メンバー氏名 | テラオカ・佐々木・森谷・森田・クロセ | |
|---|--|---|--------------------|--------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×7 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | 安心・安全に暮らせる町づくり | | |
| | 具体的に… | <ul style="list-style-type: none"> ・歩道を自転車が猛スピードで通るので危険を感じる ・自転車のマナーが悪い ・安全・防犯に対する警察のあり方 ・自然環境の良い住みやすい地域を期待する ・防犯カメラを増やしたい ・吉祥寺駅北、南で寺の所有地が多く、賃貸の場合に自由にさせない ・老人が増えたので元のように大きくしてほしい ・松屋左脇通路に自転車を置かれるので何とかしてほしい ・救急車がすぐ来てもらえる地域 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| 自転車の登記制、厳しく違反者に罰金 | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用者の取り扱い ・自転車走行違反(罰金)の周知 | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×4 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 幅広い年齢が参加できるように | | |
| | 具体的に… | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどんな団体があるのかわからないし、なんとなく参加しづらい ・隣近所の人の顔も知らない等ということが少ない地域 ・福祉の行き届いた地域 ・高齢化対策の行き届いている地域 ・境駅南口のイルミネーションを暖色(赤)に ・各地域に老人会を作り老人同志のコミュニティを作ってほしい | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| 高齢者福祉(施設・介護サービス) | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| もうちょっとだけ市が手助け | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×2 |
| | キーワード | 今回のワークショップの内容をどう生かすのか | | |
| | 具体的に… | <ul style="list-style-type: none"> ・駅から遠いので交通機関(ムーバス・自転車)の便利が悪い ・境駅南口図書館の入場者が長居する者がいて利用度が悪い ・境駅南口のお墓は近代的なものに造り替え明るくなりませんか ・南武線の武蔵境―是政―南多摩について、是政に接続してほしい ・雨の日、境駅の通路が水浸しになります。すべるのを気にしながら歩きますので何か対策をしてほしい ・境駅南口ロータリーのイルミネーションは白と青でこの冬のためには寒々しい。赤色を入れてほしい。 <p>キーワードをはじめ、市自体に対する意見が多数出たのでご検討よろしく願います</p> | | |

| | | | | |
|------------------------------|--|---|------------------|--------------|
| グループ NO | 8 | メンバー氏名 | とみよ・つゆき・荒川・平松・平井 | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | コミセン | | |
| | 具体的に… | ・利用者に偏りがある(若年層、男性の参加が少ない) ・活動内容の情報発信を増やすべき | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・挨拶 ・自分から声をかける ・リーダーコミュニケーション研修(世話役) | | | |
| II | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 街づくり | | |
| | 具体的に… | 困ったときに「助けて！」と近隣に声かけられる雰囲気だと良い | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 共通の目的(資源回収など)を持った活動をして日ごろからコミュニケーションをとる | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 災害 | | |
| | 具体的に… | 災害時にすばやく組織的に動けるように素地を持ってほしい | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・得意なことを供出する ・知恵袋集団 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 知恵を持っている人たちがどこにいるのか情報が足りない | | | | |

| | | | | | |
|--|--|--|---------------------|--------------|--|
| グループ NO | 9 | メンバー氏名 | 堀口・たか子・きょうこ・れいこ・けいこ | | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×8 | |
| | キーワード | 市民活動と市(行政)との連携 | | | |
| | 具体的に・・・ | ・もう少し市の協力が欲しい ・新しい市民活動への協力 ・スペシャリストとのジョイント | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市への働きかけ(協力要請) ・力をつける | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×8 | |
| | キーワード | 子育ての地域の協力 | | | |
| | 具体的に・・・ | ・自治会や町内会に変わる近所での助け合いの仕組みづくり ・子供向けテンミリオンハウス各駅近 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・近所での声かけからスタート、シニアのボランティアを募る | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄× | 【投票欄】 赤× | |
| | キーワード | 災害に強いコミュニティー作り | | | |
| | 具体的に・・・ | ・災害時子どもやシニアを孤立化させない ・家族への伝達 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、町内会に代わる近所でのネットワーク作り ・無作為任命(3・11をきっかけにしたもの) | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・世代交代させる ・若い世代の取り組み ・集まりたくなる+α(3・11の危機感) | | | | | |

| グループ NO | 10 | メンバー氏名 | 土肥・村崎・平井・かわばた・平岡 | |
|--|---|-------------------------|------------------|--------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | 子育て | | |
| | 具体的に・・・ | 子どもにも親にも安心・安全なコミュニティ | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りを増やす→安全な地域 ・子育てコンシェルジュ ・子ども会 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に参加できる集まり ・市からの支援、インフラ整備 ・ノウハウがわからない！！発信の場がない！！ | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×11 | 【投票欄】 赤×9 |
| | キーワード | つながり | | |
| | 具体的に・・・ | 年齢、世代を超えて気軽に付き合えるコミュニティ | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・寛容と常識 ・コミュニティ創造のための機会をつくる | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・団体のつくり方、ハウツーと情報発信へのフォロー ・コミセンの使い方がわからない ・地区対抗運動会で地区の“絆”アップ ・変わったイベント、活気あるイベント、参加しやすい行事 | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 - | 【投票欄】 - |
| | キーワード | - | | |
| | 具体的に・・・ | - | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | - | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| - | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|----------------|--------------|
| グループ NO | 11 | メンバー氏名 | 栗山・平島・荒井・のり・倉井 | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×2 |
| | キーワード | 災害時の協力 | | |
| | 具体的に・・・ | ・震災等災害時の協力体制 ・生活情報の提供(日常から) ・平素から回覧板活用 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・地域連絡網の整備 ・防災計画の作成と避難訓練 ・市民が市民同士で情報を共有する | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | 地域の安全 | | |
| | 具体的に・・・ | 犯罪パトロール(暴走運転、歩行喫煙の阻止) | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・地域住民による自警団の設定 ・子どもたちの通学路に暴走車両を取り締まる | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×1 | 【投票欄】 赤×0 |
| | キーワード | コミュニティに期待すること | | |
| | 具体的に・・・ | ・コミュニティの役割は何か ・老後等困ったときの助け合い | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・コミュニティの役割を知らしめる ・行政と市民との連携を強化する | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| ・興味を引くような情報発信をする ・コミュニティセンターの近代化(若者が利用するような施設) | | | | |

| グループ NO | 12 | メンバー氏名 | 倉持・奈良部・ミヨシ・たらだ・キヨハラ | |
|--|--|---|---------------------|--------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×1 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 交流の場 | | |
| | 具体的に・・・ | ・イベントが行える場を設定し複数のメディアで情報発信していく ・イベントに気軽に参加したり設定できるコミュニティーづくり | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターに行く(活用)、一泊してみる ・イベントを把握する努力 ・同志でイベントを企画 ・イベントに気軽に参加する ・他にないイベントをつくる | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターなど核になる地域組織と情報発信ツールが必要 ・駅前のピアガーデン・お祭り(老若) ・がんばっているコミュニティーを重点支援して欲しい。平等でなくていい | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 災害・防災・安全 | | |
| | 具体的に・・・ | 災害時にどこ何があり、どう行動すべきかを事前に知らせる仕組みづくり | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <p>まずはコミュニティセンターに行ってみよう！(一泊してみる)そこに行くまで、その場で何が足りないか把握しましょう！</p> | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <p>災害訓練を企画してほしい</p> | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×8 | 【投票欄】 赤×7 |
| | キーワード | コミュニティの明確化 | | |
| | 具体的に・・・ | 自分がどのコミュニティに属しているか、またコミュニティ内の情報を共有 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分がどの地域コミュニティに参加しているか把握する意識を持つ ・行政からの情報発信に耳を傾ける | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーの区切りを明確化、宣伝(年齢・性別・趣味etc) ・複数のコミュニティミックス | | | | |

3-2. 2012年12月16日実施分

| グループ NO | 1(12/16) | メンバー氏名 | もりさき・荒井・倉島・村永・村瀬 | |
|---|---|--|---------------------|---------------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×8 |
| | キーワード | 困ったとき(災害など)に助け合える | | |
| | 具体的に... | ・1人で出られない(足が悪いなど) ・どこに誰がいるか知らないため | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・あたりまえの挨拶→一歩踏み込んだ関係づくり ・支援が必要であること、困っていることを周りに伝える | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一歩踏み込める「きっかけ」、勇気 ・支援を必要とする人の情報(顔写真、住まい...) | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | お互いの顔と名前が一致する | | |
| | 具体的に... | <ul style="list-style-type: none"> ・趣味や娯楽の共有 ・清掃ボランティア活動 ・コミュニティセンターを気軽に利用できるようにする ・子どもの安心・安全など変わった事があつたら声をかけられる | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加する(イベント、催し物、ボランティア活動)、登下校の見守りなど ・あたらしく参加した人への配慮 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすいように工夫する(動画公開など) ・いろいろなイベント企画(町対抗ボーリング、カラオケ) ・顔をあわせるアナログな関係づくり(回覧板をまわす) | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 - | 【投票欄】 - |
| | キーワード | - | | |
| | 具体的に... | - | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | - | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| - | | | | |

| | | | | |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------------|--------------|
| グループ NO | 2(12/16) | メンバー氏名 | 原田(男)・原田(女)・荒川・久力(全てマンションの住人) | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×4 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 災害に強い街 | | |
| | 具体的に… | 地域の人との連携がある | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 管理組合が、防犯、防災等で地域協議会等と連携する様に参加、働きかける。 | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×3 |
| | キーワード | 文化活動(イベントを含む)が活発で身近である。 | | |
| | 具体的に… | 音楽活動等、文化活動により参加しやすく | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 市の会報(情報)をより関心をもって読む。(情報収集) | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×0 |
| | キーワード | 日常アイサツがある街 | | |
| | 具体的に… | アイサツ(顔)→相互の名前を知っている→相互の家族についても知っている。 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 自分から先ずアイサツをする。 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| アイサツをする勇気を持つ。 | | | | |

| | | | | |
|-------------------------------------|--|--|---------------------|----------------------|
| グループ NO | 3(12/16) | メンバー氏名 | 丸さん・頼子さん・康彦さん・なおき | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×8 | 【投票欄】 赤×10 |
| | キーワード | コミュニティの活性化 | | |
| | 具体的に・・・ | 大人の社会科見学、健康講習会(定期)、HPで行事チェック(カレンダークリック)、市内活動団体の対抗戦/発表会 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 先生をさがす(ボランティアだけど、宣伝できる)⇒健康講習会 会社・施設の人に対応をお願い/コミュニティレベル交渉 市役所の人にHPに載せてもらう・交渉 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 交渉役 | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | 行事の伝達手段の多様化 | | |
| | 具体的に・・・ | 市のHPチェック/ハガキ/コミセンでのチェックが可能 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | ・スーパー/コンビニで告知(要交渉⇒市役所の人?) ローソン/セブンイレブン etc. →各コミュニティの人、市役所の人に報告 ・コミセンに行事予定を貼り出す(HPからプリントアウト) | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 地域の人と市役所のネットワーク。 | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×7 | 【投票欄】 赤×7 |
| | キーワード | ベーシックな生存確認 | | |
| | 具体的に・・・ | ゆるやかな隣組の復活(X強制でない) | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | コミュニティの強化→コミセンに新聞・雑誌・血圧計・お茶(毎日行かれる)→各コミセン毎に希望者は名簿をつくる→連絡(安否確認) | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 雑誌等の購入費用。 | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|---------------------|---------------------|
| グループ NO | 4(12/16) | メンバー氏名 | 平田・なりた・兵動・むらお | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | 1人ぼっちと思わない地域 | | |
| | 具体的に・・・ | ・全ての人に優しい ・お互いの助け合い ・近所の人達とのつながり ・子どもから高齢者までのつながり | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | コミセンの存在を広める、知らせる (インターネット、特にSNSの有効活用) | | | |
| II | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | コミセン自体のPR 運営委員に若い人の参加。有償ボランティアの増。 | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×2 | 【投票欄】 赤×1 |
| | キーワード | 災害時の安全確保 | | |
| | 具体的に・・・ | ・住民に安心の場 ・質の良い情報収集の場 ・楽しいイベント | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| コミセンを災害時の防災拠点とする | | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 運営委員を増やし、行政の協力が必要 | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×9 |
| | キーワード | 更に地域密着型の組織づくり | | |
| | 具体的に・・・ | 大小の地域グループの連携 | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| 各団体(自治会、子ども会、老人会、商店会、学校、企業他)と具体的に組織づくりをする | | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 交通ネットワークの広がり。足がない！！ 例えば、武蔵境⇒八幡町⇒緑町3丁目⇒市役所のルート ムーバス | | | |

| | | | | | |
|--|---|--|----------------------|--------------|--|
| グループ NO | 5(12/16) | メンバー氏名 | みよちゃん・しゅとう・ムラナガ・てらうち | | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきこと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×7 | 【投票欄】 赤×3 | |
| | キーワード | 居場所作り | | | |
| | 具体的に… | ・コミセン…誰もが集まりやすい場所になって欲しい ・ぶらっと出かけられる場所があるといい ・地域と結びつきの弱い方でも参加しやすい居場所や活動 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある催しに積極的に参加する ・コミセン等の箱物の運営に協力する(コミセンが特定の集団になるのではなく、誰にでも使いやすい場所に) ・コミセン、テンミリオン等をまず試してみる | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| コミセンが箱物として使うのではなく、いろいろな役割(相談センター、居場所とか etc.)を担える。 | | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×0 | 【投票欄】 赤×4 | |
| | キーワード | 情報がわかりやすく伝わるように | | | |
| | 具体的に… | ・困った時に、誰に、どこに聞けばよいか、わかるようになる ・いい。 ・コミセン・テンミリオン・武蔵野プレイス etc.どう使ったらいいの か、わかりやすく教えて欲しい。(ロコミみたいにして) | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | ロコミを活用する(おしゃべりなおばさんでも憎めないおばさんになる。) | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべりする場所 ・人間関係 | | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×5 | |
| | キーワード | 意識を変えよう | | | |
| | 具体的に… | ・個人や家族が孤立しないような関係作り ・ゆるやかに結びついた地域社会 ・困っている方(障がい者、高齢者、子育て中のみママ etc.)が外 に出ていきやすくなって欲しい。 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・まず、自分が変わる。関わりを持とうとする気持ち ・声かけをする。「一緒に行かない？」あいさつをする。 ・プライドが高すぎると誘いにくいので、誘いやすい人になる。いつも気にかけている態度、気持ちを持つ。 | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現状ではダメだという問題意識 ・他人への関心 | | | | | |

| | | | | | |
|--|---|---|---------------|--------------|--|
| グループ NO | 6(12/16) | メンバー氏名 | 平井・村上・室・平田・茅野 | | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×7 | 【投票欄】 赤×4 | |
| | キーワード | 情報発信の方法 | | | |
| | 具体的に… | ・大量な詳細情報ではなく(現在の「むさしの」や「市報」)、もっと気軽にピンポイントで公共サービス、相談等の情報を知れる工夫のある情報発信 ・参加しなくてもHP等で活動結果が知れる(市のHPの充実化も含め) ・世代、家族構成別に必要な情報を提供する工夫 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | ・分割された地域で配布される情報については、必ず目を通す努力をする事 ・情報発信している場所を把握する事 ・知りたい情報を家族で事前に話し合いをしておく | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| 行政・情報を発信する側が、どの伝達手段で、どれだけ情報が伝わっているかを把握する事 | | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×2 | 【投票欄】 赤×1 | |
| | キーワード | 市民交流の場(工夫) | | | |
| | 具体的に… | ・気軽に集まれる懇親会。出来るだけ月1回や週1回の決まった日時で。 ・季節感を感じるイベント | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | 現状のコミュニティセンターにおける問題点を知る。 | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| 交流の場所の不足(コミュニティセンター以外にも必要なのではないか?) イベント内容のかたよりに注意!!参加する側の対象の明確化と内容の多様化 | | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×5 | 【投票欄】 赤×5 | |
| | キーワード | 市民の意見をまとめる身近な場 | | | |
| | 具体的に… | 駅周辺の自転車置き場のスペース確保や、子供達が元気に安全に遊べる環境など。直に行政へのリクエストを届ける。 | | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| | 今日のような場を含めて、参加した活動や内容の大切さを家族や身近な人へ伝えていく事。 <u>ABC共通</u> 積極的に市の活動に参加する事 | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | | |
| 市民の意見をくみ取ってくれる、市議会委員との直接の交流の場を増やす事(今日のように参加しやすいもの) <u>ABC共通</u> 参加したら、市民の生活にとって利益になるプラスアルファがあると参加しやすい。例えば、市の有料ゴミ袋 | | | | | |

| グループ NO | 7(12/16) | メンバー氏名 | 小川・村山・アラシダ・中條 | |
|------------------------------|--|--|---------------|--------------|
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×1 | 【投票欄】 赤×1 |
| | キーワード | 情報伝達 | | |
| | 具体的に… | 近所の方々との交流 | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で様々な行事を開催し、隣近所に参加をよびかける。 ・知り合いを多く作る。 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| - | | | | |
| II | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×1 | 【投票欄】 赤×4 |
| | キーワード | 助け合い | | |
| | 具体的に… | <ul style="list-style-type: none"> ・遠い親戚より近くの他人 ・近所n方々と仲良くする | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市民はそれぞれ何をしてもらいたいのか？ ・要望すると共に、それぞれの出来ることについて情報を提供する ・インターネットの活用 ・人材/施設の有効活用 ・ポイント制 | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| - | | | | |
| III | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄× | 【投票欄】 赤× |
| | キーワード | - | | |
| | 具体的に… | - | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | - | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| - | | | | |

| | | | | |
|--|---|---|---------------------|---------------------|
| グループ NO | 8(12/16) | メンバー氏名 | 倉本・白川・浦田・村谷 | |
| (1) | (2)地域コミュニティに期待することを、整理して下さい (3)地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがすべきことと、そのために足りないことを整理して下さい。 | | | |
| I | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×6 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | ①非常時の対応 | | |
| | 具体的に… | I災害時に助け合い、迅速に対応できること対応できること II災害時に協力し合える | | |
| | (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | |
| | 個人でできる事が限られている。コミセンを中心に情報を発信してもらい、町内会、自治組織をつくりネットワークを形成していく。全住民にアンケートを実施。 | | | |
| II | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 情報の共有。住民の意識。 | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×6 |
| | キーワード | ②開放的な雰囲気でお気軽に利用しやすい | | |
| | 具体的に… | III高齢者や子育て中の親が気軽に利用できる IVお祭り、スポーツ大会などの住民交流 | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| コミセンが地域のネットワークの中心になる。 コミセンの再生。組織化。 | | | | |
| III | (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | |
| | 住民の意識化。意識を高める。行政の指導。 | | | |
| | (1)地域コミュニティに期待すること | | 【投票欄】 黄×3 | 【投票欄】 赤×5 |
| | キーワード | ③地域の問題解決 | | |
| | 具体的に… | 地域の問題を住民の自治を通して解決していく | | |
| (2)-①地域コミュニティが期待通りになるために、私たちがなにをすべきか | | | | |
| コミセンを中心にさまざまな情報発信をしてもらう。 できれば町内会、自治組織をつくる。ネットワークの形成をする。 | | | | |
| (2)-②「(2)-①」を進めるために足りないものは何か | | | | |
| 情報の共有。住民の意識化。 | | | | |

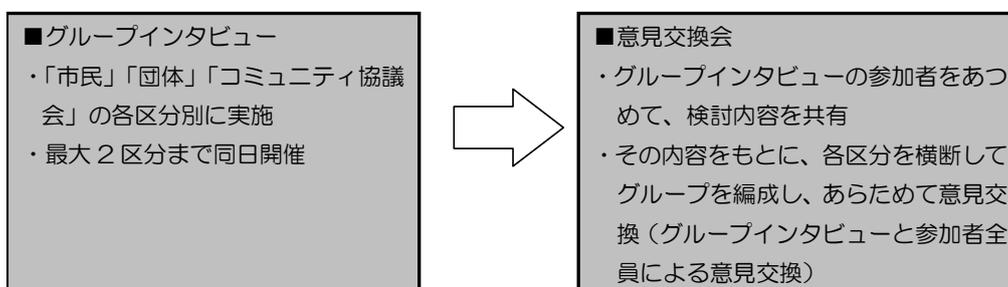
第4章 ヒアリング（グループインタビュー）調査

1 ヒアリング（グループインタビュー）調査の実施概要

「第2章」において実施したアンケート調査に協力が得られ、かつグループインタビューへの参加意向が得られた「市民」「市民活動団体」「コミュニティ協議会」を対象に、ヒアリング（グループインタビュー）調査を実施した。

「市民」「市民活動団体」「コミュニティ協議会」各々別にヒアリング（グループインタビュー）調査を実施したうえで、参加者が一同に会し、検討内容を共有するとともに、各区分を横断して編成したグループで意見交換を行い（意見交換会）、今後のコミュニティのあり方や、役割分担について議論を深めた。グループインタビュー及び意見交換会の考え方、実施概要は以下に示すとおり。

図表 88 グループインタビュー及び意見交換会の考え方



図表 89 グループインタビュー及び意見交換会の実施概要

| |
|--|
| <p>【実施対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査への協力が得られ、グループインタビューへの参加意向が得られた市民 119 名、団体 146 団体のうち、開催日程での参加が可能であった市民 5 名、団体 9 団体（コミュニティ協議会含む） <p>【実施日時】</p> <p>■グループインタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に対するグループインタビュー <ul style="list-style-type: none"> －平成 25 年年 2 月 28 日（木）午後 7 時～午後 9 時 5 名参加 ・団体に対するグループインタビュー <ul style="list-style-type: none"> －平成 25 年年 2 月 27 日（水）午後 7 時～午後 9 時 6 団体参加 ・コミュニティ協議会に対するグループインタビュー <ul style="list-style-type: none"> －平成 25 年年 3 月 1 日（金）午前 10 時～正午 3 団体参加 <p>■意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> －平成 25 年年 3 月 5 日（火）午後 7 時～午後 9 時 4 名及び 8 団体参加 <p>【検討内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループインタビューでは、主に以下の内容について意見把握 <ul style="list-style-type: none"> －地域との関わり方（地域での活動状況） －地域コミュニティ等に期待すること －コミセンの利用状況 －コミュニティ協議会との関わりや、期待すること ・意見交換会では、グルインの結果を共有し、地域のコミュニティを形成するという目的に対して、コミュニティ協議会を前提とした上での、市民・団体・コミュニティ協議会の役割分担等について議論 |
|--|

2 実施結果概要

各グループインタビュー及び全体会の結果概要は以下に示すとおり。

【市民グループインタビュー】

- 地域とのかかわりを持つためのきっかけづくり
 - ・世代間を超えたつながりづくりの重要性が指摘された。
- コミセン・コミュニティ協議会のあり方
 - ・コミュニティ協議会の運営のあり方については、閉鎖的であり、改革すべきという意見が多い。
 - ・コミセンについても、単なる貸し部屋になっていることに対する不満感があり、より市民が気軽に集いやすく、つながりづくりのための場にすべきとの意見が出された。
- 市民自治・コミセン運営のあり方
 - ・若い世代を地域活動に促すための仕組みづくり、団体を身近に感じるための工夫の必要性等の意見が出された。
 - ・また、コミセン運営の見直しにあたっては市民が関わることの重要性も指摘された。

【団体グループインタビュー】

- コミセン・コミュニティ協議会のあり方
 - ・基本的な方向性として、市民が気軽に集うことができ、市民・団体が連携・協力してまちづくりを行える拠点であることが望ましいとの意見が出された。
 - ・方法として、行政が主導しコミュニティ協議会を変える、閉鎖的な運営委員のあり方を見直す、貸し会議室のみを続けるのであれば業者に委託した方が効率的といった意見が出された。
 - ・このほか、コミュニティ協議会の運営メンバーを育てる、運営委員の意識を変えろといった取組の必要性も指摘された。

【コミュニティ協議会グループインタビュー】

- コミセンの課題
 - ・地域の課題解決にどこまで踏み込むかの判断が難しいといった意見が出されたほか、運営委員の高齢化、コミセンの活動情報が市民にうまく伝わっていないこと等が挙げられた。

【意見交換会】

- コミュニティ協議会・コミセンのあり方
 - ・コミセンが市民と団体、団体と団体間をつなぐ存在になると良いといった意見が出された。
 - ・コミュニティ協議会の運営のあり方について、現状の組織体制では期待された役割に答えることが難しいため、コミュニティ協議会の運営委員を、住民が各ブロック持ち回り制で担当する案が市民から出された。
- コミュニティづくりの役割分担のあり方
 - ・団体からは、市民がコミセンに足を向けるきっかけづくりのため、様々な団体がコミセンと関わりを持ち、コミセンを盛り上げていくことで理想型に近づけるといった提案が出された。
 - ・市民からは、市民がコミセンのイベント等に参加する際、背景にある団体活動等の情報に触れることのできる仕組み作りの必要性が指摘された。

3 市民グループインタビュー

3-1. 実施概要

市民を対象としたグループインタビュー調査の実施概要は以下に示すとおり。

図表 90 市民グループインタビュー調査の実施概要

| |
|---|
| 【調査対象】 <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市民5名 |
| 【主な調査内容】 <ul style="list-style-type: none">・ 地域とのかかわりの状況・ コミュニティセンターの利用状況・ コミュニティセンターやコミュニティ協議会に求める役割・機能について |
| 【実施場所】 <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市役所西棟 8 階 813 会議室 |
| 【実施時期】 <ul style="list-style-type: none">・ 平成 25 年 2 月 28 日（木）午後 7 時～午後 9 時 |

3-2. 実施結果

市民に対するグループインタビュー調査において交わされた意見について、議題及び発言者別に整理した。

(1) 地域とのかかわりの状況

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none">・ 30 年以上の武蔵野市に居住していたが、日中は仕事のため地域とのかかわりが薄かった。・ 現在は少し余力が出たため、地域とのかかわりを強化したい。・ 町内会や自治会の必要性を感じている。・ 「地域」と聞いてイメージする範囲は、「向こう三軒両隣」より広く、「丁目」より狭い。・ 昔に比べると、人間関係を嫌がる人が増えている。個人情報保護に対する考えがやや行き過ぎたように思う。 |
| B | <ul style="list-style-type: none">・ 現役時代は地域とのかかわりがほとんどなかった。・ 現在は防災推進活動や避難所運営組織化等の取組みに関わっている。こうした活動の中で、地域のつながりを強化し、住民が助け合える仕組みを作ることが必要と考えた。そこで、地域の住民が気軽に参加できる町内会の設立を目指した。 |
| C | <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市に居住をはじめ 7 年目であり、2 児の父である。・ 子どもを通じて知り合った保護者たちと和太鼓のグループに入った。現在は小学校の体育館やコミュニティセンター（以下、コミセン）を借りて月 2 回程度の練習を行っている。 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市に居住して2年である。学生時代に福祉関係の事業所を武蔵野市で設立したことが同市に移住したきっかけである。 ・ 障害者の支援活動を行うなかで、コミセンなど武蔵野市の公共施設を利用している。そこで地域とのかかわりについて考えはじめた。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市に居住して40年以上になる。 ・ 日中は仕事のため、地域活動への参加がほとんどないが、今後は積極的にかかわっていきたい。現在、地域とのかかわりは近所との挨拶程度である。 |

(2) 地域とのかかわりを持つためのきっかけづくり

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市報がコミセンでの活動やイベントを知るきっかけである。 ・ 世代間に差があるが、自ら積極的にアプローチすれば地域とのつながりが持てるようになると思う。また、マンションよりは戸建てのほうが人間関係が築きやすい。武蔵野市に移住した当初はマンションに住んでいたが、近所づきあいがほとんどなかった。 |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的が違ってもいいが、つながりを求めることでは世代間で共通していると思われる。したがって、10代~20代の若者でも地域とのかかわりたいと考えているはずである。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民は興味のあることをきっかけに地域とのかかわりを持てば良い。コミセンの利用は地域とのかかわりを持つための1つの手段である。 ・ 世代を超えたつながりづくりが非常に重要である。コミセンや民間の施設等を活用し、世代を超えた活動（たとえば音楽イベント等）を行うことで世代間のつながりを作ることができる。その際、武蔵野市民は多様な能力を持った人がいるので、それを活用できればよいと思う。 |

(3) コミセンの利用状況

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンを利用したことがある。 ・ コミセンが上から目線で団体や市民の活動を管理しているというイメージを持っている。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンを利用したことがある。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンを利用したことがある。防音設備が整備されている部屋を借りて和太鼓の練習を行う。無料で利用できることに非常に魅力を感じている。 ・ 施設に対する世代間の考え方が異なると思われる。たとえば子どもの場合、施設がきれいであることが非常に重要である。クオリティの高さを感じさせる施設（たとえば、武蔵野プレイス）であれば、若者も行きたくなる。コミセンの老朽化がかなり進んでいるため、きれいにしていきたい。 |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンの会議室を利用したことがある。 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ また、市報を通じてコミセンのイベント情報を把握し、障害者を連れて参加したことがある。 ・ コミセンについては古くて狭いというイメージがあり、障害者にとって利用しにくい。武蔵野プレイスみたいなきれいなところは若い世帯も利用すると思われる。ただし、利用することと何かに一緒に取り組むこととは違うと考える。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンは知っているが、利用したことがない。 |

(4) コミセンやコミュニティ協議会に求める役割・機能

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンは改革すべきである。 ・ コミセンの運営にかかわるスタッフは報酬をもらっている人が多いように思い、ミスしないことに最も関心があるように見える。コミセンを運営しているコミュニティ協議会の役員はもっと時代に合った取組を行うべきである。 ・ コミセンはイベントの開催に熱心であるが、時代の変化に応じて、安心・安全なまちづくりに貢献するような取り組みを行ってほしい。たとえば、地震等の災害に備えるソフト面の体制づくりを行うべきである。 ・ 市民が心の拠り所を求めていると思われるが、現在のコミセンではこうしたニーズに対応できない。コミセン、民生委員、防災班等の連携を図ったらどうか。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、コミセンは単なるレンタルスペースになってしまっている。コミセンは危機感を持って運営方針を見直し、地域のために果たすべき役割について主体的に考えてほしい。 ・ 市はコミュニティ協議会の評価を行う際に、コミセンの運営方針について指導したほうが良い。 ・ コミセンの本来の果たすべき役割を理解している市民が少ないと思われる。 ・ コミセンは外部の人材を組織の中に取り入れることができていない。 ・ コミセンを抜本的に改革する必要がある。町内会を設立しようとしているのはコミセンに対する不満があるからである。コミセンが本来の役割をきちんと果たすのであれば、町内会の設立活動を行わなかった。 ・ 地域における各団体は独自に活動しており、団体間の連携ができていない。各地域のコミセンでは住民に対して公平に情報やサービスを提供できるかは疑問である。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンの役員が高齢化しているというイメージを持つ。若者がどのようにコミセンの運営に関与できるかは分からない。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンはただ会議室を貸すだけの機能を果たしているだけに思え、そうすると、民間の貸し会議室と変わりが無い。 ・ コミセンを改革するには外部の人材を取り入れる必要がある。たとえば、第三者機関の力を借りることが挙げられる。 ・ アンケートに示すように、市民が気軽に集い、つながりをつくるために活動できる場にしていただきたい。たとえば、市民相談窓 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| | <p>口を設けてはどうか。地域のつながりを形成するための1つのきっかけとなるかもしれない。なお、ハード面ではなく、ソフト面の機能強化が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンはある程度のサービス機能（たとえば、コンビニやATMなど）を持たなければ、多くの市民は利用しないと思われる。 |

(5) コミセンの運営への関与や市民自治について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民自治であるため、コミセン運営の方向性を見直す際は、行政だけでなく、市民のかかわりも不可欠である。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状のままではコミセンの運営に関わりたくないが、市がコミセンを改革する前提で市民向けに公募するのであれば、応募するかもしれない。 ・ 土日のみ参加できる市民を募集するのも良いが、普段、地域活動の担い手が高齢者である。市民自治を高めるような人材育成や環境づくりが必要である。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者にとって、気軽さが大事である。まず若者に地域の活動に参加させることが必要である。一定の年齢になった時に、積極的にかかわりたい人も現れるかもしれない。 ・ コミセンはレンタルスペースでも良いと考える。自然体でかかわれることが理想である。 |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域団体とのかかわりが無い。 ・ 団体を身近な存在に感じさせるような工夫がなされれば、かかわりが増えるかもしれない。 ・ 市民自治の目指すべき方向について、世代間に大差がないと思われる。10代だけの集まりでもたくさんの意見が出るだろう。ただし、若者にとっては自治という言葉が堅苦しいため、会議の開催方法を工夫する必要がある。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンを市民自治の拠点にすべきである。役員の選任は持ち回りではなく、立候補で決めるほうが良い。 ・ 世代によって考え方が違う。若い世代は強制的なことをされると拒絶反応が起こる。したがって、若い世代の参加を促す仕組みを作ることが大事である。 |

4 団体グループインタビュー

4-1. 実施概要

市内で活動する市民活動団体・NPO 法人等を対象としたグループインタビュー調査の実施概要は以下に示すとおり。

図表 91 団体グループインタビュー調査の実施概要

| |
|--|
| 【調査対象】 <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市内で活動する市民活動団体・NPO 法人6団体 |
| 【主な調査内容】 <ul style="list-style-type: none">・ コミュニティセンターの活用状況・関わりについて・ コミュニティ協議会・コミセンの望ましいあり方について・ 地域との関わりについて |
| 【実施場所】 <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市役所西棟 8 階 813 会議室 |
| 【実施時期】 <ul style="list-style-type: none">・ 平成 25 年 2 月 27 日（水）午後 7 時～午後 9 時 |

4-2. 実施結果

団体に対するグループインタビュー調査において交わされた意見について、議題及び発言者別に整理した。

(1) コミュニティセンターの活用状況

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none">・ コミセン側から使用にあたっての注意を細かく言われるケースも多く、活動場所としてコミセンは候補にあがることは少ない。・ また、コミセンと協同で企画等を実施するには至っていない。・ 団体活動上調理室を使用することが多いが、特にコミセンで無ければならない理由がない。 |
| B | <ul style="list-style-type: none">・ コミセンの協力員も兼務しているため、場合によって調理室・会議室を借りることがある。・ またコミセン主催のコミセン祭り等にも団体として参加している。 |
| C | <ul style="list-style-type: none">・ 団体活動は基本的に屋外で実施するため、会議室を利用することは基本的にはないが、年 1 回の総会はコミセンを利用して開催している。・ 自身はコミセンと団体との区別がつかなくなりがちであるため、なるべくコミセンを客観的に見るようにしている。 |
| D | <ul style="list-style-type: none">・ 団体活動のなかで料理講座があり、それはコミセンの調理室を利用している。・ かつて運営委員にも入っていたが、コミュニティ協議会とのかかわりはな |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| | く、ハコモノとしての利用が主である。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンの監事を兼務していたことがある。団体の広報紙にコミセンを連絡先として掲載したり、団体専用のトレイ、ロッカーを設置してもらっている。協議会との共催事業も多く実施している。 ・ コミセンの運営委員は、コミセンの管理運営（会議室の貸出業務、イベント開催）だけを活動範囲と考えていると思う。 ・ コミセンは市外利用者が非常に多く、地域住民の利用者は2割程度である。 ・ 演劇サークルの利用も多く、青少年の居場所づくりには貢献しているが、コミュニティの足場としては弱さを感じている。 |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体活動として月1回定例会でコミセンを利用している。 ・ かつて、コミセン委員長を務めた経験がある。 ・ 住民としてもコミセンを利用している。 |

(2) コミュニティ協議会・コミセンの望ましいあり方について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンは子供が学校に行っている時には、利用したりコミセン便り等がくるなどのつながりがあるが、そうでなくなると、途端に便りも来なくなり、一気に関係がなくなってしまう。 ・ 居住している地域では、向こう三軒両隣のつながりが強く、そこまでのつながりは必要ないようにも感じている。 ・ 個人としては、コミセンに強要されることが多いため、それへの反感を持っている。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましいコミセン像としては、市民が気軽に集いつながりを作るために活用できる場なのだろうと思う。そうした観点からすると、多様なイベントを開催するといったことも重要だろうと思う。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンへの反感があるという意見があったが、普段からのコミュニケーションがあればそうは受け取られないはずが、それが無いためにそうなってしまっているのだろう。 |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の受け皿として、コミュニティ協議会が期待役割を果たすことが期待されるが、運営委員の意識の問題もあり、現状では難しいだろう。 ・ 行政が手綱を取って指示し、それにコミュニティ協議会が従うということが多少はあってもよいと思う。 ・ また、コミュニティ協議会の運営メンバーを育てることも重要だと思う。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ協議会は、災害時対応などの個別のテーマに取り組むならよいが、まちづくり全般に取り組むことは難しいと考えていると思う。 ・ コミュニティ協議会メンバーが横の関係を持っていないため、内に閉じてしまう傾向があると思う。 ・ 行政の建前としてコミュニティ協議会に行政情報を流せばよいということにされている。 ・ コミュニティ協議会は、メンバーのつながりが強い一方で閉鎖的であり、後から入ったメンバーはやりづらいのではないか。 ・ 運営委員の人数や構成が現在の状況では、地域全体への活動や地域の意見を決定することは難しく、行政からの期待を受けきれないと思う。 ・ コミセンは様々なイベントを開催しているが、コミュニティ協議会の運営委員としての参加になかなかつながらない。 |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・ もともとコミュニティセンターはまちづくりの核として位置づけられてお |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| | <p>り、今後コミュニティ協議会がより幅広い視点を持ってコミセンの活用形態を提案するといったことがあるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者制度のため、コミセン委員長の意識がコミセンの運営に大きく関わる。ほとんどが任期制なので、よい流れができても交代によって立ち消えとなってしまうケースもある。 ・ 一方で、行政がコミセンを都合よくコントロールしている側面もある。また、行政がコミセン間の平等性を重視するため、特筆すべき取組ができていない可能性もある。 ・ また、自主三原則なのだから積極的に取り組む必要はないという間違った考え方を持っている指定管理者もいる。 ・ 指定管理者という聞こえは良いが、実態は、委員長が独断でメンバーを決め、ほぼ世襲制となっている。 ・ 例えば、コミセンが今後も会議室貸しだけをするのであれば、業者に委託するなど、効率的に見直されるべきだろう。 ・ 本来あるべきは、コミセンごとに特色を出し、開館時間を住民ニーズに合わせて変更するなど、そうした提案こそが自主三原則だろう。経営資源という観点から見れば、利用者を増やすという積極的な提案があるべきである。 |
| 全員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には市民が気軽に集え、市民・団体が連携・協力してまちづくりを行うための拠点であることが望ましい。 |

(3) 地域との関わりについて

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市民の多くは共働きのため、土日に市民との交流がある。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体は地域で活動しているため、地域の人の中にはつきやすい。PTAにも顔を知られており、地域とのつながりも強い。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体は主に武蔵野市民を対象として活動を展開している。団体活動については、市民社協の広報誌「ふれあい」を通じて広報をしているが、反応があるのは配布数の1割に満たない。 |

5 コミュニティ協議会グループインタビュー

5-1. 実施概要

コミュニティ協議会に対するグループインタビューの実施概要は以下に示すとおり。

図表 92 コミュニティ協議会へのグループインタビュー調査の実施概要

| |
|---|
| <p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 西部コミュニティ協議会・ 桜堤コミュニティ協議会・ 吉祥寺北コミュニティ協議会 <p>【主な調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ コミュニティセンター（以下、「コミセン」と表記）やコミュニティ協議会の課題・ コミセンの役割・ コミセンの運営体制 <p>【実施場所】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 武蔵野市役所東棟6階 603 会議室 <p>【実施時期】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 平成 25 年 3 月 1 日（木）午前 10 時～正午 |
|---|

5-2. 実施結果

コミュニティ協議会に対するグループインタビュー調査において交わされた意見について、議題及び発言者別に整理した。

(1) コミセンの課題について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none">・ 設立 26～27 年である。・ コミセンは過渡期に入っており、いま運営方法について様々な議論がなされている。具体的には、現在、運営委員が 33 人であるが、実際動く人が一部に限られていることもあり、運営委員になる要件を厳しくするという意見が出ている。具体的に協力員を 1 年経験しないといけないという条件をつけるという話が出ているが、個人的にはこうすると運営委員になる人がますます少なくなってしまう、それを食い止めるべく働きかけている。・ 当コミセンは広い地域を抱えており、地域内住民が約 21,000 人であり、さらに今後増加する見込みである。・ 運営委員が高齢化しており、若い世代がコミセンへ関与することを望んでいるが、なかなか実現が難しい。・ 利用団体や協力団体は非常に多い。利用者が増えていることからコミセンの影響力が増していると思う。・ コミセンがどこまで取り組むのかという判断が難しい。旗を振って活動す |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| | <p>るのではなく、あくまでも、緩い組織であるべきと考える。コミセンは先頭に立って自主防災組織などを作ることに反対である。すでに行っている組織の情報を集約する役割が必要かもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各コミセンでは、例えば子どもの面倒を非常時に見るといったことは、いわゆるコミュニティが行うような支援を日常的に実施しているが、わざわざ宣伝していない。また、宣伝することで、コミセンに対する依頼が常態化すると困るという面もある。 協議会の存在についてはあまり知られていない。コミセンの運営委員が市の囑託職員だというイメージを持たれている。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> 利用者はコミセンを公的な施設として認識していることが多いが、運営委員は異なる。あくまでも民営による施設との認識を持っている。 公共施設を利用している人が一部に限定されてしまっても問題にならないが、コミセンの場合はとにかく多くの人々が利用することがもっとも重要である。こうしたコミセンの役割については市民が理解していないイメージがある。 コミセンがイベント等の開催を通じて市民や団体の交流を深める点で一定の役割を果たしている。一方で、特定の人・利用者・団体との関係が深く、それにより、他の方が入ってきにくい雰囲気になっているのではないかと思う。 ソフトの部分の中で、人と人をつなげるための役割を果たすことが期待されていると考える。従来、コミセンはコミセン自体の活動を行ってきたが、今後は他の団体との連携を強化していくことが課題である。 コミセンの運営に携わる最初の思いと実際にやっていることのずれがある。やっていることに対する褒美がない。市民からの理解を得ていない。運営委員の仕事に対して市民等がちゃんと評価することが大事であると思う。 コミセンに求められている役割については、市民が求めていることについては、表に出てくる部分と、表に出ない部分がある。意見が出ない部分の声をどうやって拾うのが課題である。どちらを取るかについては迷っている。現在、多くの方は昔のような濃密な近隣関係を望んでいないと思う。 昔も様々な試みを行ってきたわけである。その積み重ねで現在のコミセンができたのである。 地域の課題を解決するためにコミセンがあるという考え方は違うと思う。すでに課題解決をするための団体がたくさんあるなか、同じ事をする必要はないのではないか。一般的に何かを取り組むためには、サポートしてくれる人の存在が非常に重要であり、コミセンも前面に出るより、後ろにいてサポートする役割を果たすべきと思う。しかし、コミセンのこうした取組みは表に出ないため、コミセンが何もやっていないと市民には誤解されやすい。コミセンとしては市民が困ったときにサポートできる存在でありたい。 コミュニティ活動ということであれば、東日本大震災の時に、親権者が帰宅困難となり、コミセンが子供の世話をしていた。コミセンの業務ではないが、実際にやっている。 役割の1つとして箱物であっても良い。イベントを開催することで人のつながりづくりのきっかけとなる。その役割を担うべきと思う。 コミセン便りについてはコミセンを宣伝するために全戸配布しているが、あまり読まれていないと思われる。口コミによる広がりが必要である。広 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| | <p>報の仕方が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受身の体制で長年やってきた感がある。ほかの公益団体を見ても高齢化が進んでいる。コミセンは中間支援組織的な役割を果たすことが求められていると認識している。コミセンの取組みをより広く知られるためには広報活動が必要である。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> 吉祥寺北コミセンは北町地域 4,000 世帯をカバーしている。創立 34 年目になる。昔はそれなりの役割を果たしてきたが、1 つの転換点を迎えていると感じている。コミセンの課題について、居場所づくりが求められる。ロビーに広いスペースがあり、市民へ無料利用サービスを提供している。ハードな部分としての居場所は市内にいっぱいあると思う。ソフトな部分としての居場所をどう作るかが課題である。目的別コミュニティづくりと異なる幅の広さと奥の広さが必要である。 市民の様々なニーズに応えられる居場所づくりがなかなか難しく、そのためには、現状のコミセンの委員だけでは難しい。貸しスペースの運営に専念してほしいという要望もあるが、それ以上の役割を持つべきと考える。コミセンの運営の仕方については 1 つの転換点を迎えている。 運営委員が 24 名いる。それ以外に特定の事業のみに協力する協力員が 40 名程度いる。運営委員の予備軍がなかなか増えない。40～50 代にもコミセンの運営に関与してほしい。 また、運営委員の高齢化で新しいアイデアが出にくい状況になっている。コミセンを利用している団体の役員等に声をかけているが、なかなか難しい。運営委員については毎年 1～2 名増員できればと思う。 取り組み内容については地域性が大きく影響している。吉祥寺北は住宅街があり、互いに干渉したくないという気風が強いように思う。様々な団体は独自に年度計画を立てて遂行しており、団体との連携を強化したいが、各団体とも各団体の事業がいそがしく、なかなか、連携することが難しい。緩やかな人と人とのつながりをつくる拠点になれば良い。 コミセンの施設を団体に提供するとともに、団体の知名度アップにつなげていきたい。 地域の社協等は箱物を持っておらず、余計に知られていない。コミセンは箱物があることで、市民になじみが生じやすいのではないかと思う。 市民との接触の仕方を工夫した方が良い。いきなり大きなことをやるより、身近なことから取り組んだ方が良い。 |

(2) コミセンの運営体制について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> 市民自治であるため、コミセン運営の方向性を見直す際は、行政だけでなく、市民のかかわりも不可欠である。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> 現行の体制について理解されているかどうかは分からない。コミセンの活動を 30 数年継続してきたことをまず評価してもらいたい。現行の体制だからこそ継続してきたと考える。 地域コミュニティにおける果たすべき役割は時代にとともに変化する。変革も必要かもしれないが、従来の取組みをきちんと理解することが非常に大事である。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> コミセンの場合、地域全体を対象にしている。すべての人に満足できるような内容を提供するのが難しい。目的別のコミュニティづくりに対応する |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--------|
| | のが難しい。 |

(3) コミセンの運営への団体の関与について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> 運営に団体が関与しているコミセンもあるが、当コミセンでは、団体は直接参加しておらず、団体の役員等が一個人として参画している。 協力員という形でほかの団体のメンバーが入っている。運営委員にしていない。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> コミセンが前面に出ないという風潮があった。関わり方の問題だと思う。団体ではなく、団体の個人とつきあっている。ほかの団体のメンバーとのネットワークを持つことが大事である。 ほかの団体を協力員と同じ考え方で取り組んでいったほうがよいかもしれない。 |

(4) 運営委員の募集について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> 広報で募集しているが、実際は主に口コミに頼っている。 分からない人が入ったことでコミセンの運営がトラブル恐れがある。 極端な人でなければ良い。コミュニティづくりに不向きな人がいると、それがいやでやめる他のメンバーが現れると思う。地域の方と一緒に取り組むことができなくなる恐れがある。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> 変な人が入られると困る。面接等の採用試験がないため、口コミの方が良い。誰でもいいけど、誰でも良くない。 新しい考え方を持つ人が必要である。ただ、バランス感覚が不可欠である。異端を作り出さないような要領があれば、違う意見を持つ方が入ってきてもいい。コミセンは市民や団体とかみ合わないところを発見することが大事である。 |

6 意見交換会

6-1. 実施概要

意見交換会の実施概要は以下に示すとおり。

図表 93 意見交換会の実施概要

| |
|---|
| <p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市民4名 ・ 活動団体6団体 ・ 武蔵野市コミュニティ協議会2団体 <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民2名、団体3団体、コミュニティ協議会1団体ずつの2グループに分かれてグループインタビュー形式で検討を行った。 ・ その後、グループごとの意見内容を発表し、今後の取組の必要性について認識を共有した。 <p>【主な調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティセンター（以下、コミセン）の役割 ・ コミュニティづくりの役割分担について <p>【実施場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市役所西棟8階813会議室 <p>【実施時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年3月5日（火）午後7時～午後9時 |
|---|

図表 94 意見交換会の進行スケジュール

| 時間 | 議題 |
|------------|---|
| 午後7時～ | 開会・挨拶 |
| 午後7時5分～ | 趣旨説明 |
| 午後7時10分～ | 情報提供 ーコミュニティ構想等に関する情報提供 ーこれまでのグループインタビューの結果 |
| 《各グループで実施》 | |
| 午後7時20分～ | グループインタビュー (1) 自己紹介と情報提供に基づく意見交換 |
| 午後7時45分～ | (2) 市民・団体・コミュニティ協議会の役割分担 |
| 《全体会で実施》 | |
| 午後8時45分～ | 意見交換結果の共有 |
| 午後8時55分～9時 | 閉会 |

6-2. 実施結果

意見交換会において交わされた意見について、議題及び発言者別に整理した。

(1) グループA

① コミセンの役割について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------------|---|
| B (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの見守り等のサービス提供、施設の管理・運営、行政や団体のサポートがコミセンの主な業務である。 ・ 武蔵野市のコミュニティ構想では自主三原則のもとに自由度の高いコミュニティづくりを目指していた。そこで、市民間の交流や市民と行政との対話など、様々な自主的な取組が行われることを期待していた。これはべき論ではなく、市民自ら積極的に取り組むことが望ましい。しかし現状では、自主三原則のもとに積極的に取り組んでいる地域もあれば、そうでないところもある。 |
| D (コミセン) | <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフト面の居場所づくりを考える時期に来ている。 ・ 現在、コミセンでは子供の見守りや年寄りの休憩場所の提供等のサービスを行っている。今後、地域住民に満足してもらえるようなソフト面の居場所を作ることがコミセンの大きな課題である。 |
| E (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンで様々なイベントが開催されていることや貸館業務が行われていることについては認識しているが、コミセンが果たすべき本来の役割が分からなかった。 ・ コミセンについて、設立時の目的と現状との間に齟齬があると思われる。現状では、コミセンが積極的な広報活動や市民の意見の吸い上げを行っていないと考える。 ・ コミュニティのあり方とコミセンの立場を把握した上で、課題とすべきことについて議論したい。 ・ コミュニティ構想の理念が市民に十分伝わっていないと思われる。 |

② コミュニティづくりの役割分担について

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----------|--|
| A (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の役員として活動しているが、コミセンの運営に関与していない。「コミュニティ=コミセン」という発想がないため、独自にコミュニティづくりに取り組んでいる。 ・ コミセンは積極的に市民に呼びかける必要がある。市からの情報提供が不十分である。 ・ コミセンに対する共通の認識を持つことが大事である。 ・ 町内会がないほうが良いと考える市民も多い。より多くの市民にコミュニティづくりに関与させる仕組みを作ることが課題である。特にコミセンを訪れたことがない市民に対する働きかけが大事である。 ・ コミセンはコミュニティ構想のもとに情報発信の方法を考える必要もある。 |
| B (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民への働きかけについて、コミュニティ協議会の間に温度差がある。人と人とのつながりを大事にし、様々なイベントを開催するなど、場としてのコミセンを有効活用しようとするコミュニティ協議会もあれば、そうでないところもある。 ・ コミュニティ協議会は主体的に取り組む活動もあれば、単なる場の提供を |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------------|---|
| | <p>行う場合もある。また、コミュニティ協議会によっては取組が異なると思われる。現状として人材不足等の課題があるのは、運営の仕組みに問題があるのであり、コミュニティ構想に問題があるとは思わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元気なうちに他人とのかかわりを持ちたくない人がたくさんいる。特に勤労者の多くは地域での活動の必要性を感じない。一方、つながりを求めてコミセンに来る市民も大勢いる。市民のニーズが多様化しているが、人と人のつながりを保つには、ハードな施設を媒介にする必要がある。 ・ コミセンはほかの団体と連携すべきである。 ・ コミセンによっては役員が固定しているところもあれば、ローテーションしているところもある。前者の場合、権力は特定の人に集中する恐れがある。一方、後者の場合、役員は経験不足の可能性もある。 |
| C (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ協議会設立時の理念が風化していると思われる。当時の時代背景と今日のそれは大きく異なる。また、コミュニティ協議会の運営状況も地域によって異なっている。 ・ 一部の地域では町内会を設立する動きがあるが、町内会がないことを理由に武蔵野市に転居した人も多くいるため、町内会の設立が不可能に近い。町内会のような組織からサービスを受けるには良いが、組織運営への関与を嫌がる人が多いと思われる。 ・ コミュニティ協議会の内部から改革するのが難しい。コミュニティ協議会が中心になってコミュニティづくりに取り組むことに限界がある。したがって、新しい仕組みが必要である。 ・ コミュニティ協議会が主体的に取り組んでもどれくらいの団体から協力を得られるかが疑問である。団体の数を把握している市は団体が集まる場の提供を検討したらどうか。 ・ 各地域で団体同士が話し合える場を設けてはどうか。各団体のノウハウを共有することによってより良いコミュニティづくりができると考える。 ・ コミセンを地域の拠点と位置づけるのではなく、地域資源の一つとして考えてはどうか。貸館業務が相当大変である。コミセンに大きく期待してはいけな。地域の一団体としてとらえたほうが良い。 ・ 若い世代も関与できるような仕組みを作らなければ、担い手不足の課題が解決できない。たとえば運営委員に定年制度を設け、先輩委員が後輩をサポートする体制を確立する。実現が難しいが、様々な取組を試みるべきである。 |
| D (コミセン) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンに対して居場所づくりを求める要望がある。コミュニティ協議会だけで居場所づくりについて考えても限界があるため、市民や他の団体と一緒に考える必要がある。 ・ みんなが高い志を持って取り組むことが理想だが、現実ではなかなかそうならない。コミュニティ協議会は人材を確保しないと、市民の要望には応えられないと思われる。 |
| E (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ構想ではコミセンが中心的な役割を果たすと明記されているのであれば、コミセンが原点に戻るべき。そうでなければ、コミュニティ構想を変える必要がある。コミュニティ構想の理念に関する啓蒙活動を始めたらどうか。コミュニティ協議会には本来のあるべき姿に近づいてほしい。 ・ 一部のコミュニティ協議会ではコミュニティ構想の理念のもとに実践しているようだが、すべてのコミュニティ協議会に広がるように取り組んでいただきたい。すべての地域において情報やサービスを平等に提供できな |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|---|
| | <p>れば市民の不公平感が募る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ協議会の担うべき役割を知らなかった。その役割を果たすには、現在のコミュニティ協議会に限界があるのであれば、対応方法を含めて議論する必要がある。 ・ 地域コミュニティの全体像がどうあるべきかを考える必要がある。コミュニティ協議会に従来の役割を期待するのであれば、主体的に取り組んでもらう必要がある。その際、各団体や市民の協力を得て、みんなが一体となって取り組むべきである。 ・ コミセンの役員に対して研修制度を設けたらどうか。そうではないとコミセンのサービスに地域差が出てくる。 ・ ほっといたら何も始まらないので、市民がかかわりやすい仕組みを作っていただきたい。 |

(2) グループB

① コミュニティ協議会・コミセンのあり方について

| 発言者 | 発言要旨 |
|------------|---|
| A (コミ協) | <p>【コミュニティ協議会の現状・実態について】（情報提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンで学童保育を実施しているところが2～3箇所ある。東日本大震災時は、両親が帰宅困難となり、一時的に子どもを保護したほか、コミセンに逃げ込んでくるといったケースもあった。 ・ また、南町、西久保、吉祥寺本町のコミセンでは帰宅困難者の受入を行い朝まで寝泊まり可能とした。 ・ 一部のコミセンは逃げ込んできた市民を追い返したようである。コミセンによって協議会の判断が分かれ、同じ態勢にはならなかったようである。 ・ 日常的には、小・中学生等の居場所になっている。コミセンは市民が運営しているので、子どもに対してあれこれ口うるさく注意をする。このため、一部は、プレイスに流れているようであるが、そうした部分こそが市民が運営していることの良さだろうと思う。 ・ 協議会としても、直に団体や市民の意見を聞く機会がないので、できる/できないは別として、この機会にぜひ意見を聞かせてほしい。 <p>【コミセンのあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンが他団体と情報共有し、市民に対して情報提供をしたり、紹介したりといったことは現状でも一部実施しているコミセンはある。 ・ ご提案頂いたように、コミュニティ協議会の運営委員が、各ブロックの持ち回りで、昔の町会の班長のように回していけると良いのだろう。 |
| B (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災以後、市は防災に力を入れており、地域防災計画の中で中核拠点としてコミセンを活用したい意向であるようである。 ・ 自主三原則でやってきたが、受け皿となり得る存在がない状況である。町会がないことが非常に問題と考えている。 ・ いわゆる「コミュニティ」が武蔵野市には無い状態と思っている。とにもかくにも、市民が話し合う時間と場所が必要である。ゴミの収集体制も今は戸別収集であるが、昔は共同ステーションであった。トラブル回避のために現行体制となったが、これが最後のコミュニティらしきものであったと思う。 |
| C (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回話がでたのは、現状のコミュニティ協議会運営委員は市民の代表が集まっているわけではないということで、そのために主導することも難しいという話であった。 |
| D (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民は、コミセンの場所は知っていても、何をする場所なのかわからない、また協議会はどういうメンバーであるかわからないという意見が多く出た。 ・ 自分のように若い世代でも地域貢献をしたい、社会の中でのつながりを増やしたいという意向は強いため、コミセンやコミュニティ協議会とうまく関わりを持てるとより良いのではないか。 |
| E (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民として、コミセンには期待しながらも実態を把握していないし、協力もできていないと認識している。 ・ 市民として、最も必要と感じていることは、自治である。例えば、安全・安心のほか、日常生活のなかでより人々が助け合う社会が必要だと感じている。それほど、高齢化は進み、若い世代が少なくなっている。 ・ こうした役割をすべてコミセンに期待することは難しいと思うが、そのた |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----|--|
| | <p>めの呼び水として多様な世代が集まるためのイベントを企画して頂くとともにこれまで通り、施設管理をして頂くのが良いのではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一方で、コミセンの企画等も、いつまでも入口で止まっていていいのかという思いもある。また、型にはまったイベントをもう何年も続けている。 ・ もう一步踏み込んで、コミュニティのサポーターとして、困っている人の助けになるような仕組みづくりが必要と考えている。 ・ そのために、コミュニティ協議会のメンバーが固定的である現状は良くなく、住民がブロック毎に持ち回りで担当する体制を提案したい。 ・ これだけの人材が集まる武蔵野市なので、人材がないということはないだろう。委員の選任方法については、見直す余地がある。 ・ また、例えば、地域の商店会が見守り活動を実施しているが、その情報は一部の人間にしか知られていない。コミセンが、そうした団体と住民の間に入り、双方をつなげていくことが重要である。 |

② コミュニティづくりのための役割分担のあり方について

| 発言者 | 発言要旨 |
|------------|--|
| A (コミ協) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンとしては、来てもらった市民に対して、いろいろな団体があることをまず知ってもらいたいと考えており、そのうえで、団体と連携できるとなお良いと考えている。 ・ コミセンが行政ではなく、市民による協議会で運営されているということを市民に知ってもらえるよう努力しなければならないと思っている。 ・ 個人の自由意思で運営委員になっているため、難しい部分はあるが、運営委員の意識が高まり、班長としての意識で近所を見守ることが個々人の意識でできると良いと思う。 |
| B (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災は今後取り組まなければならない課題である。震災を契機にしてコミュニティが必要だと考える市民が増えた。 |
| C (団体) | <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンは様々な人が様々な形で集まれる場であると良いと思う。団体として、コミセン文化祭を開催した際に、団体として企画展示を行い、参加した。 ・ またコミセンのお祭りに団体が参加することも重要だろう。これによって、市民がコミセンに足が向くきっかけづくりができると良いと思っている。 ・ このように、様々な団体がコミセンと関わりを持ち、コミセンを盛り上げていくことでなりたい形に近づけていければ良いと考えている。 |
| D (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ どちらかという市民歴は短いですが、周囲にコミセンやまちづくりに関心が高い住民が多い。しかし、参加して、武蔵野の歴史を知らないと言われるとやりにくい。 ・ 市民としてはコミセンで開催されるバザー等のイベントは楽しんで参加しているが、そこで終わってしまっている印象がある。例えば、作っている人が何をやっている団体なのか、どういう人なのか、考えたことがなかった。例えば、各ブースや屋台にパンフレットを置くといったことだけでも違うと思う。 |
| E (市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と団体の仲介もそうだが、団体間の連携もできていないように思う。社会に一定程度の影響を及ぼすためには、団体間の連携促進も重要で、そのための仲介役としてもコミセンが機能することが期待される。 |

第5章 参考資料

1 アンケート調査票

1-1. アンケート調査票（市民用）

武蔵野市
「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための
アンケート調査」ご協力のお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、武蔵野市では「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のためのアンケート調査」を実施することとなりました。

この調査は、市民の皆様の地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状を把握し、今後の地域コミュニティのあり方、市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的に実施するものです。住民基本台帳から満18歳以上の男女3,000人をくじびきに似た方法（無作為抽出）によって選ばせていただき、あなたをお願いすることになりました。

お答えいただいた内容は、厳重な管理を行っとうえで統計的に処理し、個別のご氏名等が外部に公表されることは一切ございませんので、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月

武蔵野市長 **邑上守正**

<ご記入に当たってのお願い>

※ 本アンケートは、宛先のご本人の方がご記入ください。

※ アンケート調査の回答は、当てはまる番号に○印をつけて頂くものですが、具体的な数字や記述をお願いするものもあります。各設問の指示にしたがってご記入下さい。

<個人情報のお取り扱いについて>

※ 集計等は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に委託して行います。

※ ご記入頂いたご回答・ご意見につきましては「●%、△件」等、集計した形でとりまとめ、個人が特定されるかたちで公表されることはございません。

※ また、ご記入いただいた情報は、アンケート調査内容の問い合わせやグループインタビューのご案内にのみ利用し、その他の用途には一切利用いたしません。

※ ご回答頂きました情報につきましては、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の「個人情報保護方針」及び「個人情報の取扱いについて」に基づいて、適切に取り扱います。

(<http://www.murc.jp/profile/privacy.html>)

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて（切手不要）、

平成24年11月5日（月）までに

ご投函くださいますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

武蔵野市役所 市民部 市民活動推進課 担当：白相、大橋

TEL：0422-60-1830（直通）

II. あなたご自身の地域とのかかわりについておうかがいします。

問1 あなたが「地域」と聞いてイメージする範囲について、**最もよくあてはまるもの1つに○印をつけてください。**

- | | | |
|------------------|----------------------------|----------|
| 1. むこう三軒両隣 | 2. 住宅街のブロック・団地・大型マンション等の単位 | |
| 3. 丁目 | 4. 町(2ページF6の区分) | 5. 小学校区 |
| 6. コミュニティセンターの区域 | 7. 吉祥寺エリア | 8. 三鷹エリア |
| 9. 武蔵境エリア | 10. 武蔵野市 | |
| 11. その他(具体的に: | |) |

問2 問1で回答した「地域」についておうかがいします。(以下、「地域」とは問1で回答した範囲を指します。)

①あなたは、「地域」に対して愛着を感じていますか。**あてはまるもの1つに○印をつけてください。**

- | | | |
|------------------|--------|--------------|
| 1. 地域に対して愛着を感じる |▶ | 問2-②へお進みください |
| 2. 地域に対して愛着を感じない |▶ | 問2-③へお進みください |

②「地域」について愛着を感じる主な理由について、**あてはまるものを3つまで選び、○印をつけてください。(問2で「1.」と回答した方のみ)**

- | |
|---|
| 1. 近所づきあいが密だから |
| 2. 地域に長年住んでいるから |
| 3. 町内会・自治会・マンション管理組合があるから |
| 4. 子どもを通じたかかわりがあるから(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) |
| 5. 地域の活動にかかわっているから(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) |
| 6. コミュニティセンターの運営(コミュニティ協議会)にかかわっているから |
| 7. 趣味・娯楽のサークル・グループに入っているから(友人・仲間が多くいるから) |
| 8. 近所に行きつけの店や居場所があるから |
| 9. その他(具体的に: |
|) |

③どのような状態になれば「地域」に愛着を感じられるようになると思いますか。**あてはまるものを3つまで選び、○印をつけてください。(問2で「2.」と回答した方のみ)**

- | |
|---|
| 1. 近所づきあいが密である |
| 2. 地域に長年住む |
| 3. 町内会・自治会・マンション管理組合等に参加する |
| 4. 子どもを通じたかかわりがある(例:保育園・幼稚園の父母会、小・中学校のPTA等) |
| 5. 地域の活動にかかわる(例:地域の清掃活動、美化・緑化活動、防犯活動等) |
| 6. コミュニティセンターの運営(コミュニティ協議会)にかかわる |
| 7. 趣味・娯楽のサークル・グループに入る(地域に友人・仲間が多くいる) |
| 8. 近所に行きつけの店や居場所がある |
| 9. その他(具体的に: |
|) |

問3 お住まいの「地域」をより良くするために、どのようなつながりがあると良いと思いますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 災害時など、いざというときに助け合える | 2. 日常的に気軽にあいさつや会話ができる |
| 3. 地域の問題について話し合える | 4. 地域の問題を解決するための活動ができる |
| 5. 自分や家族のことを気にかけてくれる | 6. 趣味や娯楽を共有できる |
| 7. その他(具体的に: _____) | |

問4 「地域」とのかかわりについての「今後の意向」と「具体的なかかわり方」、それぞれについて、あてはまる数字1つに○印をつけてください。

| 今後の意向 | 地域との具体的なかかわり方 |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 地域とより深くかかわりたい | 1. 地域のことについてより深く知りたい |
| 2. 現状を維持したい | 2. お祭りやイベント、集会等に参加したい |
| 3. 地域とはあまりかかわりたくない | 3. 地域の課題を解決したい |
| 4. わからない | 4. わからない |
| | 5. 地域とかかわりたくない |

Ⅲ. あなたの武蔵野市内での活動への参加状況についておうかがいします。

問5 あなたは地域・コミュニティ活動に参加していますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1. 参加している..... | 問6・問7へお進みください |
| 2. 今は参加していないが、今後参加したいと考えている..... | 問6・問8へお進みください |
| 3. 今は参加しておらず、参加したいと思わない..... | 問8へお進みください |

問6 問5で「1. 参加している」、「2. 今は参加していないが、今後参加したいと考えている」と回答した方におうかがいします。

現在参加している、または今後参加したいと考えている「活動の種類」と「活動の団体」、それぞれについて、あてはまるものを3つまで選び、○印をつけてください。

| ①活動の種類 | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツに関する活動 | 2. 音楽・美術・手芸等の文化に関する活動 |
| 3. 自然環境保全・景観保全・エコに関する活動 | 4. 学校教育・青少年健全育成に関する活動 |
| 5. 子育て支援に関する活動 | 6. 高齢者や障がい者に関する活動 |
| 7. 地域防犯・交通安全に関する活動 | 8. 防災に関する活動 |
| 9. 男女共同参画に関する活動 | 10. 国際理解・国際交流に関する活動 |
| 11. 地域の住環境の保全・改善に関する活動 | 12. 住民間のつながり・連携づくりに関する活動 |
| 13. 地域の産業振興に関する活動 | 14. 都市と農山漁村の交流に関する活動 |
| 15. その他(具体的に: _____) | |

| ②活動の団体 | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 町内会・自治会など | 2. 父母会・PTA |
| 3. 青少年問題協議会(青少協地区委員会) | 4. 老人クラブ |
| 5. コミュニティ協議会 | 6. 地域福祉活動推進協議会(地域社協) |
| 7. 自主防災組織 | 8. 地域防犯活動団体 |
| 9. まちづくり協議会 | 10. スポーツチーム・スポーツ団体 |
| 11. 趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ | 12. その他の市民活動団体やNPO |

問7 問5で「1. 参加している」と回答した方におうかがいします。
 あなたが活動に参加した「きっかけ」と「活動が続けている理由」、それぞれについて、あてはまるものすべてに○印をつけてください。(「6.」のスペースが不足する場合は余白をご使用ください)

| 活動に参加したきっかけ | 活動が続ける理由 |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 活動に関心があった | 1. 活動が楽しいから |
| 2. 同じ関心を持つ人とのつながりがほしかった | 2. 人とのつながり・かかわりがあるから |
| 3. 地域とのかかわり・つながりがほしかった | 3. 地域とつながり・かかわりがあるから |
| 4. 自由な時間ができた | 4. メンバーが少ない等、活動をやめにくいから |
| 5. 参加を依頼された | 5. 義務づけられているから |
| 6. その他(具体的に:) | 6. その他(具体的に:) |

問8 問5で「2. 今は参加していないが、今後参加したいと考えている」または「3. 今は参加しておらず、参加したいと思わない」と回答した方におうかがいします。
 どのような条件があれば活動に参加しようと思えますか。
 あてはまるものすべてに○印をつけてください。

| |
|---------------------------------|
| 1. 特に必要な条件はない |
| 2. 活動に関する情報提供が充実する |
| 3. 誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気がある |
| 4. 仕事・家事をしながらでも参加しやすい曜日や時間帯への配慮 |
| 5. 仕事・家事をしながらでも参加可能な軽度の負担 |
| 6. その他(具体的に:) |
| 7. そもそも参加したいと思わない |

IV. コミュニティセンター・協議会についておうかがいします。

問9 あなたはコミュニティセンターを知っていますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| |
|--|
| 1. よく知っており、最寄りのコミュニティセンターもわかる |
| 2. コミュニティセンターがあることは知っているが、最寄りのコミュニティセンターはわからない |
| 3. コミュニティセンターの名前は知っているが、具体的な内容はわからない |
| 4. 全く知らない → 問12へお進みください |
| 5. その他(具体的に:) |

問 10 あなたはコミュニティセンターをどのように知りましたか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 近くを通りかかって | 2. 家族や知人・友人から聞いて |
| 3. 市の広報紙などをみて | 4. コミュニティセンター便りをみて |
| 5. ホームページをみて | 6. 掲示板を見て |
| 7. コミュニティセンターで開催されている催し物に来て | |
| 8. その他(具体的に: _____) |) |

問 11 今後コミュニティセンターはどのような役割・機能を果たすことが望ましいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、○印をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 市民や団体が連携・協力して「 <u>地域</u> 」のまちづくりを行うための拠点 |
| 2. 市民団体同士の交流拠点 |
| 3. 市民団体の活動拠点 |
| 4. 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場 |
| 5. 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場 |
| 6. 市民のためのイベントや行事が開催される場 |
| 7. 災害時の支援や子育て支援活動など、 <u>地域住民の生活を支援する拠点</u> (相談窓口としての機能) |
| 8. その他(具体的に: _____) |
| 9. わからない |

問 12 コミュニティセンターは、各地域のコミュニティ協議会により自主的に運営されています。今後のコミュニティセンターの運営やコミュニティ協議会のあり方に関する以下のような考え方についてどのように思いますか。①～④の項目ごとに、それぞれあてはまる数字1つに○印をつけてください。

| | そう思う | どちらかといえ ばそう思う | どちらかといえ ばそう思わない | そう思わない | わからない |
|--|---------|------------------|--------------------|---------|---------|
| ①運営主体であるコミュニティ協議会には地域住民が持ち回りで関与すべきである | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| ②コミュニティ協議会には市民だけではなく地域の団体も参画すべきである | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| ③コミュニティ協議会の運営は自主性にまかせ、行政は支援に徹すべきである | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| ④コミュニティ協議会が適切に活動できるよう行政はより積極的に関与すべきである | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |

V. 市民自治のあり方についておうかがいします。

武蔵野市の長期計画では、市民が主権者として、自らの生活地域について、自ら考え、主体的に行動し、その行動や選択に責任を負う「市民自治の原則」が掲げられています。よりよい地域づくりを行っていくためには、今後とも「市民自治」を進めて行くことが重要です。

問 13 あなたは、これまでに市民自治に参加する機会がありましたか。参加した形態すべてに○印をつけてください。

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 電話や来訪による提言・意見提出 | 2. 電子メールでの提言・意見提出 |
| 3. 市長や市役所宛の手紙による提言・意見提出 | 4. シンポジウムやフォーラムへの参加 |
| 5. 市が行うアンケート調査(意識調査等)の回答 | 6. パブリックコメントによる意見提出 |
| 7. ワークショップや市民会議への参加 | 8. 市民と市長のタウンミーティング |
| 9. 説明会や意見交換会への参加 | 10. 委員会や審議会などの公募委員 |
| 11. 市民活動団体・NPOへの参加 | 12. 自治協議会や町内会・自治会の設置・参加 |
| 13. 市議会議員の選挙 | 14. 市長の選挙 |
| 15. その他(具体的に: _____) | |
| 16. いずれにも参加していない | |

問 14 あなたは、今後、市民自治に積極的に参加したいと思いますか。参加したいと思う形態を3つ選び、望ましい形態の順番に、問 13 の該当する項目の番号を記入欄にお書きください。また、いずれの形態でも参加したいと思わない場合は、「99」をご記入ください。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
| | | |

問 15 市民自ら主体的に課題解決をするために、今後必要と思うことについて、あてはまるものをすべて選び、○印をつけてください。

| |
|---|
| 1. 市民が「地域」に愛着を持つこと |
| 2. 市民が地域の課題を「わがこと」と思う意識の向上 |
| 3. 地域住民間の交流の促進 |
| 4. 地域課題を共有し、協議する「場」の設置(自治協議会、町内会・自治会など) |
| 5. 地域の課題解決を行う地域活動団体・NPOへの参加促進 |
| 6. 地域活動の組織化を支援する仕組み |
| 7. その他 (具体的に: _____) |
| 8. わからない |

問 16 あなたは、市民自治において、行政との役割分担に関する以下のような考え方についてどのように考えますか。①～⑤の項目ごとに、それぞれあてはまる数字1つに○印をつけてください。

| | 賛成である | どちらかといえ ば賛成である | どちらかといえ ば反対である | 反対である | わからない |
|--|-------|-------------------|-------------------|-------|-------|
| ①地域の課題は地域で発見し、関係する市民や団体が協力して主体的に解決し、行政はそれを支援すべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②地域の課題は行政が主体的に解決し、市民や団体はそれをサポートする立場であるべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④行政から地域へ権限・財政等を移譲し、地域で決定・行動できる体制を構築すべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤過度に市民に責任と権限を拡充せず、行政・議会・市民の役割を明確にし、適切な分担を図るべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 17 その他、地域コミュニティや市民自治のあり方についてご意見があれば自由にご記入下さい。

※本アンケートにご回答頂いた皆様の中からご協力頂ける方を対象として、地域コミュニティや市民自治のあり方についてより深くご議論いただく場としての、グループインタビューを開催する予定です。グループインタビューは来年2月頃、2回程度の開催を予定しております。ご参加いただける場合には、大変お手数ですが下記に、ご連絡先等の記入をお願いいたします。別途、詳細についてご案内させていただきます（なお、多数の市民の皆さまからご協力のお申し出を頂いた場合には、ご参加いただけない可能性もございます。その際はご容赦下さい）

| | |
|--------|--|
| ご連絡先氏名 | |
| 住所 | |
| 電話番号 | |
| FAX 番号 | |
| E-mail | |
| URL | |

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

1-2. アンケート調査票（団体用）

武蔵野市
「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための
アンケート調査」ご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、武蔵野市では「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のためのアンケート調査」を実施することとなりました。

この調査は、市内で活動されている団体の皆様の地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状を把握し、今後の地域コミュニティのあり方、市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的に実施するものです。調査の実施にあたり市内で活動されている団体のうち、市で連絡先を把握している団体に対して調査票を送付させていただきました。

お答えいただいた内容は、厳重な管理を行ったうえで統計的に処理し、個別のご氏名等が外部に公表されることは一切ございませんので、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 10 月

武蔵野市長

邑上守正

<ご記入に当たってのお願い>

- ※ 本アンケートは、宛先の各団体の代表の方（もしくはその代理の方）がお答えください。
- ※ アンケート調査の回答は、当ではまる番号に○印をつけて頂くものが中心ですが、具体的な数字や記述をお願いするものもあります。各設問の指示にしたがってご記入下さい。

<個人情報のお取り扱いについて>

- ※ 集計等は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に委託して行います。
- ※ ご記入頂いたご回答・ご意見につきましては「●%、△件」等、集計した形でとりまとめ、個人が特定されるかたちで公表されることはございません。
- ※ また、ご記入いただいた情報は、アンケート調査内容の問い合わせやグループインタビューのご案内にのみ利用し、その他の用途には一切利用いたしません。
- ※ ご回答頂きました情報につきましては、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の「個人情報保護方針」及び「個人情報の取扱いについて」に基づいて、適切に取り扱います。
(<http://www.murc.jp/profile/privacy.html>)

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて（切手不要）、

平成24年11月5日（月）までに

ご投函くださいますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

武蔵野市役所 市民部 市民活動推進課 担当：白相、大橋

TEL：0422-60-1830（直通）

1. はじめに、貴団体の概要についてお尋ねします。

問1 以下の項目についてご記入下さい（F4、F5、F6についてはあてはまるもの1つに○印）

| | |
|---|---|
| F1. 団体名 | (ふりがな) |
| F2. 活動開始時期 | (西暦) _____年 _____月頃 |
| F3. 会員数 (具体的な数字を記入) | 個人会員数 _____人 団体会員数 _____団体 (正会員以外の会員も含めて概数をお答え下さい) |
| F4. 会員の年齢構成 (最も多い層を1つ選択) | 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上 |
| F5. 昨年度の年間予算 (あてはまるもの1つを選択) | 1. 100万円未満 2. 100万～200万円未満 3. 200万～500万円未満 4. 500万～1,000万円未満 5. 1,000万～3,000万円未満 6. 3,000万～5,000万円未満 7. 5,000万～7,000万円未満 8. 7,000万～1億円未満 9. 1億円以上 |
| F6. 昨年度の収入の中で全体に占める割合が最も大きかったもの (あてはまるもの1つを選択) | 1. 会費 2. 事業収入 3. 行政からの補助金 4. 行政からの業務委託費 5. 民間の助成金 6. 寄付金 7. 会費以外の個人負担 8. 借入金 9. その他(_____) |

問2 貴団体が活動を開始したきっかけは何ですか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| |
|---|
| <p>1. 問題意識のある人・興味や関心のある人が自然に集まって活動が始まった</p> <p>2. 特定の人(人々)が問題意識や関心を持って組織・サークルを立ち上げ、活動を開始した。</p> <p>3. 行政や他の組織から依頼されて団体を設立した</p> <p>4. 行政計画等で位置づけられていた</p> <p>5. わからない</p> <p>6. その他 (具体的に _____)</p> |
|---|

II. 貴団体の活動の状況についてお尋ねします。

問3 貴団体の性格について、あてはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 芸術・スポーツ等の同じ趣味をもつ人同士が交流を深め、活動をする団体
2. PTA や老人クラブなど、特定の属性を持つ人が集まり、コミュニティ醸成や活動する団体
(コミュニティ協議会含む)
3. 小学校区域内などの居住地域に近接する範囲で、様々なまちづくり活動等を行う団体
4. 特定の施設(公園等)を管理・運営する団体
5. 市域全域を対象として様々なまちづくり活動等を行う団体
6. 市内の様々な団体活動を支援する団体
7. その他 (具体的に)

問4 貴団体の会員はどのようなメンバーで構成されていますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 市内の特定地区に住む武蔵野市民のみ
2. 武蔵野市民のみ(武蔵野市全域)
3. 武蔵野市民(武蔵野市全域)又は武蔵野市に勤務する人
4. 武蔵野市民を主体とするが他市町村の住民も含む
5. 武蔵野市民は少なく、他市町村の住民が中心
6. その他 (具体的に)

問5 貴団体の活動の内容について、主なもの1つに○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツに関する活動 | 2. 音楽・美術・手芸等の文化に関する活動 |
| 3. 自然環境や景観の保全、緑化等に関する活動 | 4. 省資源・資源リサイクルに関する活動 |
| 5. 青少年の健全育成に関する活動 | 6. 学校教育に関する活動 |
| 7. 高齢者や障がい者に関する活動 | 8. 子育て支援に関する活動 |
| 9. 防災に関する活動 | 10. 防犯や交通安全に関する活動 |
| 11. 国際交流や国際理解に関する活動 | 12. 男女共同参画に関する活動 |
| 13. 消費者問題に関する活動 | 14. 地域の住環境に関する活動 |
| 15. 地域の産業振興に関する活動 | 16. 住民間のつながり・連携づくりに関する活動 |
| 17. 都市と農山漁村の交流に関する活動 | |
| 18. その他 (具体的に:) | |

問6 貴団体は、どのような場所や施設を使って活動していますか。現在利用している施設をすべて選び、○印をつけてください。

| | | |
|--------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 地域の中学校 | 2. 地域の小学校 | 3. 桜堤児童館 |
| 4. 各地域のコミュニティセンター | 5. 市内の公園 | 6. 保健センター |
| 7. 市民文化会館 | 8. 武蔵野公会堂 | 9. 武蔵野スイングホール |
| 10. 市民会館 | 11. 武蔵野市国際交流協会 | 12. 市内の図書館(プレイスを除く) |
| 13. 武蔵野プレイス | 14. ボランティアセンター武蔵野 | 15. 各在宅介護支援センター |
| 16. テンミリオンハウス | 17. かたらいの道市民スペース | |
| 18. その他の市の施設(具体的に: | |) |
| 19. 他都市の公共施設(具体的に: | |) |

問7 貴団体が活動を立ち上げる際に課題だったことは何でしたか。特に課題だと感じたことについて3つまで選び、○印をつけてください。

| | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 活動拠点となる場の確保 | 2. 活動に必要な設備や機器の確保・充実 |
| 3. 活動内容や活動方針の決定 | 4. 活動資金の確保 |
| 5. 活動参加メンバー確保 | 6. 周囲の理解や協力 |
| 7. 団体活動立ち上げのノウハウがない | |
| 8. その他 (具体的に |) |
| 9. 特に課題はない | |

問8 貴団体が活動を継続する上で課題だったことは何でしたか。特に課題だと感じたことについて3つまで選び、○印をつけてください。

| | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 活動拠点となる場の確保 | 2. 活動に必要な設備や機器の確保・充実 |
| 3. 活動規模や活動範囲の拡大 | 4. 活動資金の確保・充実 |
| 5. 活動コストの削減 | 6. 新規参加メンバーの確保 |
| 7. 運営体制の強化 | 8. 活動の周知・広報の徹底 |
| 9. 活動内容の固定化の解消 | 10. 世代間交流・世代交代の促進 |
| 11. 他の団体との連携・ネットワークの拡大 | 12. 資金や場所等の各種情報の入手 |
| 13. 行政による協力や理解 | |
| 14. その他 (具体的に |) |
| 15. 特に課題はない | |

Ⅲ. 地域との関わりについてお尋ねします。

問9 貴団体では、過去3年間で参加メンバーの人数に変化はありましたか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|---------|---------|------------|
| 1. 増加した | 2. 減少した | 3. 特に変化はない |
|---------|---------|------------|

問10 貴団体では、参加メンバーの増加に向けて何か取り組んでいることがありますか。あてはまるものをすべて選び、○印をつけてください。

| | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 特に何もしていない | 3. 市民が参加するイベント等に出展している |
| 2. 市民向けに団体紹介の機会を設けている | 5. 活動時間や活動場所に配慮している |
| 4. ホームページ等で募集している | |
| 6. その他() | |

問11 貴団体では、市内で活動している他の団体・組織（行政を除く）と協力や連携をしたことがありますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|-------------|---|-------------|
| 1. ある | ▶ | 問12へお進みください |
| 2. ない | ▶ | 問13へお進みください |

問12 問11で「1. ある」と回答した団体にお伺いします。具体的にどのような団体と連携を行いましたか。連携した団体の名称をすべてご記入下さい（欄が不足する場合は余白等をご利用ください）。

| | |
|---------|---------|
| 団体名①() | 団体名②() |
| 団体名③() | 団体名④() |

問13 貴団体では今後、市内で活動する団体との協力・連携を深めたいと考えていますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|----------|-------------|----------------|
| 1. 考えている | 2. 今後考えてみたい | 3. 現時点では考えていない |
|----------|-------------|----------------|

Ⅳ. コミュニティセンターについてお尋ねします。

※以下、コミュニティ協議会の方は、問20までお進みください（問14～19にご回答頂く必要はございません）

問14 貴団体ではコミュニティセンターを知っていますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|----------------|---|-------------|
| 1. 知っている | ▶ | 問15へお進みください |
| 2. 知らない | ▶ | 問20へお進みください |

問 15 問 14 で「1. 知っている」と回答した方におうかがいします。貴団体ではコミュニティセンターを利用したことがありますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|------------------------|--------|---------------|
| 1. 利用している |▶ | 問 16 へお進みください |
| 2. 利用したことはない |▶ | 問 18 へお進みください |
| 3. 利用したことがあるが今は利用していない |▶ | 問 19 へお進みください |

問 16 問 15 で「1. 利用している」と回答した方におうかがいします。過去1年間での利用頻度について、あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | | |
|--------------|------------|------------|
| 1. 年に1回以下 | 2. 年に数回ぐらい | 3. 月に1回ぐらい |
| 4. 月に2、3回ぐらい | 5. 週に1回ぐらい | 6. それ以上 |

問 17 問 15 で「1. 利用している」と回答した方におうかがいします。利用した内容についてあてはまるものをすべて選び、○印をつけてください。

| | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 団体内での会議の場所として | 2. その他の団体等との会議の場所として |
| 3. 団体の活動の拠点として | 4. 団体で実施したイベント等の開催場所として |
| 5. その他(具体的に:) | |

.....▶ 問 20 へお進みください

問 18 問 15 で「2. 利用したことはない」と回答した方におうかがいします。今後の利用意向について、あてはまるもの1つに○印をつけてください。

| | |
|------------------|-------------------|
| 1. 今後積極的に利用してみたい | 2. 機会があれば利用を検討したい |
| 3. 特に利用したいとは思わない | 4. わからない |

.....▶ 問 19 へお進みください

問 19 問 15 で「2. 利用したことはない」「3. 利用したことがあるが今は利用していない」と回答した方におうかがいします。利用していない、あるいは、利用をやめた理由についてあてはまるものをすべて選び、○印をつけてください。

| 利用したことがない理由 (「2. 利用したことがない」を選んだ方) | 利用をやめた理由 (「3. 利用したことがあるが今は利用していない」を選んだ方) |
|--------------------------------------|---|
| 1. ニーズにあった部屋や設備がないから | 1. ニーズにあった部屋や設備がないから |
| 2. 特定の団体しか利用できないと思っていたから | 2. 窓口や電話の対応が不十分だから |
| 3. 利用したい時間帯に会議室等が予約できないから | 3. 利用したい時間帯に会議室等が予約できないから |
| 4. コミュニティセンターの立地場所が不便だから | 4. コミュニティセンターの立地場所が不便だから |
| 5. 利用可能要件に該当しないから | 5. 利用可能要件に該当しなくなったから |
| 6. コミュニティセンターの利用方法が煩雑だから | 6. コミュニティセンターの利用方法が煩雑だから |
| 7. その他(具体的に:) | 7. その他(具体的に:) |

.....▶ 問 20 へお進みください

問 20 今後コミュニティセンターはどのような役割・機能を果たすことが望ましいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、○印をつけてください。

1. 市民や団体が連携・協力してまちづくりを行うための拠点
2. 市民団体同士の交流拠点
3. 市民団体の活動拠点
4. 市民が地域の様々な団体を知り、参加につながる機会を提供する場
5. 市民が気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場
6. 市民のためのイベントや行事が開催される場
7. 災害時の支援や子育て支援活動など、地域住民の生活を支援する拠点(相談窓口としての機能)
8. その他(具体的に: _____)
9. わからない

V. 市民自治についてお伺いします。

武蔵野市の長期計画では、市民が主権者として、自らの生活地域について、自ら考え、主体的に行動し、その行動や選択に責任を負う「市民自治の原則」が掲げられています。よりよい地域づくりを行っていくためには、今後とも「市民自治」を進めて行くことが重要です。

問 21 貴団体の活動や成果は、団体に参加している方だけではなく、団体に参加していない方へも役立っていると感じることがありますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。また、そう思う理由についてもご記入下さい。

1. 団体に参加している人には役立っている(満足感を得ている)
2. 団体に参加している人だけではなく、参加していない方へも役立っている
3. わからない

.....→

問 22 各団体も主体的に課題解決に参加していく市民自治を実現するために、今後必要な取組についてあてはまるものをすべて選び○印をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 市民が地域の課題を「わがこと」と思う意識の向上 | 2. 関係する団体の交流の促進 |
| 3. 行政と団体の連携・協働の仕組みの構築 | 4. 地域問題の協議の場の設置 |
| 5. 団体活動への人的・財政的支援 | 6. 活動団体づくりへの支援 |
| 7. コミュニティを支援する組織づくり | 8. 活動拠点の確保 |
| 9. 団体活動の高度化・専門化 | |
| 10. その他 (具体的に: _____) | |
| 11. わからない | |

問 23 あなたは、市民自治において、行政との役割分担に関する以下のような考え方についてどのように考えますか。①～⑤の項目ごとに、それぞれあてはまる数字1つに○印をつけてください。

| | 賛成である | どちらかといえば賛成である | どちらかといえば反対である | 反対である | わからない |
|--|-------|---------------|---------------|-------|-------|
| ①地域の課題は地域で発見し、関係する市民や団体が協力して主体的に解決し、行政はそれを支援すべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②地域の課題は行政が主体的に解決し、市民や団体はそれをサポートする立場であるべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③地域の課題は行政と市民・団体が連携・協働して解決にあたるべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④行政から地域へ権限・財政等を移譲し、地域で決定・行動できる体制を構築すべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤過度に市民に責任と権限を拡充せず、行政・議会・市民の役割を明確にし、適切な分担を図るべきである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 23 その他、地域コミュニティや市民自治のあり方についてご意見があれば自由にご記入下さい。

※本アンケートにご回答頂いた皆様の中からご協力頂ける方を対象として、地域コミュニティや市民自治のあり方についてより深くご議論いただく場としての、グループインタビューを開催する予定としています。グループインタビューは来年2月頃、2回程度の開催を予定しております。ご参加いただける場合には、大変お手数ですが下記に、ご連絡先等の記入をお願いいたします。別途、詳細についてご案内させていただきます（なお、多数の団体からご協力のお申し出を頂いた場合には、ご参加いただけない可能性もございます。その際はご容赦下さい）

| | |
|--------|--|
| 貴団体名 | |
| ご連絡先氏名 | |
| 住所 | |
| 電話番号 | |
| FAX 番号 | |
| E-mail | |
| URL | |

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

平成 24 年度
「これからの地域コミュニティと市民自治の
検討のための基礎調査」報告書

平成 25 年3月発行

【発行】

武蔵野市市民部市民活動推進課
〒180-8777
東京都武蔵野市緑町2丁目2番 28 号
電話 0422-60-1830
FAX 0422-51-2000
E-mail sec-katsudou@city.musashino.lg.jp